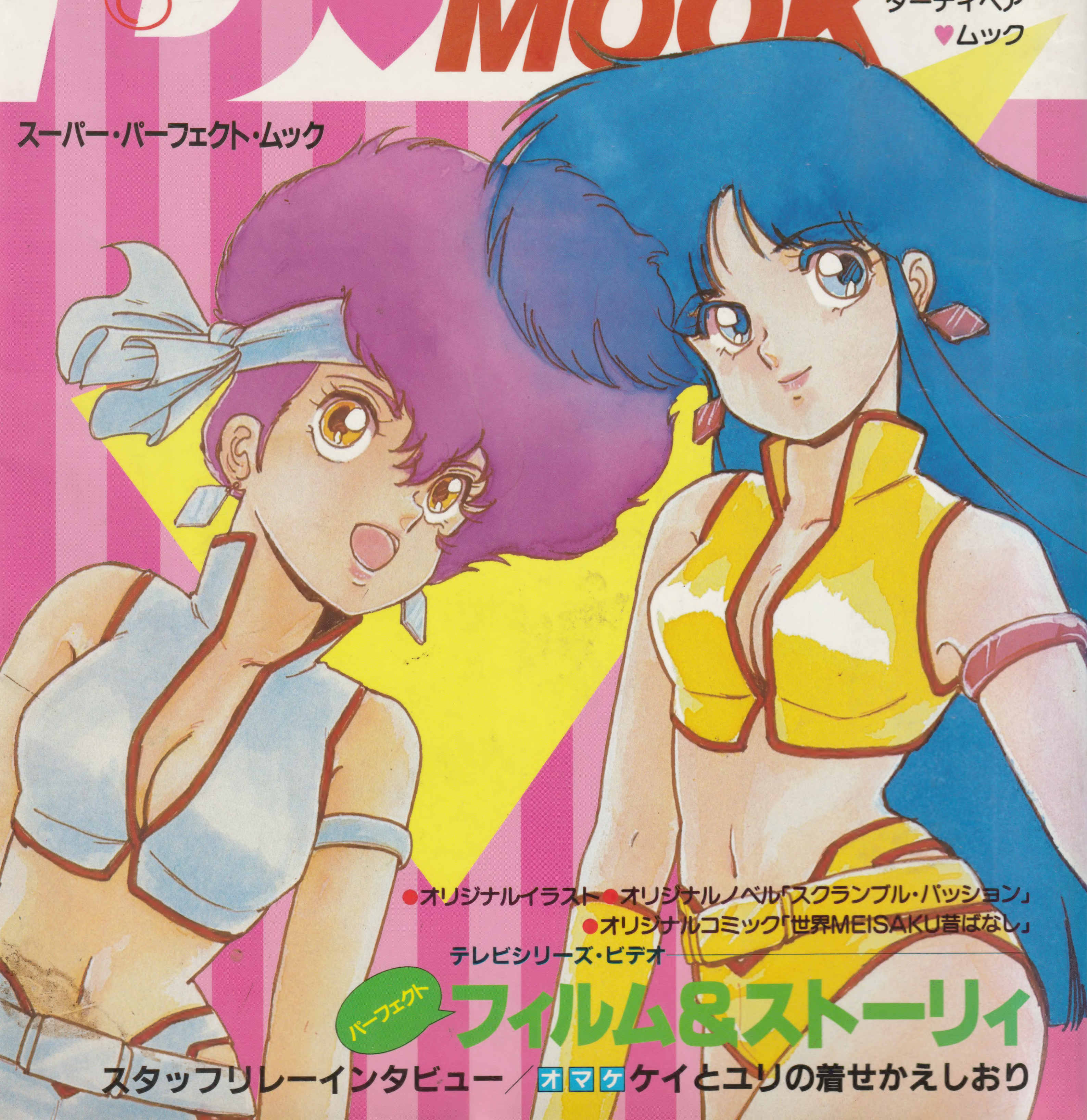
アニメイト・コレクション②

DIRTY PAIR ♥ MOOK

ダーティペア DIRTY PAIR

ダーティペア♥ムック

スーパー・パーフェクト・ムック



●オリジナルイラスト●オリジナルノベル「スクランブル・パッション」
●オリジナルコミック「世界MEISAKU昔ばなし」

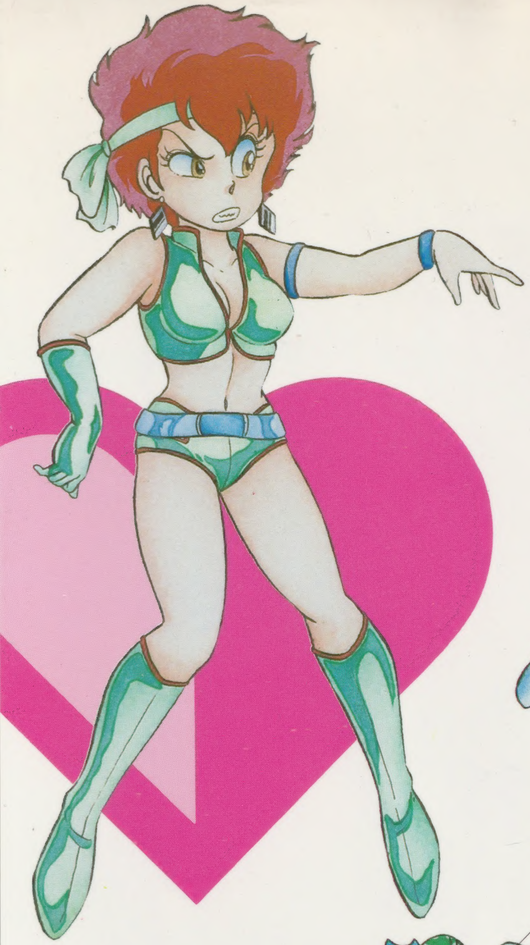
テレビシリーズ・ビデオ

パーフェクト フィルム&ストーリィ

スタッフリレーインタビュー／オマケ ケイとユリの着せかえしおり

ILLUSTRATION●影次(えいじ) ケイ

KEIの着せかえしおり









ケイ data

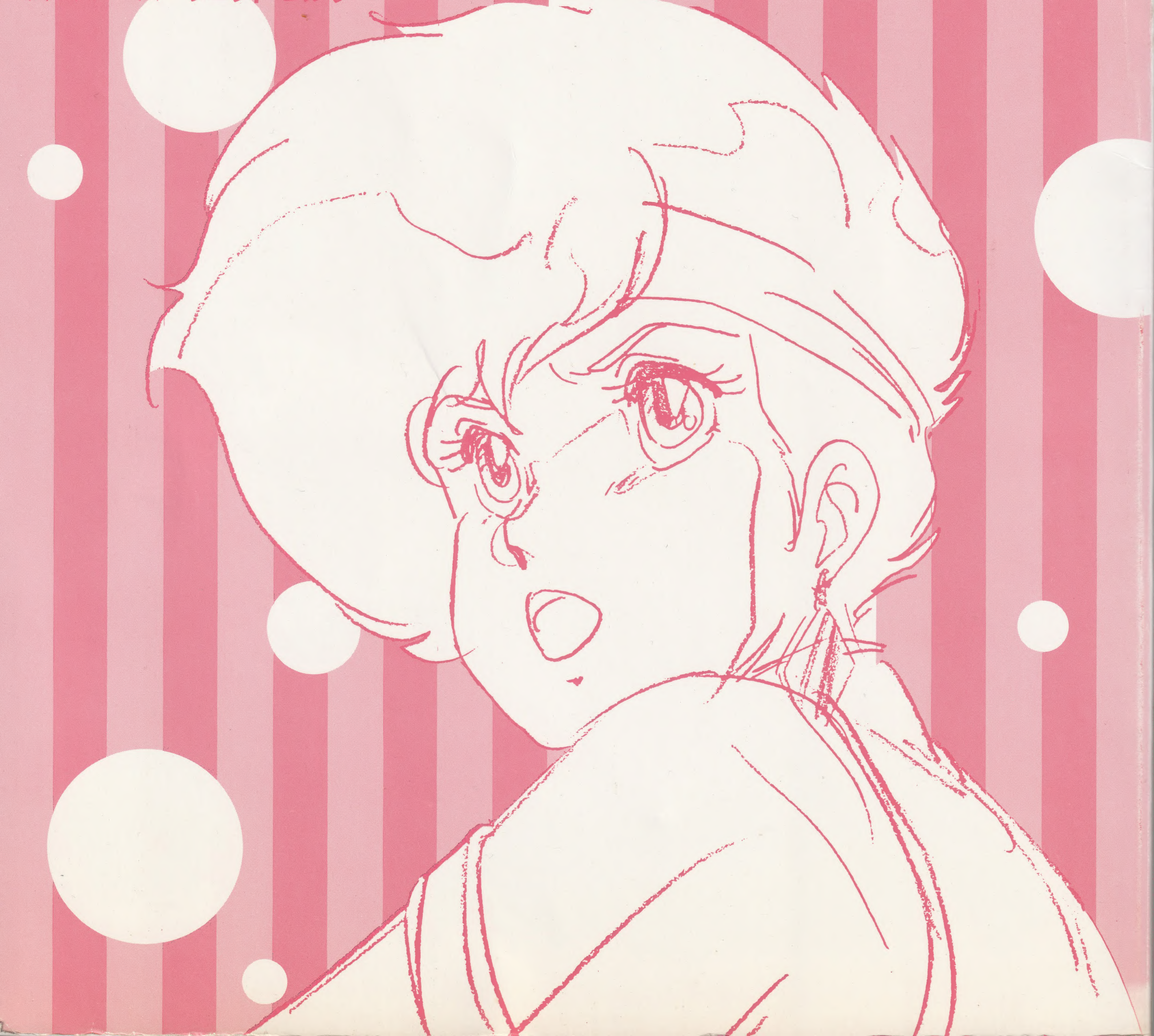
2121年11月27日、惑星ニオーギ生。19歳。射手座。血液型A型。身長171㎝・体重58kg。B85・W57・H91㎝。

アニメイト・コレクション②

DIRTY PAIR ♥ MOOK

ダーティペア
♥ムック

スーパー・パーフェクト・ムック




DIRTY PAIR MOOK
ダーティペア
DIRTY PAIR
ダーティペア
DIRTY PAIR

ILLUSTRATION
靏山 修
OSAMU-TSURUYAMA



ILLUSTRATION
鶴山 修
OSAMU-TSURUYAMA

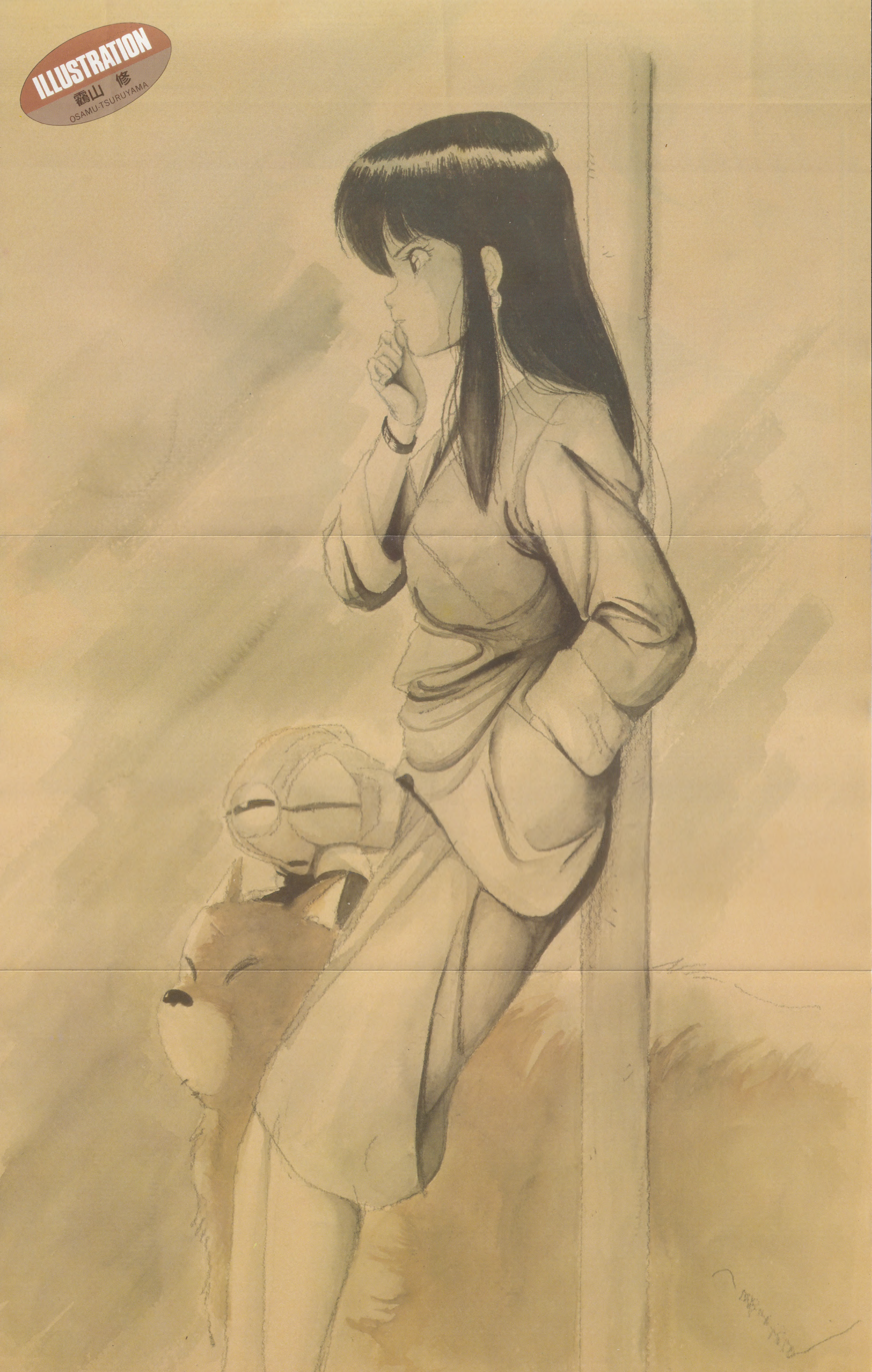
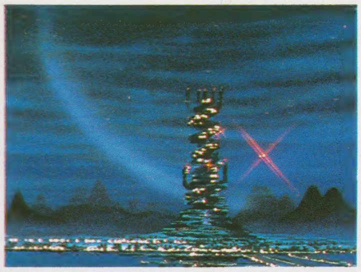



ILLUSTRATION
榎本 明広
AKIHIRO-ENOMOTO



2突然、エアコンが狂って私ははね起きたのだ



1ここはエレノアシティのダモクレスタワー

第1話 コンピューターの殺し方教えます

FILM&STORY

グーリー　君達はいったい何をやっていたんだ。一晩中、どなっておるんだぞ。おい、聞いているのか／ケイ、ユリーこら／

ユリ　ほら、ケイ。グーリー主任よ。

ケイ　わたしゃもう寝るよ。

ユリ　もう、知らないから…。ねえ、ケイ。第一話でしょ、あたしたちの紹介をしなくていいの?

ケイ　ふあ〜。ユリ、あんたやっといて。あたしはバカなコンピューターと付き合って、疲れたの。

ユリ　ねえ、ブライアンがあたしの方がいい女だって結果を出しているわよ。それでもいいの。

ケイ　なに〜っ、そんなはずがない／うちがユリより劣るわけないでしょ／

ユリ　苦しい…。うっ、嘘に決まっているでしょ。ブライアンはあの答えを出す前に、あんたが宇宙船をワープさせてぶっこわしたんじゃないの

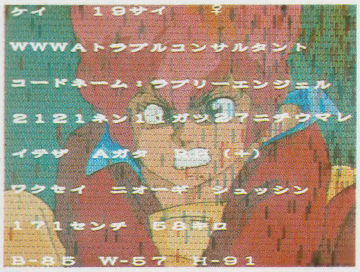
ケイ　……。

ユリ　という訳で、美しいユリとたくましいケイが活躍する「ダーティペア」を、よろしくね。

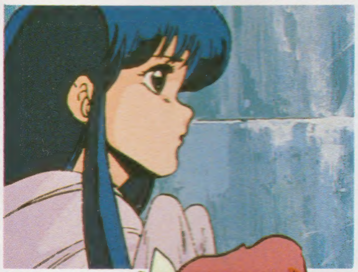
ケイ　誰がたくましいって?えっ?



4ブライアン＝管理コンピューター寒いわよ

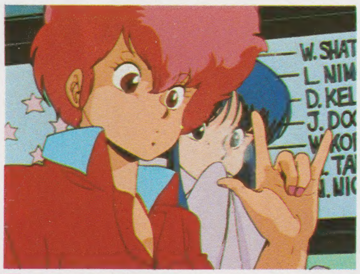


3ブライアンが私たちを監視してたの

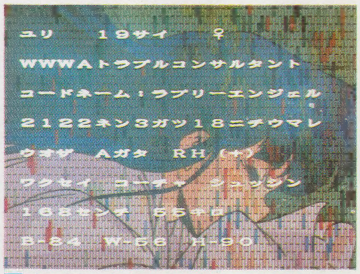




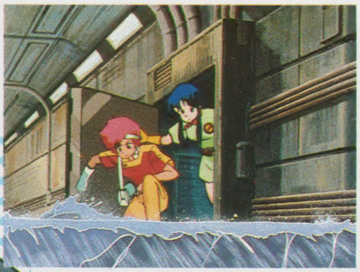
7キャア〜、モニターが爆発したわ！



6ムギ、いいところにいた…暖めさせて



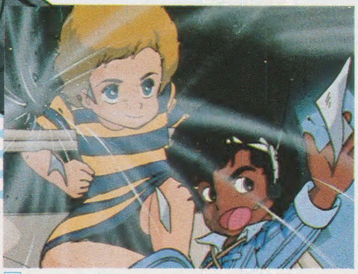
5ブライアンたらこんな格好の時に紹介して…



9廊下は水浸しだし、ひどいもんね



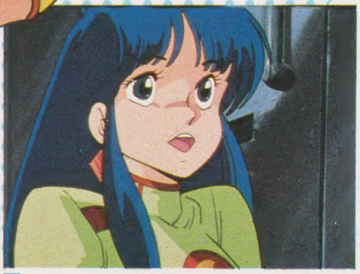
8これがブライアンのあるタワーの管理者さん



10この子らが私たちをオバサンと呼んだガキ



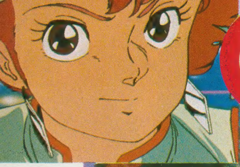
11私たちの方が助けがいるって？かわいくない！



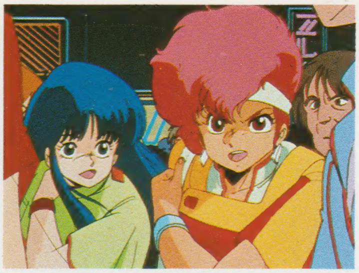
13せっかく美形に会えたのに…行かなくっちゃ



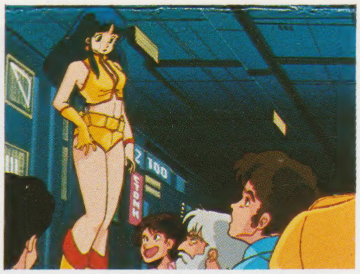
12ウフフ、あたしのおしりを触った美形の男



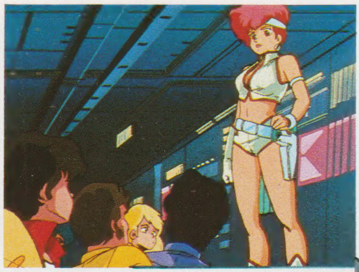
DIRTY PAIR



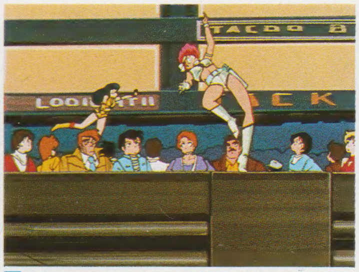
14いよいよ私たちの出番が来た



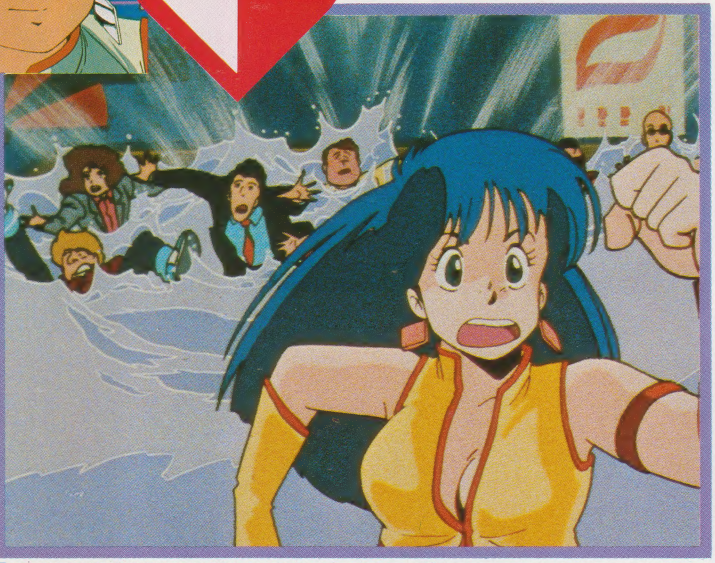
15ＷＷＷＡ所属！



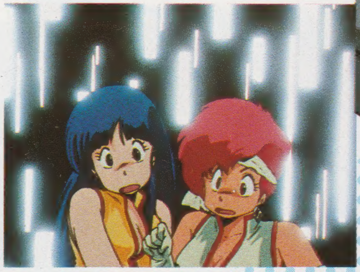
16ラブリーエンジェル！ってキメた



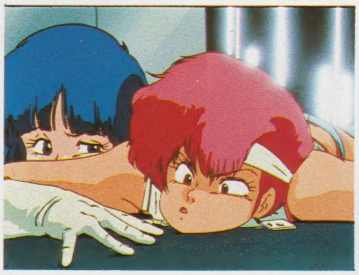
17けど、メジャーな方の名前でないとダメね



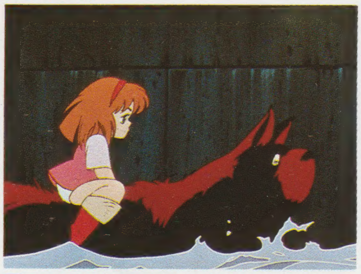
18なんてバカな事をやってる間もなく私たちは大ピンチに陥ったの



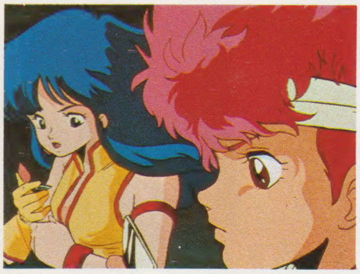
19この事件を解決するため私たちは動き出した



20エレベーターが上昇し…ケイの胸なら安心よ



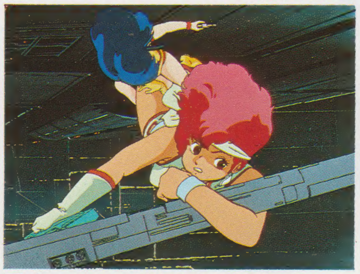
21で、ムギは主人の危機も知らないで人助け



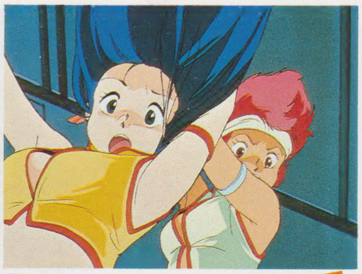
22私たちは屋上に出てしまったの…



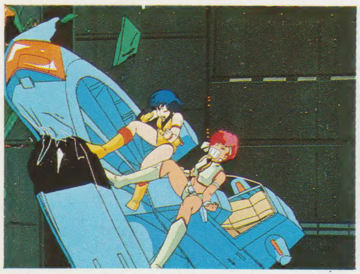
23ムギ、早くＬ．Ａ号を持って来てよ…



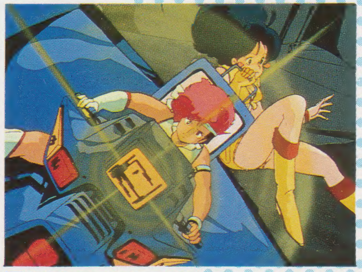
24ブライアンの反撃に私たちは危機一髪



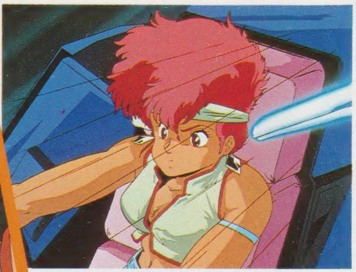
25速度が落ちない！



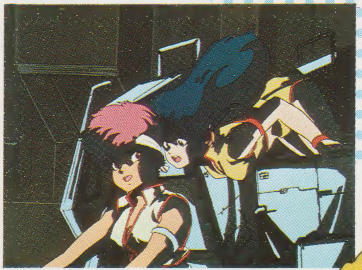
26ふう～む！なんとか着地に成功！



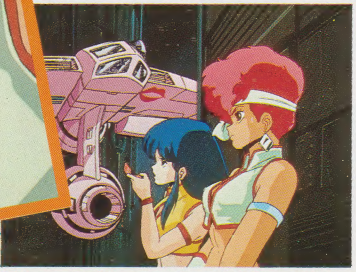
27私たちはエアカーを直して…



28ブライアンの偵察機を巧みにかわした



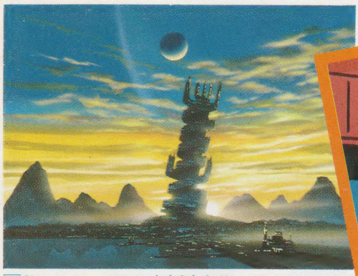
29焼却炉を使う？ケイの考えなし！



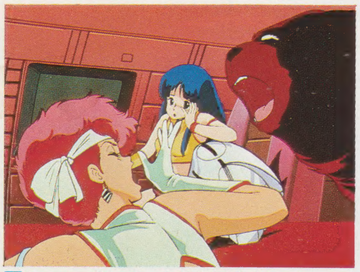
30そこへラブリーエンジェル号がやってきた



31ケイが頭に血を登らせてワープ作戦を…



32私たちＬ．Ａは無事(？)事件を解決した…

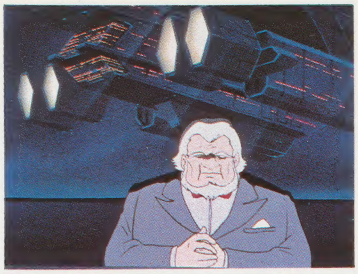


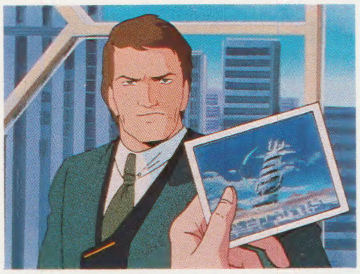
33ケ～イ、グーリー主任から呼び出しよ…

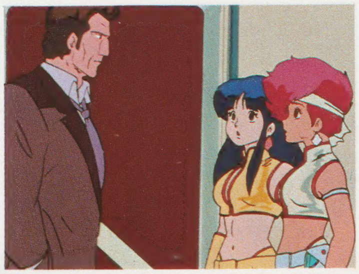
第2話 可愛い天使は胸毛がお好き？

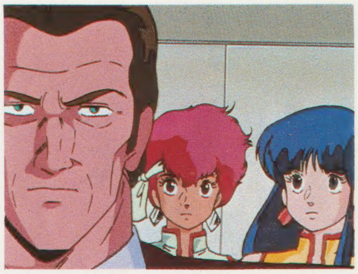
職員　主、主任／今の連絡は？ま、まさか失敗したのでは？
グーリー　コスモプレーン社のテニアン号事件は無事解決した、彼女たちの力でな…。
職員　へぇ～。ダーティペアがねぇ～。
グーリー　ラブリーエンジェルだ！
職員　はい、はい…。
ユリ　グレーブさんって、なかなか素敵だったじゃない？
ケイ　まあね、胸毛生えてなかったからね…。でもさ、あの口のきき方好きくないな。
ユリ　でも、さっきは可愛かったじゃない？赤くなったりして。
グーリー　おまえら、病室の前で何をしゃべっているんだ？
ケイ　あっ、主任。も、もちろん勇敢な先輩の功績について、ですわ。
グーリー　どうせ、おまえらの事だ…まあ、いい。今回は乗客を全員助け、宇宙船も無事着陸させたのだからな。いや、実にクリーンな仕事だったな。
ユリ　あら、あたしたちはいつもクリーンなお仕事しているじゃないですか？
グーリー　そ、そうだな…。
ケイユリ　休暇とボーナスの方もよろしく！

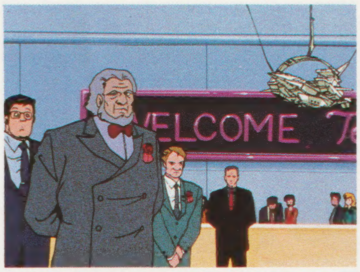

1 コスモプレーン社の宇宙船に事故が多発

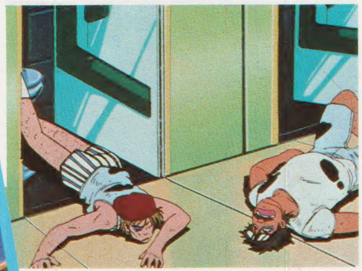

2 頭にきた会長はWWWAに捜査を依頼してきた

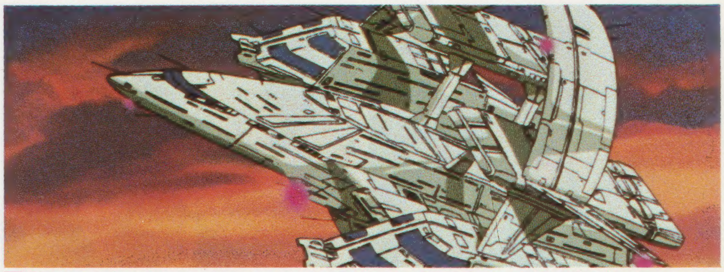

3 主任は前回の事件の事でおかんむり

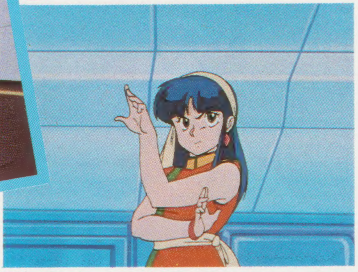

4 おじさんと組む事に…

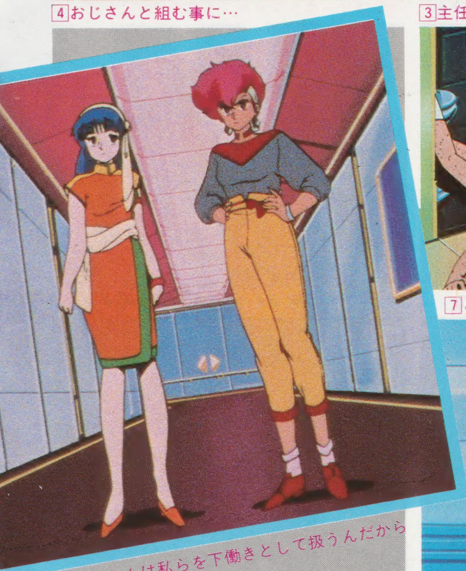

5 こんな嫌みな奴、絶対胸毛生えている！

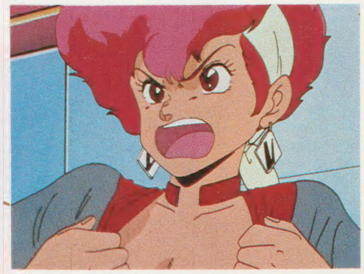

6 私らを信じてコスモ社は宇宙船を飛ばした

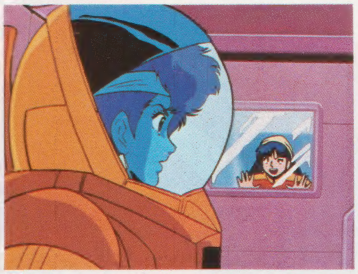

7 ところが悪い奴らがもう忍び込んでいた


8 何百人の乗客と私らとおじさん、それに悪い奴らを乗せてテニアン号は飛び立った

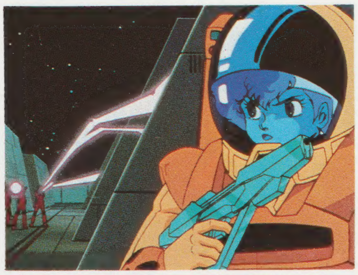

9 ユリはすっかり乗客になりきりっこ、くそー

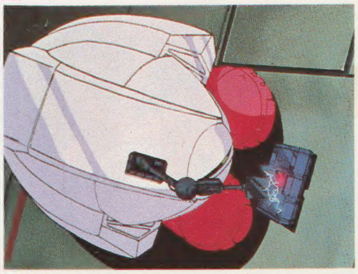

10 おじさんは私らを下働きとして扱うんだから

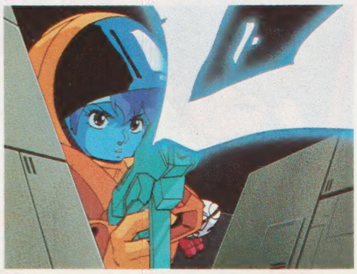

11 ぜぇ～たい、あいつ胸毛生えてる！

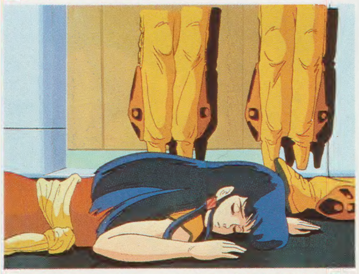

12 私はおじさんを無視して船外へ出ようとした

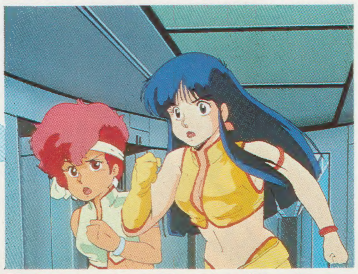

13 船内のガキの挨拶に答えるこの余裕

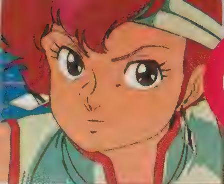

14 予感的中、敵は船外に爆弾を仕掛けていた


15 爆弾はナンモに任せて、あたしは敵と銃撃戦


16 でもちょっと分が悪かった、ユリ救援お願い


17 でも役立たずのユリは敵に殴られ気絶してた

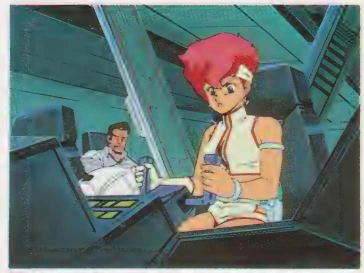

18 倒れたおじさんの所へ私らは向かった



DIRTY PAIR



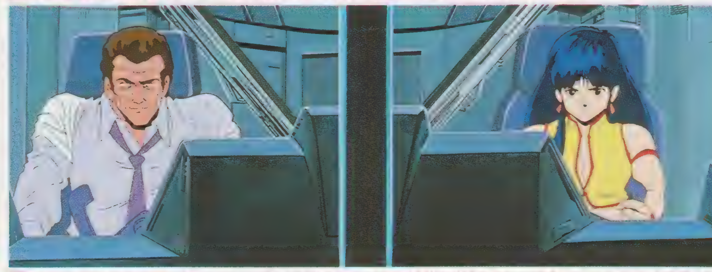
21 ところが逆噴射装置もパー、あたいはナンモと故障地点へ、結局、あたいって現場向きなのね



20 自動操縦が効かない!?ハン私の腕の見せ所よ



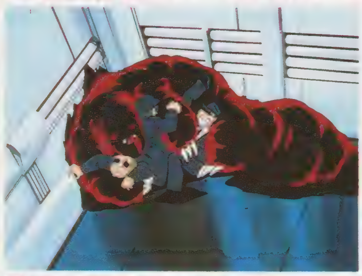
19 危険な船から乗客を逃して…ブリッジへ



22 ユリ、おじさんがんばってよ。ドルメドシティに宇宙船が落ちたら、ダーティペアの名前が…



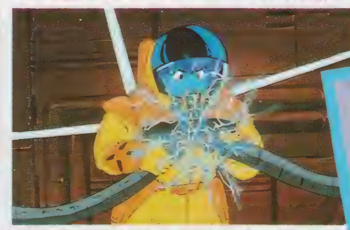
26 ちょっと荒っぽかったけど胴体着陸に成功



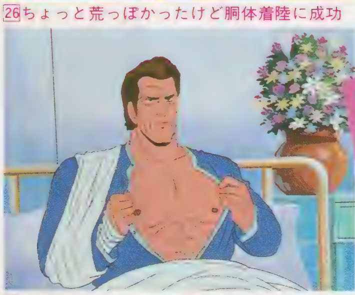
25 ムギも犯人を押さえていてくれた



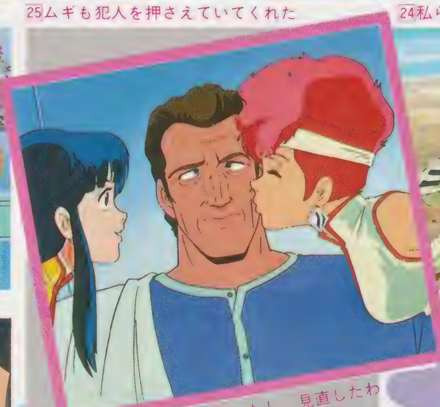
24 私らの迫力におじさんもびびりっ放しなのだ



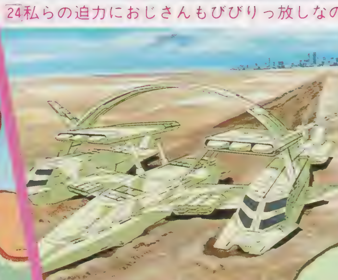
23 必死の思いで私は高圧ケーブルを継いだ



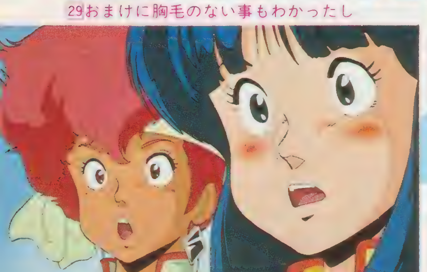
29 おまけに胸毛のない事もわかったし



28 おじさんも結構頑張ったし、見直したわ



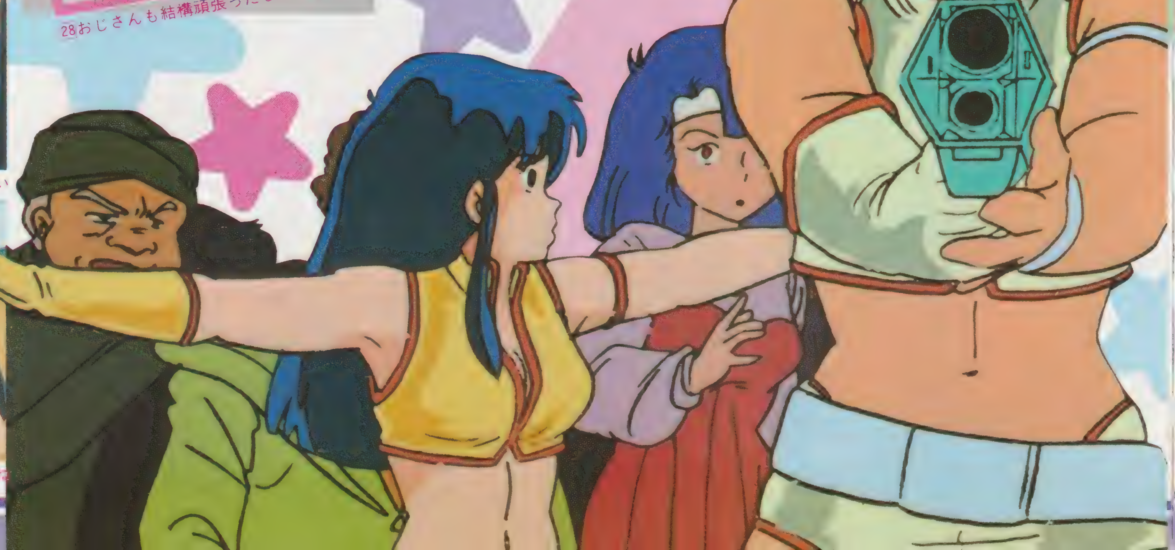
27 街も船も救ったのだ、やったね



30 おじさんなかなかかわいいとこあるじゃない



31 今度機会があったら、また仕事しましょうね



第3話 勝手に惚れな! 恋はロシアンルーレット

FILM&STORY

ケイ　ユリ、3万クレジットもすっちゃって、あたし知らないからね…。
ユリ　いいじゃない。おかげで、キングに近づけたんだから。
ケイ　でもさ、主任が認めるわけないじゃない。ブラックジャック1回で3万なんて。
ユリ　…あのおじさま、なかなか渋くて素敵だったわ。
ケイ　あのね〜。あいつが何やったか覚えていないの?うちらをギガンテス・ザ・栗太郎とかいうバケ物と戦わして…、やめた。とにかく、たかが一枚のチップのために、何であたしたちがこんな目に合わなきゃいけなかったのよ?
ユリ　でも、結局取り戻せたんだからいいじゃないの。
ケイ　そうね、それよりかわいそうなのはシドニーかもね。4年もあの屋敷にいて、骨折り損だもんね。
ユリ　惚れたな、おぬし。
ケイ　惚れてなんかいないわい。あんなやる事がいちいちくさい男なんか…。
ユリ　無理しちゃって…。
ケイ　無理してないってば!


1 ゴーレムのチップを求めて今日も盗賊が…


2 おばばが私たちの登場を予言した…


3 仕事で休暇を取り消されて、ケイは怒ってた


4 ケイの荒い運転に、ナンモとムギはいい迷惑


5 カジノで声を掛けた男にちょっとブリッ子


6 ケイったら野暮な男に迫って…趣味を疑うわ


7 私好みのキングにブラックジャックで挑戦


8 キングは予定通りえさに食いついてきた


9 招かれたのはいいけど運転が…


10 シドニーって何者?武器を見逃してくれるなんて


11 キングは私達を賭の道具にするつもりみたい

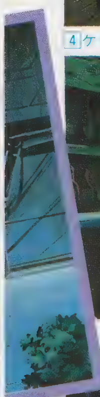

12 キャー、逞しい男はケイの管轄よ。任せたわ


13 ケイは強い娘!


14 ケイでも歯が立たないの?

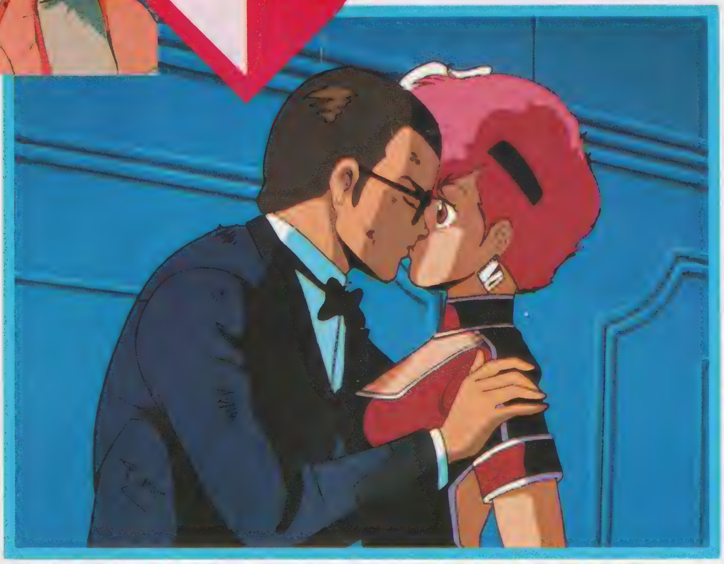

15 あ〜ん、こっちに来なくてもいいのに…


16 ハンディを貰っても、気絶させるのがやっと





DIRTY PAIR



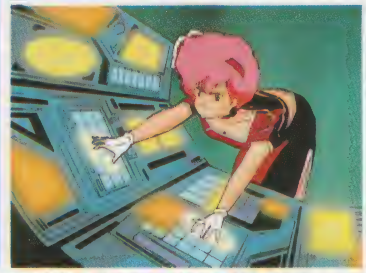
21 自爆装置を制御するために制御室に向かったシドニーはケイに迫ったの…まあ大胆



18 えー、シドニーって私たちの仲間だったの？



17 キングもちょっとは焦りだしたようね



20 融合炉を止めたら自爆装置が作動しちゃった



19 防ぐ敵を倒したの



25 相変わらずのクサイ芝居には参ったわね



24 盗んだチップを取り返させて貰ったわ



23 シドニーを捕まえたの



22 空港で私たちは待ち伏せして…



26 チップを取り替えて去ろうってのは甘いわよ



27 赤くなって…ケイはあのタイプに弱いのよね



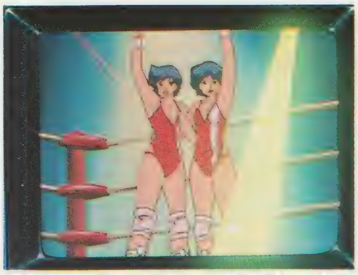
28 ラブリーエンジェルの方が一枚上手なの

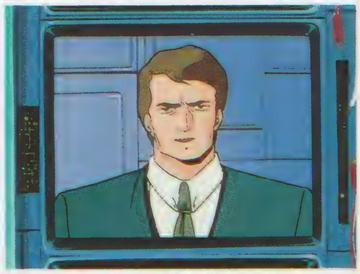


第4話 追跡はチーズケーキと死のにおい

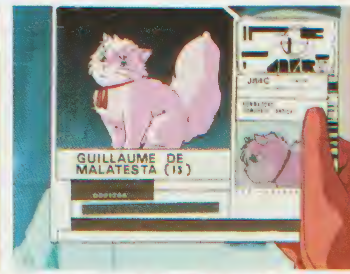
ロミオ　ジュリエッタ、いいかげんに機嫌を直しておくれよ。あいつらは僕に何にも関係がないんだから。ね、お願いだから。
ジュリエッタ　二人よ…二人も、なんでもないの にあんな風に来るわけないじゃないの。
ロミオ　本当に知らないんだってば。信じておくれよ。お願いだよ、ジュリエッタ。
ジュリエッタ　本当?今度こそ信じて良いのね? 今度何かあったら絶対に離婚よ。
ロミオ　ああ～ジュリエッタ、君を裏切ったりするもんか。だから、一生僕から離れないでおくれ。
ジュリエッタ　ロミオこそ私に飽きたりしないでね。
ロミオ　バカだな～、そんな僕の両腕は君を抱き締めるためだけにあるんだよ。
ジュリエッタ　あたしの両足はあなたについていくためにあるのよ。
ロミオ　ねえオフロに入って指相撲をしようよ。
ジュリエッタ　いやん、あなたから入って…。
ロミオ　は～い。
ユリ　あのマラテスタとかいうヘンな猫にはまいったわね。おかげで、あの夫婦には悪いことしちゃったみたい…。
ケイ　あたしとしてはファンだったザ・エレガンスに裏切られた事の方が悲しいわよ。


1 あたいって女子プロレスが好きなんだよね

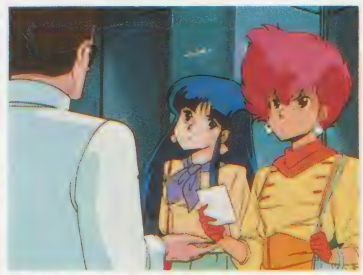

2 青春よね…ザ・エレガンスは無敵なのだ


3 そこにグーリー主任が割り込んで来て


4 ユリのブリッ子が主任の逆鱗に触れて…



5 マラテスタって猫を捜せだって

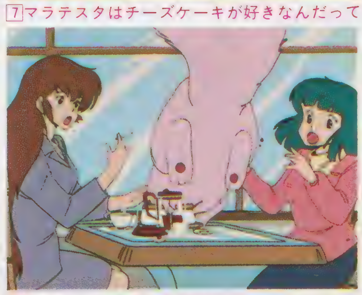

6 細菌科学研究所の研究者てのがまたアナクロ

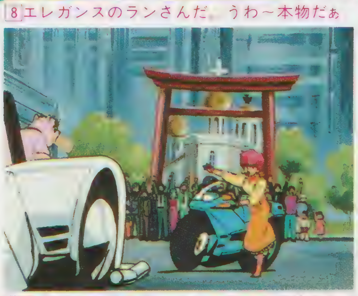

7 マラテスタはチーズケーキが好きなんだって


8 エレガンスのランさんだ。うわ～本物だぁ

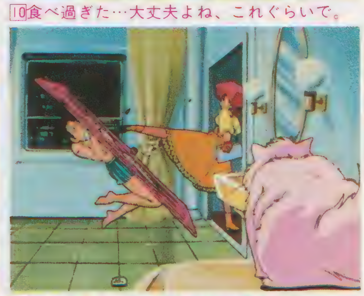

9 ただ猫を待って、ユリはムギと和風喫茶に…


10 食べ過ぎた…大丈夫よね、これぐらいで。


11 あーっ、マラテスタだ！


12 逃がすもんですか。ユリ、こっちに出たわよ


13 ブリッ子の新婚にマラテスタはついていった


14 マラテスタ！どこ!?隠れても無駄よ


15 あ～、間一髪。惜しい。新婚さん失礼


16 ユリまで新婚さんの部屋へ行ったの


17 まじいな、絶対あの奥さん誤解しちゃったよ


18 ムギも別行動でマラテスタを捜してるらしい


19 ユリと合流したんだけど、後ろに怪しい車が


20 マラテスタは毛髪銀行へ入り込んだの



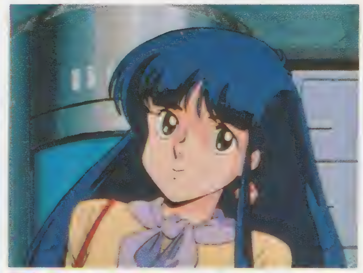




DIRTY PAIR



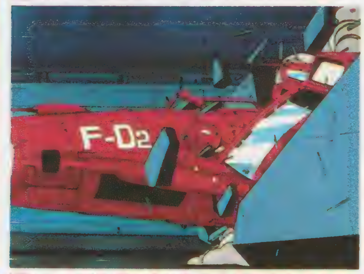
23あによー、こいつらラブリーエンジェルを知らないの。さっさと扉を開けなさい！



22金庫の中を見せてって迫ったんだけどダメ



21ユリのブリッ子で言いくるめて銀行内部へ



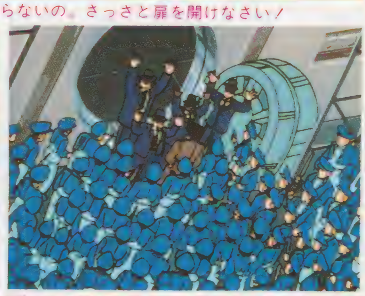
25ところが金庫の中に地下鉄が突込んできた



24ギャーギャー騒しい銀行員ね



29パトカーを奪取してマラテスタを追うのだ



28いつの間にか集まった警官をごまかして脱出



27ラブリーエンジェルを甘くみるんじゃないよ



26先の怪しい車に乗ってた奴らの仕業ね



32ユリもなかなかやるじゃないの



31まさか大好きなザ・エレガンスと戦うとは



30男達の黒幕はザ・エレガンス⁉



34あ、こんなとこにケーキくわえた本物が…



33捕まえたのに偽物だってぇ⁉



35ムギ、よくやった



FILM & STORY

第5話 クリアドスのどっくんどっくん！

ユリ　ケイの薄情者〜。なんで、あたしをこんなところに置き去りにしていくのよ〜。
ケイ　わたしはね、デートで忙しいの。遅れちゃったから、急いで『アンタレスのカフェフラミンゴ、7番テーブル』に行かなくっちゃ…。
ユリ　なによ。…だいたい、下着姿のままで街中を走り回るような人とデートする人がいるもんですか。
ケイ　しょうがないでしょ、シャワーから上がったところをクリアドスが操っていたメカに襲われたんだから〜。あっ、もしかしてユリ、やいているんでしょ。
ユリ　どうして、ケイにやかなくちゃいけないのよ？いい男ならわかるけどさ。
ケイ　あら、年下の魅力を知らないの？ユリ。あんまり待たせ過ぎると、若いから帰っちゃうでしょ、だから先行くわね〜。
ユリ　あのね〜。まだそんなこと言って〜。ナンモがあんな目にあったというのに〜。
ケイ　ああ、ユリ〜。忘れていたわ〜。ナンモの記憶ディスクを忘れずに持ってきてね〜。それさえあれば、ナンモはいつでも元通りにできるんだから〜。今はそれより、デート、デート。デートが先よ〜。



1ロックなんか鳴らして、うるさいんだから



2あたしはこんな下品な音楽は大嫌いなの！



3なんで元に戻すのよ！ケイ、しつこいわよ！



4同じ話を10回も聞かせないで欲しいわね



5格好つけて船を借りて



6おまけにあんな格好しちゃって…肉体派



7ところが突然、目の前に未確認飛行物体が…



8一体何が起こったっていうの



9巨大な物体が衝突寸前に再度ワープした、なぜ？



10ケイったら職員締めたって仕方ないでしょ





DIRTY PAIR



13ハン、そんな事して格好つけたって、元が元なんだからどうにもなんないでしょ



12ケイはデートとなるといそいそするんだから



11ダーティペアのケイの邪魔をする気？



15ケイは着替え中に襲われたの…まあ、お下劣



14街を歩いていたあたしは突然襲われたの



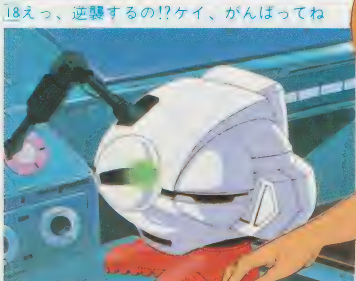
18えっ、逆襲するの!?ケイ、がんばってね



17ケイ、お巡さんをたぶらかしてどうすんのよ



16敵さん的を外して遊ぼうという気なのね



22ナンモ危ないわ、脱出するわよ



21J・S・クリアドス？死んだ人間がなぜ!?



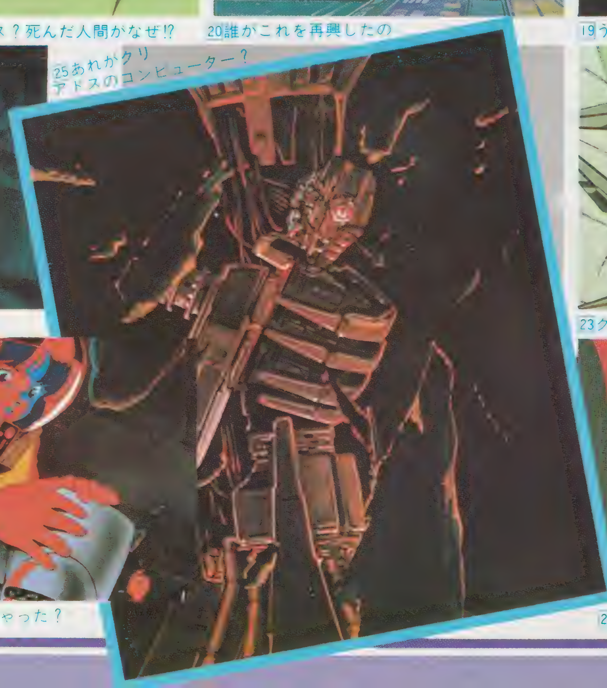
20誰がこれを再興したの



19うあああ、出たー。クリアドスだわ！



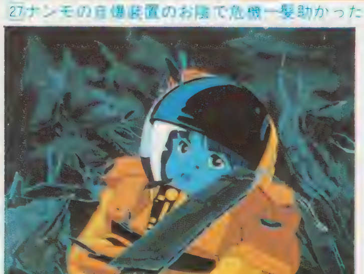
27ナンモの自爆装置のお陰で危機一髪助かったの



25あれがクリアドスのコンピューター？



23クリアドスの逆恨みのおかげでもう死にそう



28ケイったら一人デートへ向かうのよ。薄情者



26ナンモが停止しちゃった？



24クリアドスの罠でケイと再会ごぶさたさん

FILM & STORY

第6話 危険がいっぱい ダミーがいっぱい

ユリ　ケイって、とってもいい幼友達を持っていらっしゃたのね。

ケイ　誰がいい幼友達だって？冗談じゃないわよ！

ユリ　あら、海賊の親玉のお友達を持っているなんて、さすがケイだわ。

ケイ　あのね～。カイヤとは本当に関係ないんだから。ちょっと昔、口をきいたことがあるだけなんだから。

ユリ　ちょっとね～？

カイヤ　ケイ、どうして君は僕の船に爆弾なんかを送ってきたんだい？こんなに僕は愛しているのに…。

ケイ　うわ～っ。やっぱり生きていた～。

ユリ　さっすが、ケイのお友達。

カイヤ　君は何をしたのか分かっているのかい？おかげで僕は硝石プリズムどころか自分の船までなくしてしまったんだよ。でも、君が僕のもとに…プツッ。

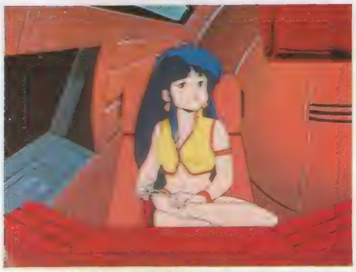
ケイ　もう、頭にきた。あいつ殺してやる。

ユリ　落ち着きなさいよ、もうこっちには来れないんだから。それより、本物の硝石プリズムがここにあったんだから、これで主任からボーナスと休暇をもらわない？

ケイ　それ、大正解！やろやろ！



1 硝石プリズムの輸送が今回のお・し・ご・と



2 宇宙海賊を待ちながらののんびり旅行なの

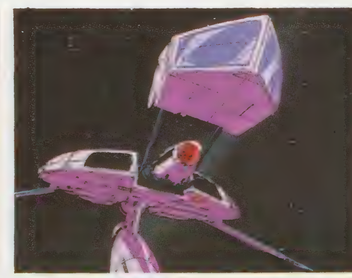


3 男に飢えたケイは海賊でもＯＫなんですって



4 ケイのそばでムギものんびりお食事

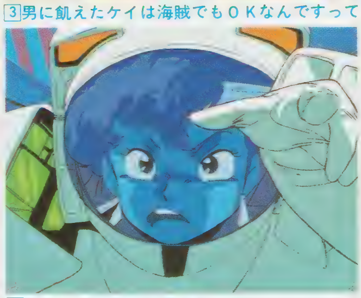




5 そこへ海賊の登場。ケイは小型艇で発進した



6 ケイはムギと敵の船に乗り込んだのよね



7 見て、この顔。凶暴な娘ってこわいわねぇ



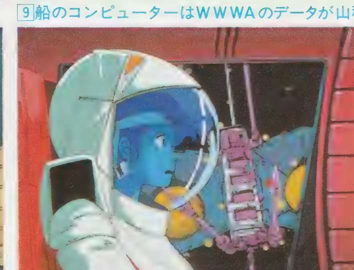
8 ケイの余りの凶暴さに海賊も簡単に降参



9 船のコンピューターはＷＷＷＡのデータが山程



10 船のキーワードは太陽。私達は囮って訳ね



11 そこに趣味の悪い大型船で元締めが来たの



12 海賊の総元締めとケイは幼馴染みですって！



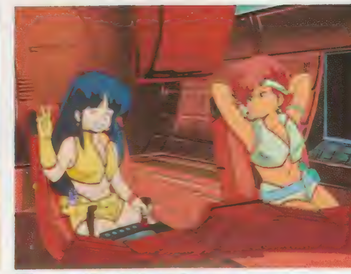
DIRTY PAIR



15私達は囮らしく敵を引き付けようなんて、珍しくケイが仕事熱心なのよね



14ケイの嘘のせいで海賊は攻撃してきちゃった



13ケイの嫌いなタイプだけど、美形ね



17えーっ／私たちのコンテナが本物だったの!?



16あたしはケイがいない間操縦かんを握ったの



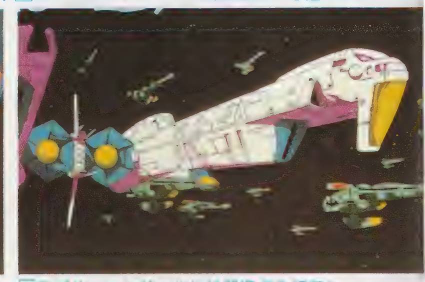
21プリズムを抜いて…



20でもとうとう私たちは囲まれてしまったの



19コンテナの爆弾には複雑な仕掛けが…



18ラブリーエンジェルには[illegible]過ぎる相手ね



26ケイってカイヤに[illegible]

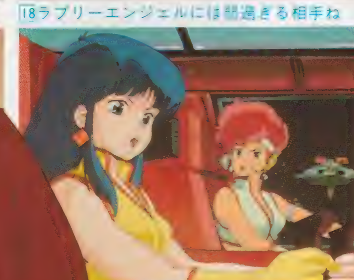


24顔崩して糠喜びするなんて幻滅しちゃう



25コンテナが爆発。カイヤはびっくり





22積荷を抜いたコンテナを送り届けてあげたの

23自惚れの強いカイヤは信じたみたい



30ふふふ、今回は特にうまくいったのでした



29無事、プリズムは先方に渡ったのよね



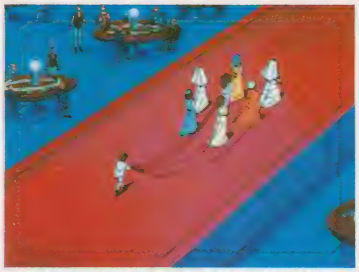
28でも私たちの作戦勝ちでボーナス倍増に成功



27グーリー主任は私たちの冗談を信じて大激怒

第7話 愛こそすべて命賭けます逃避行

ケイ　ムーン・ド・ゴールド・ジェフ、ユニバーサル・ツアー・エージェンシーの創始者…か、息子だけが生きがいだったんだね。
ユリ　総資産328億クレジットだっけ？いったい、どうなっちゃうのかしらね。
ケイ　秘書兼愛人の彼女しか残っていないけど…、まあなるようになるんじゃない。
ユリ　あたしに海の見える丘に、2万ヘクタールの家をくれないかしら…。
ケイ　未練たらしいわね。
ユリ　でも〜。
ケイ　クリッキーなんか、やわな顔をしているのに彼女を追って行く決断力があったじゃないの。
ユリ　その事なんだけど…ねえケイ、やっぱりまずかったんじゃない？本当にあれでよかったのかしら。結局、50年後にまたあの3人、同じ事を繰り返すんじゃない？
ケイ　まあ、いいんじゃないの。任務は果たしたようなものだし、愛する者をどこまでも追って行くなんて、素敵な事じゃない。あの秘書には悪かったかも知れないけどね…。


1 大金持ちのボンボンの結婚式…なんだけど


2 そこに機関銃を乱射して来る大女一人


3 花婿の父は大慌てで息子の名前を呼ぶのだ


4 二人は駈落ち。これが事件の発端って訳


5 大金持ちと聞いてユリは愛人志願するんだよね


6 いや〜ね。愛人なんですって


7 愛人の秘書の顔、あんたにも見せたかったね


8 金持ちの息子が女に誘拐されたって訳なの？


9 要求通りの金を払ってくるのが私らの仕事


10 その晩、見知らぬ女から電話が掛かってきた


11 なによユリ！うるさい…


12 あ〜っ、こいつ、誘拐犯人じゃないか


13 気にくわないけどユリに関しては同意見ね





DIRTY PAIR



14本当の事を言ったからって…うえ～っ



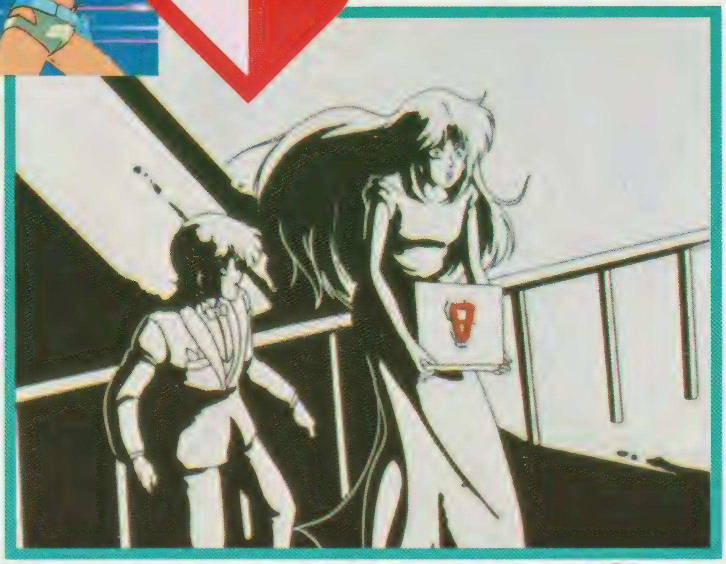
15翌日、ジョアンカは水生博物館にやってきた



16私らは、約束の金を持ってやってきた



17私らが本当の事を言ったらうろたえてんの



18でも、どうも様子がおかしいのよね。一体どうしたっていうんだろ



19あの愛人兼秘書が裏にいたのか…



20そうと分れば私らはカップルの味方よ



21一気にハッピーエンド…て訳にはいかない



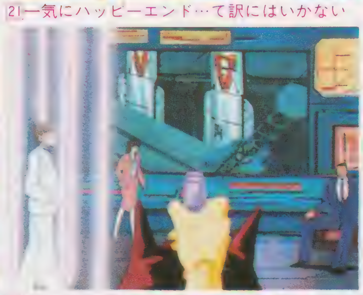
22ジョアンカとクリッキーは捕まってしまった



23私らもあわれ、縄を掛けられてしまったんだ



24でもラブリーエンジェルは負けないもんね



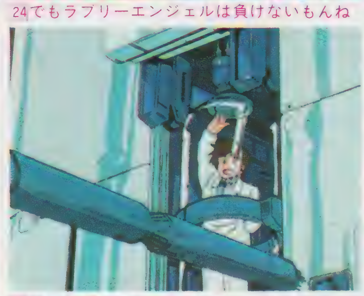
25ジョアンカは50年の旅に出されてしまった



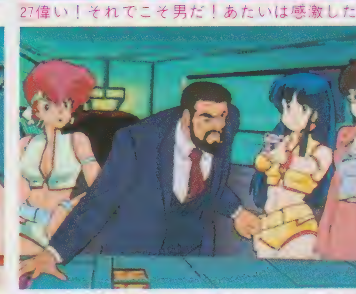
26クリッキーがジョアンカを追っかけるって



27偉い！それでこそ男だ！あたいは感激したね



28男ならどんと行っておいで、クリッキー



29ところが親父さんまで後を追っかけてく始末



30こうして事件は一応解決した…のだ



31それにしても、秘書兼愛人の執念に思わずドキッ。なんか、かわいそう…だね

第8話 やるっきゃあないッ! 恋は女の起爆剤

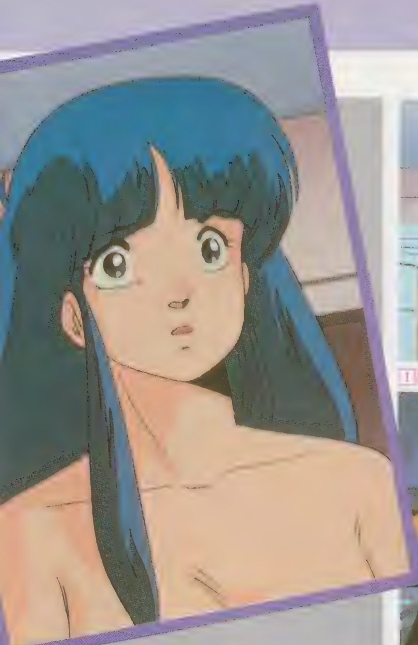
ケイ　ユリ、あたしビリーと話したわ。ちょとだけ。
ユリ　そう。
ケイ　本物のルーシアはまだまだ先になりそうだってさ。
ユリ　そう。でもやっぱり会わないでよかったみたい。ビリーには思い出の中で会えるもの。
ケイ　それと、今でもユリの事好きだってさ。
ユリ　でしょうね…。
ケイ　よかったの?行かなくて?
ユリ　うん。
ケイ　WWWAをやめなくていいの?
ユリ　そうね。あなたみたいなドジを一人にするわけにいかないもんね。それに…二人の共同預金から誰かさんが使った10万クレジットを返してもらうまでは、やめられないわ。
ケイ　ああ～、そういう事いうの?あたしはあんたのためを思って、やったげたのにな～。そんな事いっていいの?
ユリ　それとこれとは、別問題よ。
ケイ　また、来たわよユリ。話は仕事の後にしよう。
ユリ　オーライ、相棒。



1 私が覚えたばっかのステップを踏んでた時だ



2 ビリーって奴からラブレターが届いたんだ



3 ビリーって聞いた途端ユリがおかしくなった



4 ユリったら突然引退したいと言いだすんだもん…



5 ビリーって男と結婚するんだとかほざくんだ



6 ユリったら7才の時の約束を信じてんのよね



7 ほとんど、舞い上がってんだから!



8 でも一体ビリーってどんな奴なんだろう



9 ビリーの近況が分ったんだけど…



10 グッドタイミング!依頼が来た。ホイゾンビルに監禁されてる人の救出に出発します



11 あたいはちょっぴりいい気分



12 ホイゾンビルに私らは潜入した



13 ユリ、この忙しい時に化粧なんかするなよな



14 あと3㎝細くなんなきゃいけないかな?



15 ユリはユリでうまく潜入できたようだし





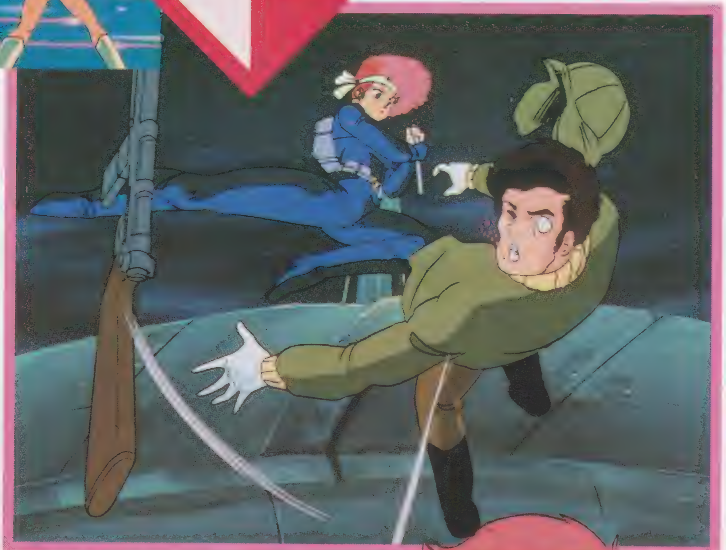
DIRTY PAIR



16目の前に銃が…と思ったらユリだった



17私らは技術者を船に乗り込ませた



18一撃必殺。我ながら惚れ惚れするね、見よこの雄姿



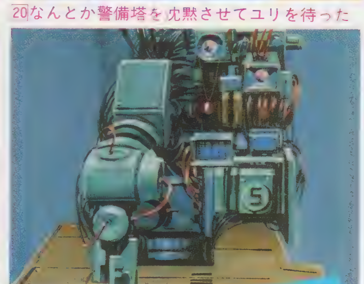
19あたいは宇宙船の発進時刻を[illegible]



20なんとか警備塔を沈黙させてユリを待った



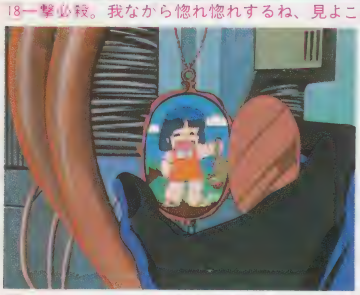
21ユリは技術者を助けようとして



22ビリーは…



23ビリーは死んでも通信を送り続けていたの



24一体あたいはユリになんて言えばいいんだ



25知らない方がいい事もあるよね



26技術者を連れてユリは飛んだ



27ユリの援護にあたいは飛び回る。けなげね…



28来てくれたの、ユリ



29ユリ、実はあの依頼はあたしがやったんだ

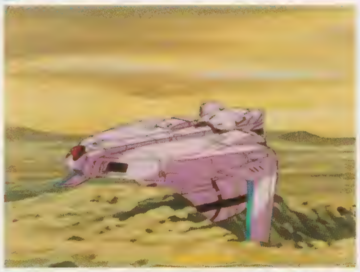


第9話 うちらを買って！用心棒には美人がお得

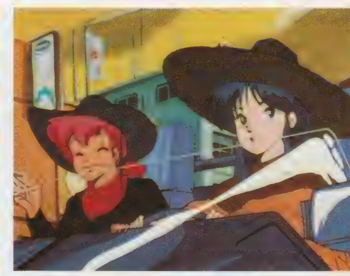
ケイ　光っただけよね…ね。
ユリ　ほ、星がちょっと光っただけじゃない。
グーリー　おまえら〜っ！いい加減にしろ〜っ！おまえら、今回何の任務で惑星プラストンに行ってきたのか覚えているのか。
ユリ　もちろんですわ。惑星プラストンの新鉱石・ニューストーンの供給を握っている2つのシンジケートを…。
グーリー　なら何で惑星ごと破壊したんだ、えっ？
ケイ　それは、ちょっとした物のはずみで…。ええもちろん、シンジケートを潰すのに破壊する事はなかったと思いますが…。
グーリー　もういい、こんな危険な任務におまえたちを使った私が悪かったんだ。…今度は始末書だけで済むと思うなよ、いいな？
ケイ・ユリ　ハ〜イ。…失礼します。
ケイ　「流れ星のおケイ、やっと見つけたわ。兄のかたき取らせてもらいます。」「紅おユリ、あたしはやる気はないね。」「あんたの兄さんはあたいに惚れていたんだ、その妹とはやりあえないね。」…なかなかいいお芝居だったのにな。
ユリ　あのね〜、あなたあんなくさい芝居を作って、全然反省していないじゃないの。
ケイ　あ〜あ。


1 何の因果でこんな星に来なきゃいけないの


2 消息を絶った私たちを主任は信頼してくれた


3 とにかく私たちはプラストンに不時着したの


4 ムギが暴れなかったら、もっと楽だったのに


5 あ〜ん、あたしこんな格好恥しいよぉ


6 ん？のんきに食べてる場合じゃなさそうね


7 いけすかないやつら。さっそくいざこざかよ


8 モンタルー一家は気に喰わないね




9 これでトケッチ一家との顔つなぎもできた


10 ここで紅おゆりの登場。うー恥しい


11 子供だと思ったらトケッチの一の子分なのね


12 あたいは用心棒としてトケッチに売り込んだ


13 第1段階は成功


14 あたしの方もモンタルーに取り入る事に成功


15 優雅にお風呂を楽しんでるとケイから連絡が



DIRTY PAIR



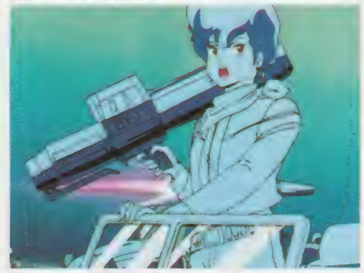
16くそー！ユリの方はいいご身分だぜ



17でもそれを見られてるとは思わなかった



18モントルーのバカ息子に襲われちゃった



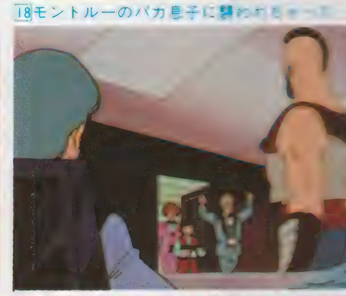
19そーれ、襲撃開始。武器を奪い取れ！



20ケイの馬鹿、本気ね。そっちがその気なら…



21ケイは武器の半分を持って行ってしまったの



22ところがうちらの正体がばれちゃったんだ



23あたいがユリと1対1で戦うって!?



24なんて事なの、これはワナよ、ワナ



25分っちゃいるけど仕方がない。ユリ、やるよ



26助けが来ないんじゃ仕方ないね。やりましょ



27あによユリ、本気でやる事ないでしょ！



28ところがなんとかムギとナンモが間に合った



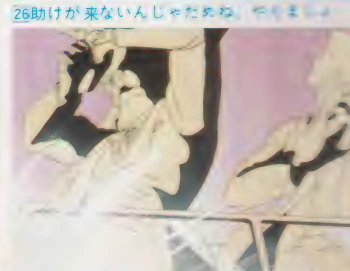
29よくやったと、軽く撫でたつもりが…



30ああ～、ビーム砲が～



31まさか。ちょ、ちょっとぉ、うそでしょ



32まずい。鉱石が連鎖反応起こしちゃった



33大丈夫よね、この位の爆発でふっとぶはずが



34大変！惑星ブラストンが崩壊しちゃった



35ほほほ、…あ～あ

第10話 えーっっっ？ うちらが凶悪誘拐犯

ケイ　ひどいよ王子～。うちらは本物の「ラブリーエンジェル」なんだから…。
ユリ　ヒース王子様は助かったんだし、なんとかなるわよ。
ケイ　こういう状況になると、落ち着いちゃうんだから～。ここから出してよ、ね～。
ユリ　じっと待つしかないでしょ。
ケイ　だいたい、あんたが…あっ、ムギ～っ！
ムギ　むが～っ。
ユリ　えっ？あっ、ナンモ～！
ナンモ　パ～プ
グーリー　なんてざまだ、またWWWAの面汚しをしてくれたな。
ケイ・ユリ　あ～っ。主任！
グーリー　おまえたちは、まったく…。
ユリ　主任、どうしてここに…。
グーリー　おまえらの部下に感謝するんだな。
ナンモ　ピプ。
ケイ　ナンモ、おまえが連絡してくれたのね。
ユリ　でも、どうして？…あ～っケイ、足元！
ケイ　えっ？何？あっ…通信機…。
ユリ　ケ～イ！
ケイ　ごめん…でも元はといえばあんたが…。
グーリー　やめんか～っ。おまえらもう一度とそこにいたいのか？


2その頃私たちは家で休暇中たったんだけど…


1惑星カスピアで王様が心臓発作を起こしたの

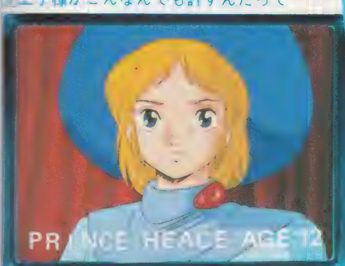

え、行先がカスピア王国？行ってきま～す♡


3ボーナスも近いことだしがんばりましょうね


王子様がこんなんでも許すんだって


7王子様って言葉にケイは舞い上がってんのよ


5実は王様は亡くなっていらしたの。そこで…



でも、王子様が12才じゃね。いくらなんでも


6王子様をお迎えにいくのが今回の仕事


13えっ社会見学してたの！

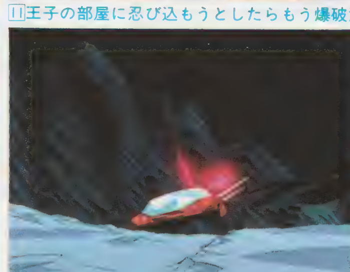

12落ちる～。パラシュートも間に合わないわ


11王子の部屋に忍び込もうとしたらもう爆破済


10それで、この人が今回の悪人ルーバーさん


17王子様と一緒に歩きましょ


16L.A.呼ぼうとしたら通信機を持ってないのよ


15やられちゃったぁ。落ちるぅ


14事情を説明してたけど、王子は強い子ね



DIRTY PAIR



18夜になって休んでいると、近付く人影が。誰!?



19行商の老夫婦が私達を



20お言葉に甘えさせてもらいましょうよ



21テレビを見てびっくり。私たちはいつの間にか誘拐犯にされていたのよ　しかも賞金まで…



22あによ、この



23突然入って来て…私たちを助けるですって？



24この子の言う事聞くしかないみたいだわね



25あら、リタと王子、意気投合したみたいよ



26あ～ん、水責めにされちゃった。ケイ大丈夫？



27王子様の機転でなんとか命拾い。やるわね



28そこへ警察の登場。やった－、大団円よ



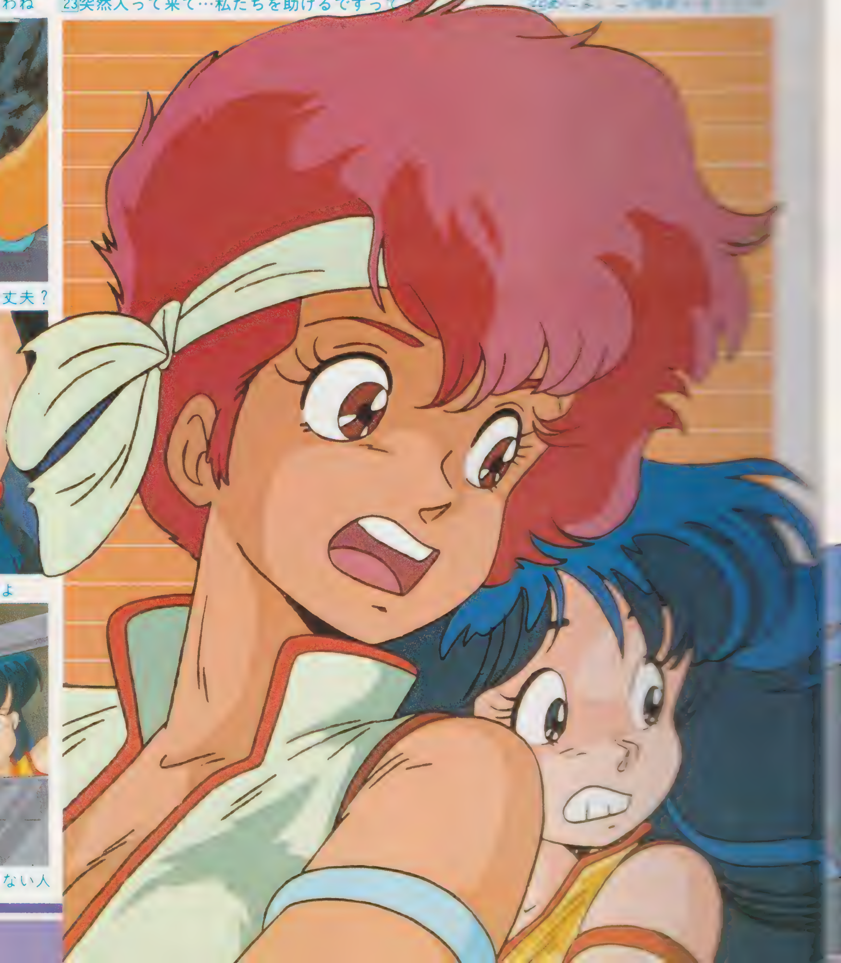
29なんでみんな私たちが本物だって信じないの



30王子様はまた社会見学ですって。こりない人

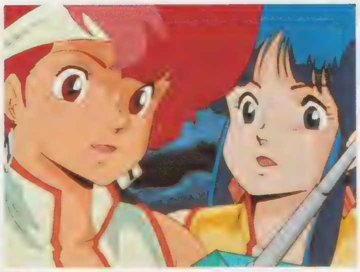


31私たちはど－なるのよ。ケイの責任よ～



第11話 ホホホ、ドレスと男はオニューに限る

爺や　ようこそいらした。
婆や　こんばんわ。
グーリー　さあ、君たち遠慮なく。
ユリ　ユリと申します。え～大変光栄ですわ、こんな素敵な別荘にご招待頂いて。
ケイ　ケイですわ。あたしたち初めてですのこんなパーティー(本当に初めて…)。
ユリ　楽しくって楽しくて(…涙がでちゃう)。
爺や　ずいぶん素敵な服を着てなさるな、え～とユリさんとか言ったかのう…。
ユリ　ええ、このパーティーのために、惑星コルドへ買いに行って来ましたの。
グーリー　わざわざ、反対方向のコルドへ行ってきたねか?それで少し遅れたんだな。
ケイ　そうですのよ、主任。ユリのやつが…。
グーリー　いや、いいんだ。美女は遅れてくると相場が決まってるからな。…そうだ。コルドといえば、ピートとモイラとかいう凶悪犯がいるという報告があったな。
ケイ ユリ　ドキッ!
グーリー　ん?どうした2人とも?
ケイ ユリ　いいえ、別に…。
グーリー　そのピートとモイラというのが、おまえらに似ているとかいう噂を…。
ケイ ユリ　**そんなことありません!**


1 主任から休暇の約束を取り付ける事に成功


2 デート、デート、死ぬほどデートしてやる


3 イエイ!


4 二人とも、もうデートに燃えまくるのだ


5 と思いきや、相手がつかまんないよぉ


6 この～、マザコン男め!


7 ざまーあそばせ、ユリもふられてやがんの


8 そこにフランシスさんからの招待状が届いた




9 誰だか知らないけどチャンス。行きましょ


10 惑星コルドに寄ってドレスを買う～?


11 逆方向じゃない、何考えてんのよ


12 ふんと、ユリの買物は長いんだから


13 突然、拡声器からの声。一体なんなの?


14 えっ、赤毛の男っ?あたいのどこが男よ!

DIRTY PAIR





19あーん、ガキンチョに船は占拠されるし、陸軍に包囲はされるし、どーしよーもない



16ドジ！噴水なんかに落ちて



15なんか分んないけど逃げるが勝ち！



18なによこのガキは…このクソ忙しい時に



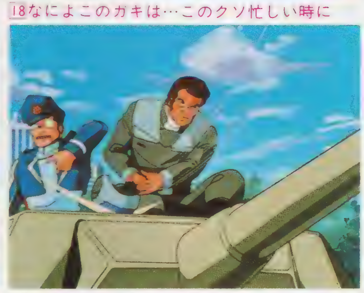
17警官隊のヘタクソな射撃で大助かり



23これでベレナスに…なんで１匹残ってんの？



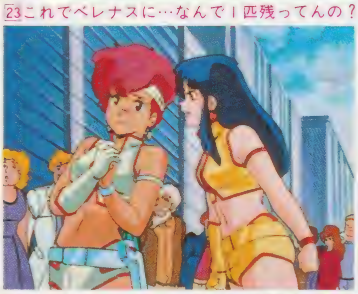
22ユリとお似合いの可愛くないガキなんだから



21子どもを盾にしても強行突破してやる！



20時間が無い、こうなったら最後の手段



27ガキに見つかっちゃった、しゃあないやるか



26なんと、本物のビートとモイラがいた



25間違いだって気が付いたってもう遅いの！



24つかまっちゃった。仕方がない逃げだすよ



31あによあによ、こんな中年と間違えられたの？



30急いでんだから手間かけさせないでよ



29手加減なしで、お返しさせてもらいましょ



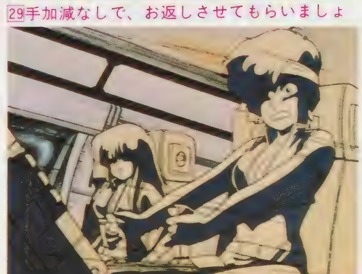
28こいつのせいで私ら散々な目にあったもんね



35あーん、若い男はどこいったのよ～。不幸だ



34えー、フランシスって主任の名前だったの？



33さぁ、ベルナス目指してダブルワープ

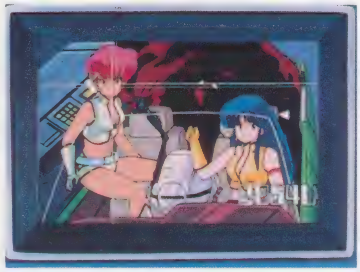


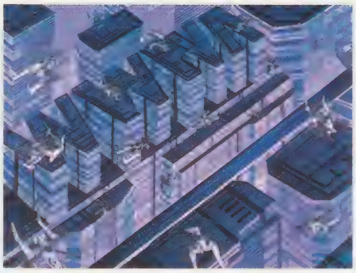
32ユリはそっくりだけど私は似てないじゃない

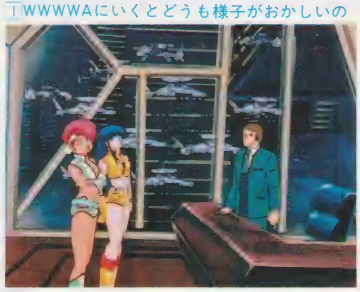
FILM & STORY

第12話 小さな独裁者！触らぬ機密にたたりなし

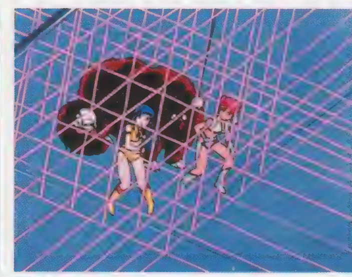
ユリ　アルジャーノンにチッチ、なんだかかわいそう…。
ケイ　そうね…。でも、仕方ないんじゃない？
ユリ　もう、ネズミもノミもたくさん…。
ケイ　いいじゃない。ボーナスは3倍だし、休暇も3週間もらえるんだから。
グーリー　建物や器物の損害費、そして二人のボーナス。全部出してもらいますからね！
ファンゴリア　う、うむ。…ネズミを使ったセキュリティーシステムは完全なはずだった…それが見事失敗か…。
グーリー　完全なものなんてありえない。特に、あの二人の手にかかるんだったらな…。
ファンゴリア　ダーティペアか…そうかもしれん。まあ、この建物が残っているだけでもよしとすべきか…。
グーリー　まったくだ。こんな騒ぎは二度と起こして欲しくないもんだな。
博士　あっ、ユリ君、ケイ君。ライス2号が先程の騒ぎで、逃げ出してしまったんだ。至急捕まえてくれ！2号は1号の逆の働きをするアルカイド誘導体を持っているんだ。しかもその威力は1号の数倍。もし、チッチや他のネズミが刺されたら…。
ケイ ユリ　え〜っ？うそ〜。もう、知らないっ！


1 WWWWAにいくとどうも様子がおかしいの


2 なにか騒ぎが起こってるみたいな感じね


3 アルジャーノンていう機密が盗まれた？


4 これが開発事業部のファンゴリア主任


5 闇に光る赤い目。う〜ぞくぞくしちゃう

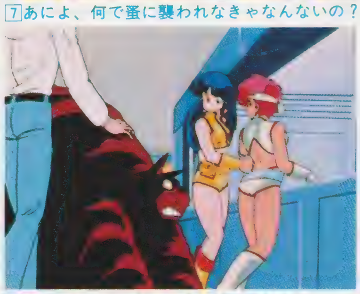

6 ほんと性悪のいけすかないおばさんね


7 あによ、何で蛋に襲われなきゃなんないの？


8 アルジャーノンって一体なんなのよ


9 端末に聞いても教えてくんない…お仕置よ！


10 ネズミがいたの？かわいい


11 まずいわ、ムギはネズミが駄目なの


12 ところが食糧庫はネズミでいっぱい


13 ムギじゃなくても悲鳴を上げたくなっちゃう


14 ムギがネズミにつかまっちゃった


15 WWWAはネズミに支配されたみたい


16 あによ、この生意気そうなネズミは

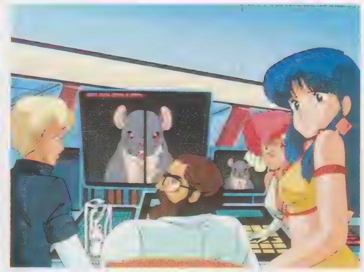

17 アルジャーノンって利口なネズミのことなの



DIRTY PAIR



22ネズミの王国に潜入しようとするんだけど、敵もなかなか手ごわいわ



19私たちはネズミの為の実験台だったのね



18チッチって名のこいつも気にくわないわね



21自分より頭のいいネズミを作った不幸ね



20ネズミ退治には猫が一番と思ったのにい



25きゃー、ライス1号の容器が割れちゃった〜



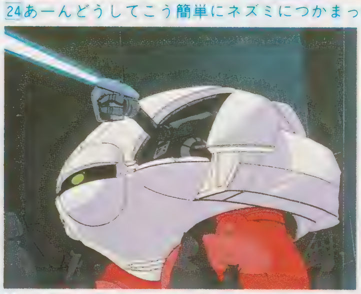
24あーんどうしてこう簡単にネズミにつかまっちゃう訳ぇ？



23山越え谷越えネズミ越え



29おほほ、さっきのライス1号はにせものなの



28そこにナンモが私たちを助けに来てくれたの



27ネズミが猫への復讐をする？ムギが危ない！



26エ



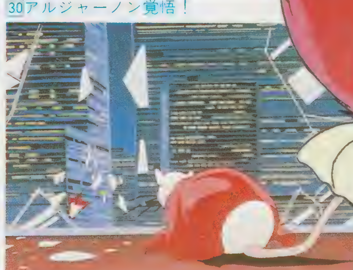
31危なく本物にも血を吸われるところだったわ



30アルジャーノン覚悟！



33結局、ネズミはネズミでいるのが幸せなのね



32あっ、アルジャーノンが飛び降り自殺を…




ILLUSTRATION
大貫 健一
KENICHI-OHNUKI





第13話 何よこれ！玉のお肌がドロンドロン

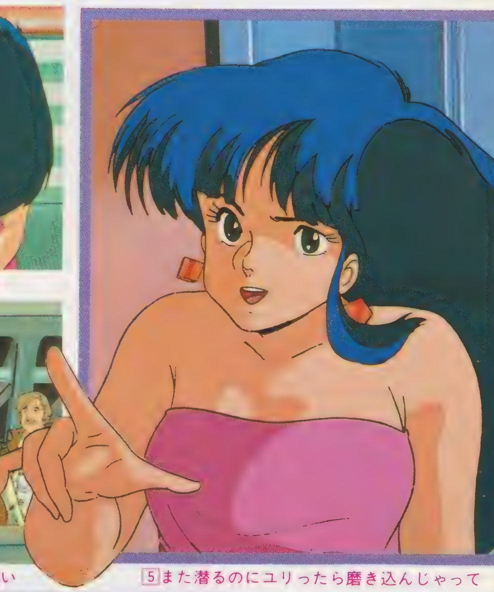
部長　このまま終わるはずがないと思ったら、やっぱり事故を起こしてくれたな。
主任　でも部長いいじゃないですか、あの怪物を退治してくれたんだし、被害も最小限にとどめられたんですから。
部長　しかし、このタワーの…ブツブツ。
ケイ　いつまでブツブツ言ってんのよ、あたいたちだけで退治した事忘れたの？
部長　あの後、下水プールから凍らせた怪物の後始末をするのは大変だったんだぞ。
ケイ　だから、どうだっていうのよ。
部長　それにあの一帯のパイプを使いものにならなくして…。
ケイ　うっさいな、なん…。
ユリ　ねえ、もうあの怪物の話をするの、やめない？
ケイ　そうね、ユリ行こ！こんなのかまってもしょうがないもんね。
部長　せっかく、銀河一幸せな管理部長になれたと思ったのに…ブツブツ。
主任　すみません、部長は部下や一般市民を死なせてるので、気が立っているんです。
ユリ　ケイ、もう行こ。あの怪物の事を思い出すだけでもゾッとしてくるわ。…早く帰って、シャワーを浴びようっと。


1 管理部長は私らの顔を見た途端この表情


2 確かにタワーを傾けたりしたけど過去の事


3 下水に出現する怪物の正体を求めて地下へ


4 何が私らに似合いの仕事よ、ふん


5 また潜るのにユリったら磨き込んじゃって


6 確かに男に会いたくない状況だなぁ


7 この特製火炎放射機で怪物もいちころよ


8 タワーから怪物の死体が上がったとの報告？


9 これでおしまいだと思ったら大間違い


10 怪物を一網打尽にするための作戦会議


11 怪物は酸によって皮膚を破壊すればいい


12 あた。ユリその豹変はやめてくんないかなぁ


13 怪物を側溝から追い出すために火をかけてと


14 出る出る。こいつらをまとめりゃおしまいよ


15 え～、なんか別なのが来るって？


16 あ、あによ、こいつ


17 ふん、ダーティペアなんて言わせない


18 なんでこんなものがこの星にいるのかね？


19 ひどいよムギを囮にするって

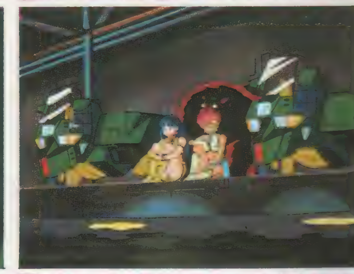


DIRTY PAIR




20あ、しまった。囮になるって言っちゃった


21ふふーん、ユリ。どーせならあんたも一緒よ


22二人と一匹で怪物を待つ。でも出なかった


23様子がおかしい。怪物が出て来る!?


24こんなの予定にないじゃない


25う～、気色わりぃ。鳥肌たっちゃう


26作戦通り液体窒素で怪物を凍らせた


27こんなんじゃ凍らせた方が足んない

28やったーっ！怪物やっつけたぞ



29う～っ、寒いよぉ


30管理部長さんもこれで私らを見直したみたい


31こらー、ムギ！今までどこに隠れてたの？



第14話 金庫か選挙か？演説会は殺人びより

ユリ　ねえ、ケイ。いつまでシラを切る気なの、カケはわたしの勝ちなんだから、早く5千クレジットちょうだいよ。
ケイ　えっ？何の事？そんな話、あったっけ？
ユリ　なによ、ちょっと待ってよ。犯人はギルダー大統領候補のファイルを消すために金庫に忍び込んだんだから、私の勝ちでしょ。あなた、もしかして踏み倒そうってわけじゃないでしょうね？
ケイ　ほんと、あのパンドラ金庫というのはとんでもない仕掛だったわねえ。やっぱりあのゲッシー教授、普通じゃないわ…。
ユリ　ちょっと、ケイ。話をそらさないでよ。
ケイ　いや〜、恐かった。コンピューターが恐怖を作り出していたんですって？まったく、あの教授ろくな物作らないわね〜。
ユリ　あくまでも、話をそらす気ね。いいわチャンさん、出て来て。
チャン　はいや〜、ユリさん呼んでくれてありがとさんね。ケイさん、観念してマージャンの借金、早く支払うあるよ。
ケイ　ごめんなさい。お願いだからちょっと待って…。私、他にも借金があって…。
チャン　あっ、ケイさん逃げるあるか…待つあるね。


1男に過去を消せとの依頼が届いたのが始まり


2街は大統領選挙一色、面白くない！


3この美女が実は××だったりするんだ


4時間外労働手当がついてない！なんで〜？


5あんたら身体検査って、私らを知らないの？


6そうか、今日はパンドラ金庫の開く日か


7主任、この給料はどういう意味？


8うわ！ホストクラブでの豪遊がばれちゃった


9こうなりゃ泣き落ししかない。お願い主任


10ギャンブルの負けが5000クレジットもあるの


11おっと、いいタイミングで事件発生だ


12ぐふふ、これでギャラもアップじゃ


13殺されたはずの職員が出社してるんだって!?





DIRTY PAIR



15麻雀の負け、もう少し待って



14ゲッシー教授だ。金庫はユリに任した



16女子ロッカールーム
まで来た



17ロッカーの中から女の子の死体がゴロン



18敵は女子職員に化けてパンドラ金庫に潜入してるんだ。監視システム、あたいを通しな



19はっ、分らん事



20その中に偽物がいる事はお見通しなの



21金庫に追い詰めたんだけどね



22金庫の警備システムが働いて、私らはコンピュータの作り出した恐怖に踊らされた



23あたいを救出する為ムギとナンモも呼ばれた



24ユリ、早く警備システムを壊して



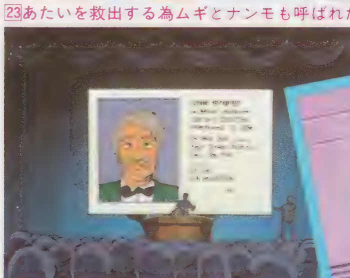
25あと数秒で作動装置に点火される－！



26サンキュー、ユリ。迎えに来てくれて



27ちくしょう、賭けは負けだ



28ギルダー候補の正体をあばいてあげる



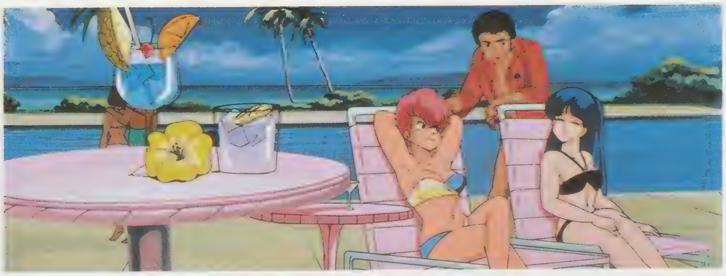
29えっ、5000クレジットってなんの事かな？



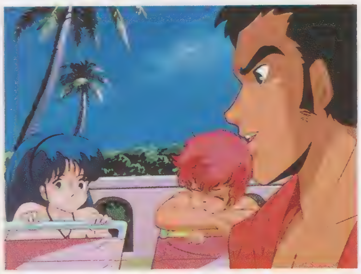
30チャンさんだ。ユリ！一緒に逃げよう。

第15話 ここ掘れニャンニャン 果報は最後にやってくる

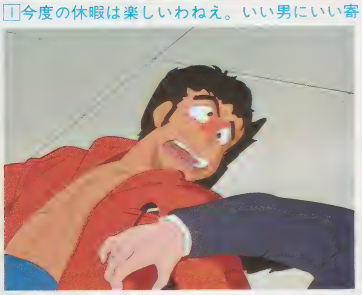
ユリ　どうしようか?このバラ。
ケイ　気持ち良いじゃない。もう少しこのままにしておこうよ。…でもさ、あのじっちゃんにはまいったと思わない?
ユリ　うん、まいった。
ケイ　本当に床をバラで埋め尽くしてくれるなんて…さすが、永遠の少年だわ。
ユリ　随分感激しているけどさ。あのじいさん、結局2割くれなかったのよ。
ケイ　あんた、ほんとエグいのね。
ユリ　だって、3人で苦労して手に入れた古文書が1億7千万クレジットで買われたというのに、あのじいさんに独り占めされちゃったのよ。ケイは悔しくないの?
ケイ　そりゃ、悔しいけどさ。
ナンモ　パプ、ピポ。
ケイ　なに?もうニンニクはごめんだって?
ユリ　ほら、ごらんなさい。惑星ユッカのラカハンガ遺跡で、死ぬような思いをした事を、忘れたの?
ケイ　随分こだわるね〜。
ユリ　じゃあ、ケイは平気なの?
ケイ　平気じゃないけどさ…、なんとなく憎めないじゃない、あのじいさん。
ユリ　そりゃそうだけど…。



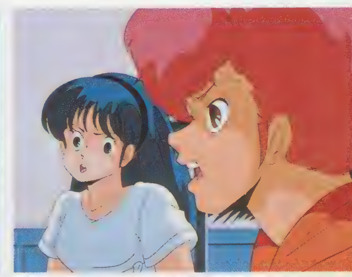
1 今度の休暇は楽しいわねえ。いい男にいい寄られて…ケイがいなきゃもっといいのに



2 うふ、口もうまくて、す・て・き。



3 あーん、ステファンがノックアウトされたぁ



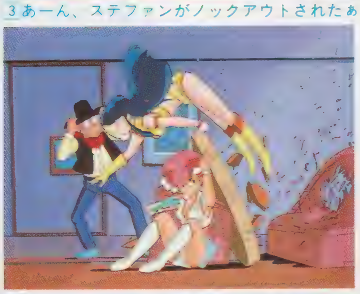
4 へんなおじいちゃんだけど、憎めないのよね



5 このおじいさん、宝捜しをしてるんだって



6 喧嘩別れをした助手から守ってっていうの



7 きゃー、敵がさっそく武装ヘリでお出ましよ



8 報酬は宝の2割、3000万クレジットで契約成立



9 なあにこの臭いは…にんにく!?



10 あーん、たまんない



11 余りの強烈な臭いにナンモが壊れちゃった



12 もうすぐ一人頭1500万クレジットが手に入る





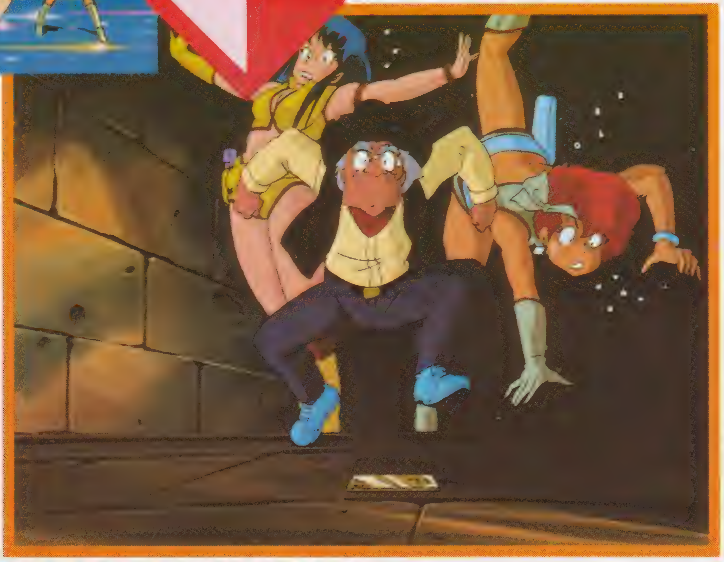
DIRTY PAIR



13ナンモも直ってムギと一緒に来てくれるよ



14クレメンタインさん、形勢逆転ね



15ああ、鍵、鍵。ちょ、ちょっとこれ落し穴よ



16クレメンタインってほんとするいんだから



17おじいさんが変な所を押したもんだから



18仕掛が作動しちゃった。もはやこれまで？



19突然水が引き出したの。ナンモ、ありがとう！



20おじいさんも大喜び。まっ、実力よね



21おじいさんの口臭で、また壊れちゃった



22クレメンタインがワナにひっかかってんの



23ん？ケイの前に石が上がってきたわよ



24えっ、これを押すの？今度は違う石が…



25あーん、何これ？もぐらたたき？



26治まったと思ったら扉が開いて中から光が…



27えーっ／３人が力を合わせることが宝だって



28なんですって、古文書が17000万クレジット



29やられた！にんにくじいさんにだまされた！



30部屋は突然届いたバラで埋まっちゃった！



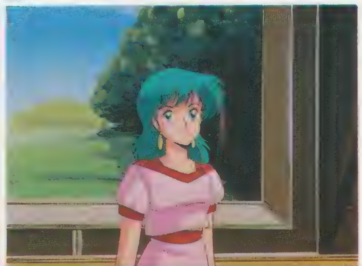
31送り主はにんにくじいさん。負けたわ

第16話 まかせなさい！ WWWAは素敵なお仕事

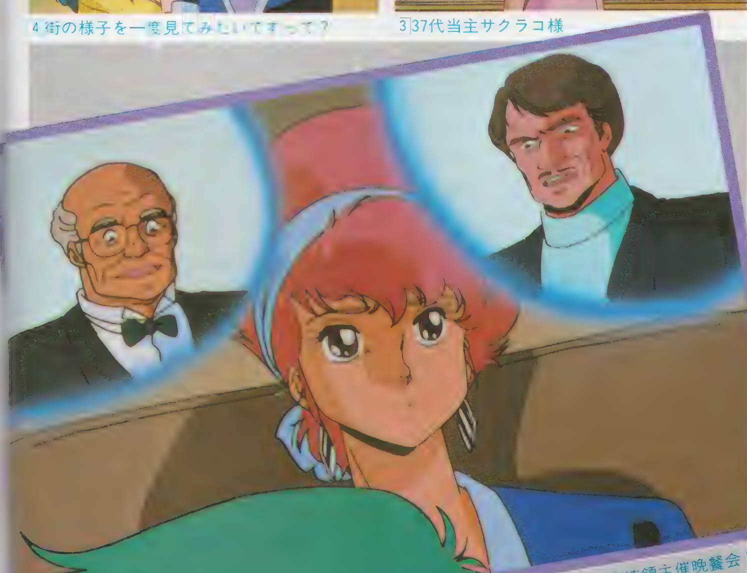
ユリ　主任、仕事でもないのに呼び出しとはいったい何でしょうか？
ケイ　最近、何もしてないです…よね…。
グーリー　いやなにな、ヨロズヤコンツェルンから感謝状が来たんだ。
ケイ　主任、そんな事で呼び出したの？あたいらにとっては、感謝状ぐらいいつもの事じゃない。ねえ、ユリ？
ユリ　そうよそうよ。
グーリー　おまえら、感謝状の来るような仕事をしてきた事があるのか…。
ケイ　え…そ、それで何でしょうか、主任。
グーリー　まあいい、これを見てみろ。
ケイ　え～っ、あのサクラコがWWWAを見学に来たいって～っ？じょ、冗談。
サクラコ　あら、ユリさんケイさん。お久しぶりですね。私、是非ともWWWAで素敵なお仕事をしているお二人を拝見したくて来てしまいました…御都合、悪かったかしら。今度はこの建物の中だけですから、この前みたいに悪い人たちに狙われる事もありませんし、予定もこの前よりも遅い7時1分迄何もありませんのよ。
ユリ　あちゃ～。今度はケイが相手する番ね。
ケイ　いえいえ、私身代りが合ってますから。

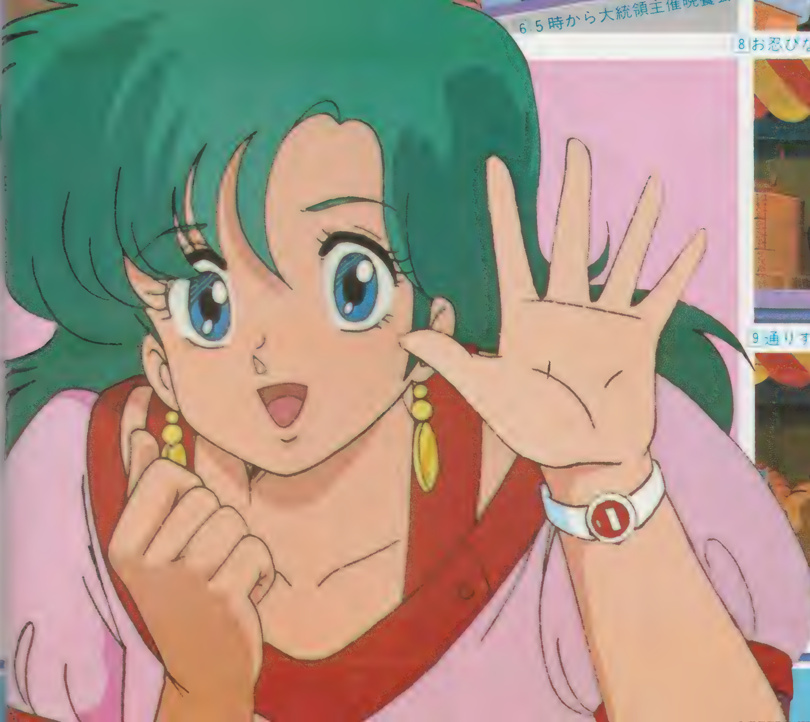

1 休みの日までお仕事の話をするの、主任？


2 ボーナスの査定会議ですって…イヤ…アハ…


3 37代当主サクラコ様


4 街の様子を一度見てみたいですって？


6 5時から大統領主催晩餐会？




5 うわ～っ、あっ、なにあれ、うわ～っ！って…これじゃ、先が思いやられるわ…


8 お忍びなのに思いっきり目立って…あ～また！


7 再開発プロジェクトを任される事になった？



9 通りすがりのお兄さん、ケイに手を出したら…


10 ケイにかなう訳がないのに…


11 だから危ないって言ったでしょ！



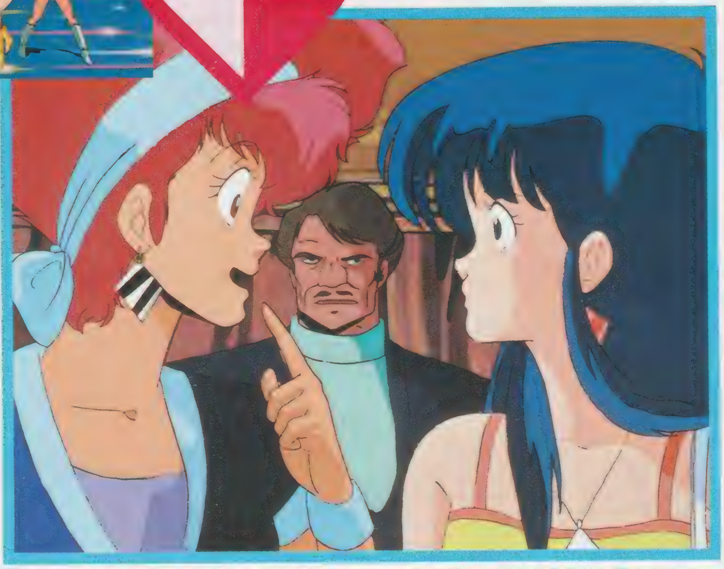
DIRTY PAIR



12トイレに行っていると思ったら…いない?



13Bye Bye だって?冗談じゃないわよ



14どちらかといえば、まだあたしの方が上品なのに、なんでケイの方を身代りに選ぶのよ!



15こんな品の悪い娘ですって…当たってる



16もう一人の方とて同じようなもの?…何よ!



17げっ、検査済みの物しか食えないの?



18この書類全部にハンを押せって?めんどくさ



19ヨロズヤコンツェルンの敵、ウィルシャー



20そこには殺し屋バンサーが雇われていた



21あ～っ、いた!あの極楽お嬢さん



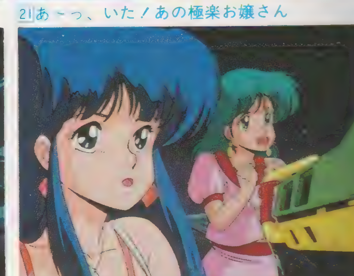
22もう逃がさないわ!



23見直した、仕事は違ってもあんたもプロよね



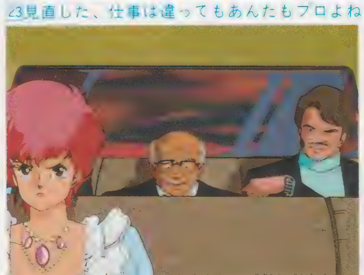
24その時、ビルの屋上から狙われて…



25入った所はゲーム場。この娘いい腕してるわ



26ゲームに紛れて敵からも撃ってくる!



27私らはプロよ、何とかするわ…



28あのお兄さんたちに助けてもらって…



29無事、サクラコさんを送り届けられたの



30さっすが、ヨロズヤコンツェルンの当主ね



31相棒を信じるだけだって…ケイ、合格よ!



32ねえ、二人とも見てる?って…ふみ～い

FILM & STORY

第17話 出てこい出てこい！暗殺者

ケイ　やりたい事は一杯あったけど、まあいいか…。退屈しない人生だったもんね。
ヒューイ　お嬢さん。お目覚めかな？
ケイ　ヒューイ！
ヒューイ　あんたに惚れたって言っただろ。
ケイ　そのセリフ、いままで何人の女に言ったの？デビット・ヒューイ。
ヒューイ　それが死にそうになった女のいう言葉かね。相棒のご好意は快く受けようじゃないの、お嬢さん。
ケイ　うん。死ぬよりましよね。
ヒューイ　そうさ、俺が死ぬよりずっとマシなこと教えてやるぜ。
ケイ　さすが最高のスケベね。
ヒューイ　シスターがそんな事言っちゃ…おっと、又間違えちまったな。ダーティペアの…。
ケイ　ラブリーエンジェルよ、覚えておいてね、ヒューイ。
ヒューイ　それじゃあ、悪魔の船、惑星ソロモン発バベル107便を、最高の船にしようか。
ケイ　最高の船ね…でもやっぱり悪魔の船よ。
ヒューイ　ん？
ケイ　殺人鬼サンデリックは死んでも、誘惑鬼ボビット・ヒューイがいるもの。
ヒューイ　ハハハ、そうだな。じゃ、ベイビー…。


1 アランジャミスが死んだ。情報を残して…


2 惑星ソロモン発107便に犯人が必らず乗ると


3 あたいはシスター姿で乗り込んだ


4 乗客は弁護士のマーカスに


5 看護婦のマーガレット・タイガーにジャック


6 イラストレーターのラルフ・レイ

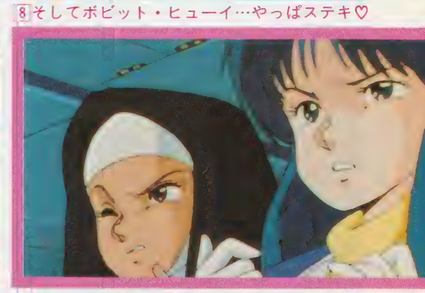

7 わっ、見つめられちゃった♡

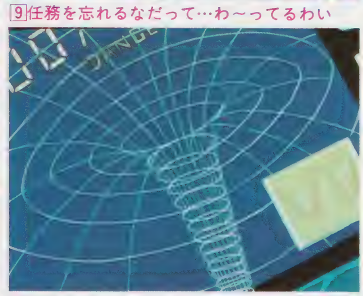

8 そしてボビット・ヒューイ…やっぱステキ♡


9 任務を忘れるなだって…わ〜ってるわい


10 その時、突然操縦室から爆発音が起こって…


11 ユリを先頭に中に飛び込むと機長は…


12 私らの目の前で自殺した


13 船の航路はブラックホールに固定されていた


14 ダーティペアだって見破られてしまった


15 あのサンデリックがいるだって？

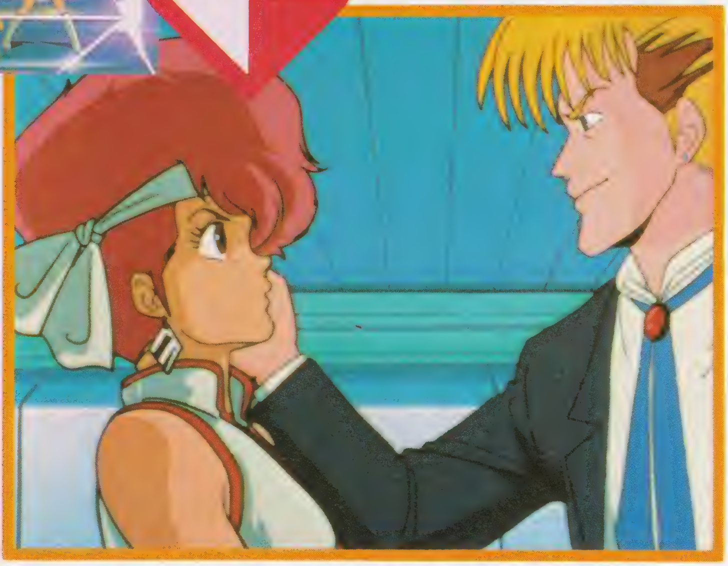

16 結構うまかったけど…あのガキかわいくない


17 暗闇でユリを襲ったのはマーカスだった





DIRTY PAIR



19あんたがサンデリックで、あたいに惚れただって…惚れたというところだけ信じてあげる



18あたいの方はというと、ヒューイに襲われて…何すんのよ！このスケベ！



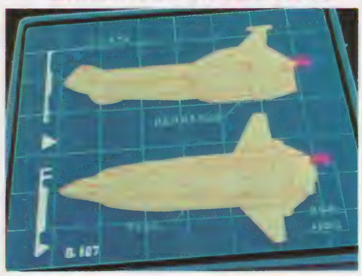
21機長のペンダントには彼女の昔の写真が…



20機長は６年前、マーガレットの夫だった…



25後５分で入るようになっていた…アチャ



24キーを外したとたん時限爆弾のスイッチが…



23ジャックの吹く「メリーさんの羊」が鍵だった！



22彼女の胸には二人の愛児ジャックが…



28奴の銃撃はあたいの命綱を打ち抜いた



27その間も船はブラックホールへと進んでいる



26爆弾を外しに行くと、サンデリックがいた！



30でも、奴はロケットの噴射により死んだ



29飛ばされまいとしたけど、ダメだった…



32ユリ！覗き見は良くないよ！



31えっ、ヒューイがどうしてあたいを助けに？

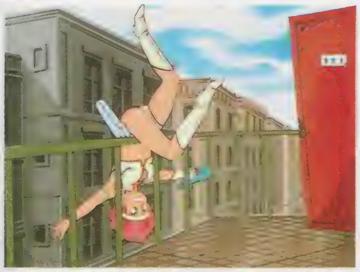


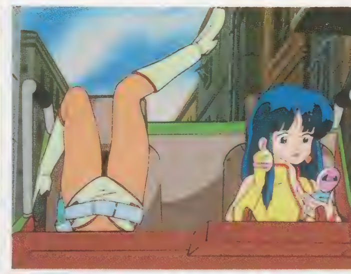
第18話 ごめんあそばせ 走る迷惑 強行突破！

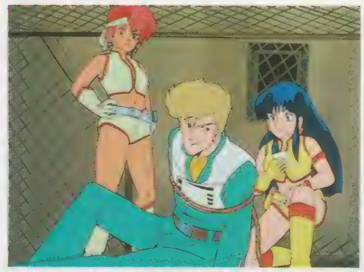
ケイ　…ど、どうする？
ユリ　どうするったって、どうしようも…そうよ、先手を打ってこれから主任のお見舞いに行きましょう…。
グーリー　お、おまえたち…！
ユリ　グーリー主任お加減はいかがですか？
ケイ　主任の忠実な部下二名、お見舞いに参りました。
グーリー　何が忠実な部下だ。警察署まで破壊しおって…。
ケイ　ゲッ、もう知ってる。
ユリ　グーリー主任、あまりお怒りになると、傷にさわりますわ。
グーリー　おまえらの顔を見るだけで。充分さわっておる。本当におまえらは、限度というものを知らないらしいな…。
ユリ　あら、あれは私たちのせいではありませんわ。警察署が手抜き工事をしていたんじゃ…。
グーリー　お、おまえら…。
ケイ　それにBJは保護しましたし、悪徳警察署長はやっつけたし、万事うまく…。
グーリー　バカモノ。割増し手当はなしだ。それから、ボーナスも覚悟しておけよ。
ケイ　ユリ　しゅに～ん！

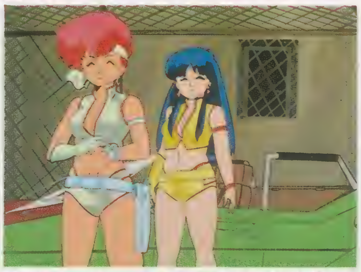

1 動かないで！おとなしくした方が身の為よ


2 写真と似てない…どうして撃ってきたのよ！


3 今度は間違えないように…非常口なの!?あ～


4 おかえりなさいって…ナイスキャッチ、ユリ


5 あんたがＢＪね、今度はドンピシャ

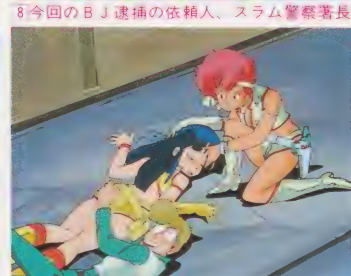

6 腕輪をつけたのに逃げるなんてバカな奴


7 あたいを人質にするなんていい度胸だ！

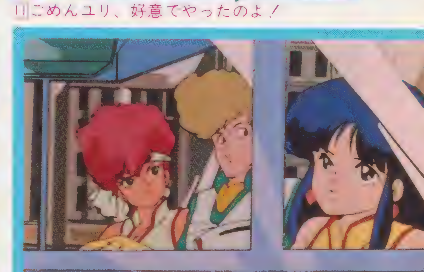

8 今回のＢＪ逮捕の依頼人、スラム警察署長


9 げっ、ビルを潰しちゃった事主任にバレてた！


10 時限　爆弾がついてる！


11 ごめんユリ、好意でやったのよ！


12 このＢＪって奴なれなれしい！

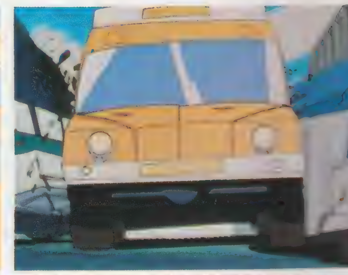

13 やな感じって…あっ後ろからつけてきてる！


14 いいから運転手、突破しちゃえっていうの





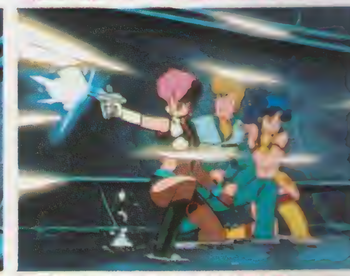
DIRTY PAIR



15私らの乗ったバスは道路封鎖を突破した



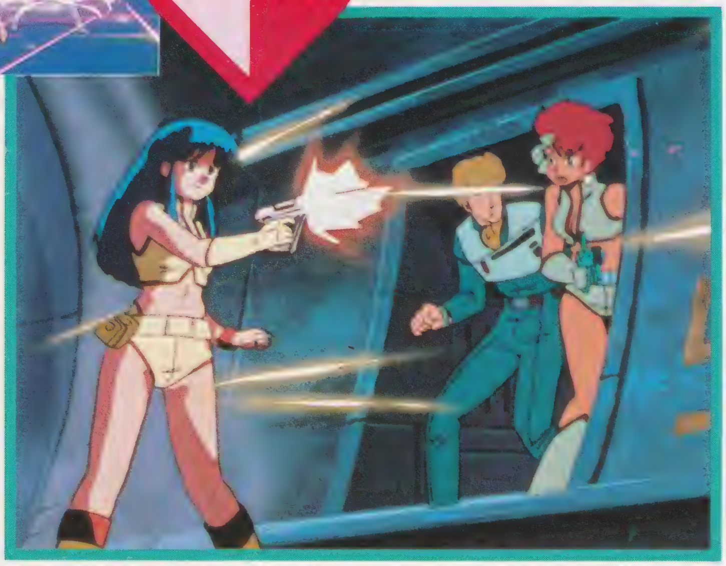
16乗客も手伝ってくれて…やっつけてやる



17ボケッとしてないでユリも早く撃ってよ



18その時、敵の後ろから大きなボールが来た



19必死に逃げてきたら…前からも撃ってきた… ユリ、危ない！後ろからボールが来た



20あれは掃除用のクリーニングボールだった



21ユリ、大丈夫？



22入ったレストランで私はＷＷＷＡに連絡した



23注文は…トレーラー一台。もう一騒ぎするか



24主任が警察に行くと…署長が犯人だった！



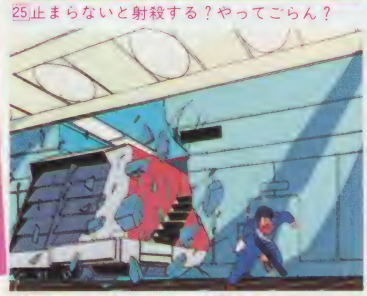
25止まらないと射殺する？やってごらん？



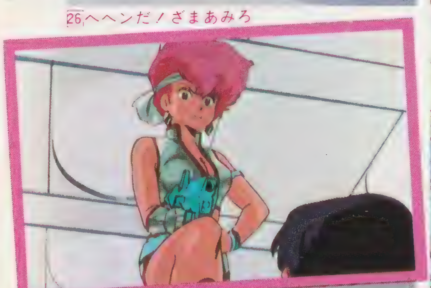
26へへンだ！ざまあみろ



27撃ってきやがった！うわ～っ



28署長、逃げようたって無駄よ！



29随分と手こずらせてくれたね！



30主任、大丈夫？無事、任務は完了しました



31 2つのビルを壊しちゃ…あ～っ、警察ビルが



32どうしよユリ？…やっぱ…逃げるしかない！



第19話 恋の恨みと逆恨み はらさず愛させて

レアモン　メシューゼラ、僕の愛は君への架け橋。谷の向こう、見知らぬ国に君が旅立とうとも、その架け橋が消える事は決してなかった…だが、僕はミラルダによって生まれて初めて真実の愛を知った。それが僕の体と心を一瞬にして変えたんだ。ごらん、なんて美しい夕焼けだろう。僕が神の手を持っていたなら、あの夕焼けをはがして君のベールにしてあげるのに…。

ユリ　ねえ、またレアモンの大脳皮質にインパルスが伝わって、分泌されたアガートト生液で体内の葡萄糖がアルコールに代わったんじゃない？

ケイ　あれは地だろうね。酔っぱらっているんじゃないんだろうけど…ううっ、それにしても、体がムズがゆくなってきた…。

ユリ　でも、なんとか犯人捜しを諦めてくれてよかった…。

ケイ　そうね。ねえ、また何か言っているよ。

レアモン　ミラルダ…今の僕には君だけが全てだ。これからの僕は新しい愛に生きるんだ。

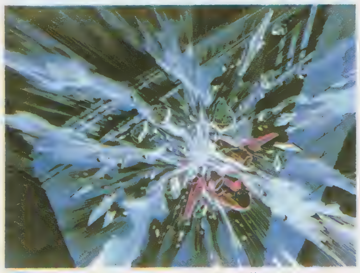
ミラルダ　レアモン様…。

レアモン　なんと美しい星空だろう。僕が神の手を持っていたならば、星をひと握りにして、君の髪に注いで上げるのに…。


2 この人が爆破された基地の親玉ギロス

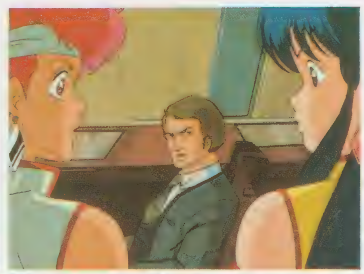

1 私たちはとある基地の爆破に成功した


4 メシューゼラ！と叫ぶレアモン


3 私たちの小型ポッドが屋敷に落ちて…


8 女性アレルギーで1m以[illegible]ないの？


7 メシューゼラのお墓にお参りをするレアモン


6 生身の女が嫌いだって？確かに変わってる


5 この人形のかたきを取って欲しいという訳ね




10 女に[illegible]酔っぱらうだ…


9 なんと情熱的な…迫ってみる事もできないわ


11 僕は神を呪うだって…やっと目を覚ました


12 私は彼に食べさせるお食事を作っていたの♡



DIRTY PAIR



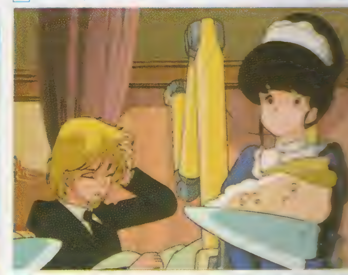
13ケイが女のけなげさでアタック？よく言



14あ～っ、あたしの料理に何をするのよ！



15ふん何よ。ケイの料理に調味料をた～っぷりと振りかけてやるわ



16ユリちゃんのほっかほっか愛情料理をどう



17何でこんな所に潜水艦が出てくるの？



18あ～、お前はギロス。



19ケイ、私の料理に何かやったでしょ、卑劣よ！



20マジに撃ってきたわね、ギロス



21おっと、危ない。簡単にはやられませんよ～



22ケイが触るから…おかげて凄い攻撃力だわ



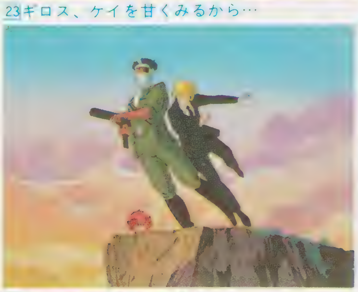
23ギロス、ケイを甘くみるから…



24ケイが崖からやっとの事ではい上がると



25気がついたレアモンを人質に取られていた



26レアモン、必死の体当り



27レアモンさま～！



28参りました。アレルギーも直ったみたいね



29え～っ、直ったのはミラルダに対してだけ？



30いよっ、御両人！いえ～い

FILM&STORY

第20話 追憶のブルースは殺しのBGM

ケイ　古くさい男だったけど、あれはあれでいいおじさんだったよね。
ユリ　そうね。
ケイ　マザコンでさ、30年前の母親殺しのかたきうちするなんて…。まるで時代遅れったけど…イイ男だった…。
ユリ　うん。
ケイ　あたし、ユリが出て行った後、あいつと特製手錠をつけて、二人きりで過ごしただろ?あん時、あいつ朝までほとんどしゃべらなかったんだ。…だけど、なんていうのかな、暖かさみたいなものを感じさせてくれたんだよね…。
ユリ　殺し屋だけど、死なすには惜しい人物だったわね。善人面した極悪人のメルポットに比べれば、はるかにいい人だったもの…。
ケイ　そうね。死んで、みんなを助けようとしたもんね。
ユリ　今時、珍しい男だったわね。デュランJrの仲間みたいに、アホな連中がいただけに、よけいそう感じるかもしれないけれど…。
ケイ　ブルース…か…。
ユリ　ブルース…ね…。


1主任からのプレゼントって手錠だってさ


2お困りですかって聞いて来るはずなのにね…


3助けてくれたこの人、私らの事業人だってさ


4ミスクリィミーギャルコンテスト…ねぇ


5消えて、お酒がまずくなる


6もったいないだって…せこいよユリ


7ナイフなんて…といっても相手にならないか


8もっと骨のある奴はいないの？まったく！


9追いつけるもんなら追いついてみ…


10あんたは自分の首を狙ってた私らを助けた


11うっ、殺し屋ブルースの左腕があたいを…


12あたいがやられてもユリがいる…有利ね



13メルポットを殺る？訳ありね


14コンテストで御機嫌なメルポット



15明日モノレールでＣＭロケをやるところで、奴を火の海にたたき込むだって？






18女の子には悪いけど、替わってもらって…ちょっと胸かキツめだけど…まっ、いいか

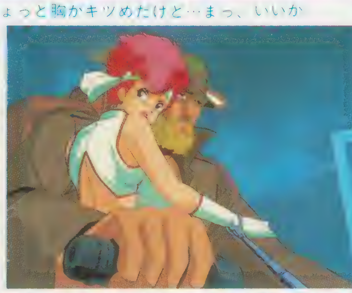

17ユリめ、私をおじさんと二人にしてどこへ行ったのよ


16母親が火の海に投げられた


20ボロケンホテルを火の海に包ませるだって？


19見つかったか、あのガキに？


23この左腕はさすが凄いパワーね


22どうするの、これじゃ近づけないじゃない


21今の話を聞いて、ちょい事情が変わったね


25ユリめ、ドジって捕まるんだから…


24殺されたジェーンの息子！


27ブルースは手錠を切って、一人で…


26形勢逆転。なに！起爆装置のポイントはこの先の大きな登り坂ですって！


30ふ～ぅ。ブルース…いいおじさんだったわね


29今度はこっちの車両が危ない、ブレーキ！


28ブルース！その身を犠牲にしてまで…

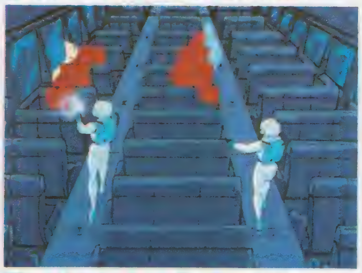


第21話 うっそー！消えた463人

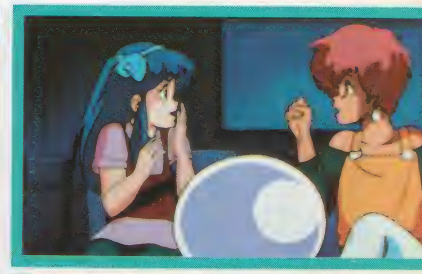
アーサー　こんなの犯人じゃない。そんなはずがないよ、絶対あるはずないよ。
ケイ　どうしたのよ、アーサー。
ユリ　ねえ、どうしたの。
アーサー　そんなはず…。
ユリ　…もしかしたら…。
ケイ　ユリまで、どうしたのよ。
ユリ　さっき、ひとつだけ807便の463人を消す方法を思い付いたと言ったでしょ、どうやらアーサーが…。
ケイ　アーサーがって、あんたまさかアーサーが犯人だと…例えそうだとしても、どうやって？
ユリ　確信はないのよ、それにしても分からないことが…。
ケイ　思わせぶりなことばかり言って、本当は何も思い付いていないんじゃない？
ユリ　うっさいわねー。ちゃんと思い付いてるんだから…。けど、この要求文が分からないの…あたしの思った通りならば、今こんなのが来るわけないし、アーサーがあんな風に言うはずが…。
ケイ　あによー、ブツブツわけ分かんないこと言って。教えてくれたって…もういい、あたしエディさんを呼んでくる。


1 磁気嵐で連絡が取れなくなった管制塔


2 無事に着陸したけど、様子がおかしい807便

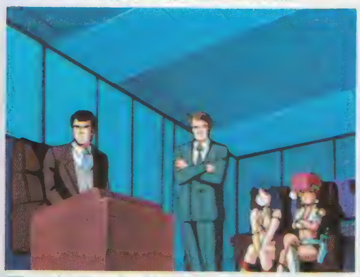

3 中を捜してみると、誰も乗っていなかった！


4 ただ一つの乗客の慰留品がこの人形


5 バカンスはオーシャンリブに決めましょ！


6 惑星デューダにお仕事で行く事に…あーあ

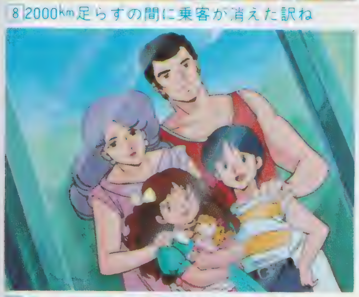

7 彼が調査官のエディ・ロス？…アーサー君か


8 2000kmを足らずの間に乗客が消えた訳ね


9 乗客の慰留品って、彼の娘の物なのね


10 整備場であの子を追いかけて行くと…危ない！


11 望み通り真っ黒じゃない、ケイ


12 君、メロディのお兄さんだったのね


13 何が大サービスよ、未成年者の前で


14 あに考えているのよ、ケイ！


15 ムギをおもりにしようか？


16 グッドアイデア！


17 凄いテクニックで通り過ぎて…一体何者？


18 犯人からの脅迫状が…やっぱり誘拐？



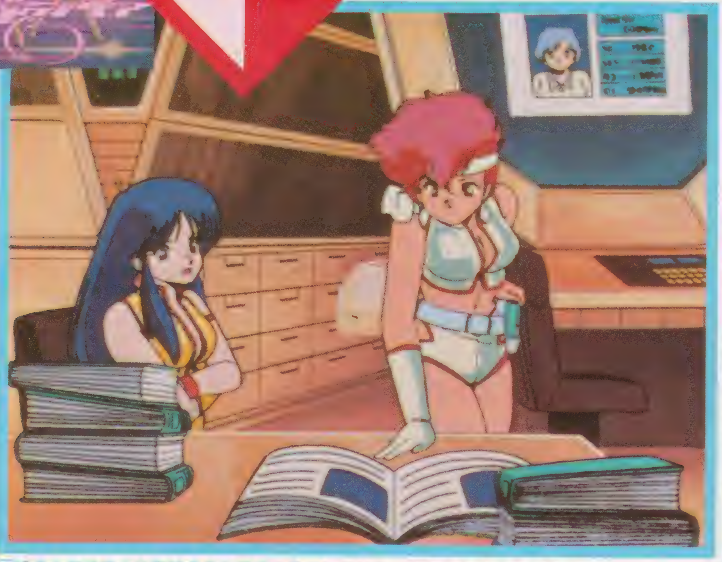
DIRTY PAIR



19私たちは狙われそうな乗客を探った



20ケイの言う通り常識的な事件じゃないけどさ



21船長と副操縦士は密輸事件の捜査に協力していた…もしかしてその犯人が…



22まあ、ムギったらアーサーのいい



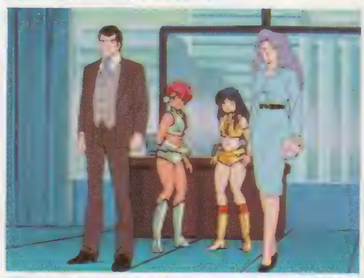
23前に機長たちの事を聞きにきた人がいるの？



24うわ〜っ、絵に描いたような美人



25後を取られた…えっ、シャノン・ロスだって？



26別々に捜査をするなんて、冷えきった夫婦ね



27アーサーは事件に関係がある様な気がするわ



28アーサーを連れ出そうとした時、



29ケイ、大丈夫？誰、打って？



30何者かの自動車に襲われて…ここを壊しちゃったのは必要経費で落ちるかしら？



31逃げるのよアーサー





32また脅迫状が届いた…どうしたのアーサー？



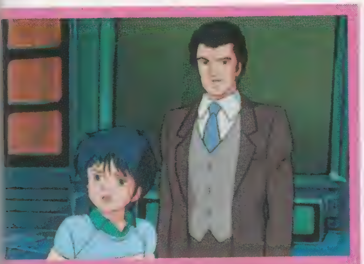
33こんなの犯人じゃないよって、どうしたのよ

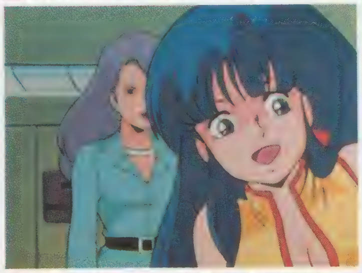
第22話 やったね！出てきた463人

FILM & STORY

ケイ　いえ〜い。オーシャンリブでバカンス！3ケ月ぶりの休暇、楽しまなくちゃ。
ユリ　いい男いるといいわね〜。
ケイ　お〜お、よだれたらしちゃって…。
ユリ　誰が、よだれたらしているですって？
ケイ　いえ、別に…。
ユリ　ケイ。来たそうそう、何寝ているのよ。
ケイ　あたしな健康なお肌を作るのに忙しいんだから、じゃましないでよ…。
ユリ　さっすが健康だけが取柄の…。
ケイ　誰が、健康だけが取柄だって？
ユリ　アハハ。…ね、ねえちょっとケイ。あれ、アーサー一家じゃない？
ケイ　えっ?アーサー?…あっ、ほんとだ。
ユリ　仲良さそうな一家になったわね。
ケイ　807便事件の解決で家族のわだかまりが取れたみたい。
ユリ　何にしても良かったじゃない。事件は解決したし、今度こそ主任の邪魔も入らずにバカンスを思いっきり楽しめるわよ。
ケイ　でもあそこで別れて、もうここにいるという事は…報告書は大丈夫なのかなぁ。
ユリ　だ、大丈夫よ。占いによると「預けものは人に届く」だし、エディさんは仕事の鬼のような人だもの忘れるはずが…。


1何なのかねぇ？ファイルEって…

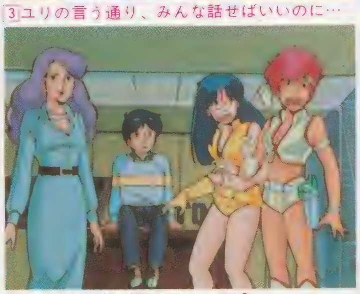

2犯人からじゃないってどうしたの、アーサー

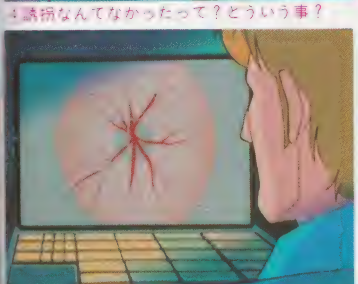

3ユリの言う通り、みんな話せばいいのに…


4誘拐なんてなかったって？どういう事？


5パスワードを覚え、データを入れ換えた訳か


6何が女の勘よ、単なる当てずっぽうじゃない


7 808便と連絡が取れないって？


8密輸団の連中は網膜パターンを登録していた

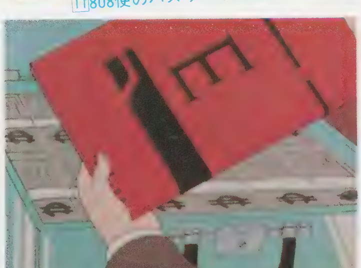

9関係者は機長たちクロッカーとスタブロス！


10 808便を捜すか…簡単には隠せないからね


11 808便のパスワードを調べるのね。


12私らは隠せそうな所を捜しに行った


13熱センサーがあるから…ある訳がない…か


14身代金を持ってどこへ行くの？


15エディは、一人で犯人の指示通りに行動した


16エディの後を追う事が出来ない、どうしよう？


17あたしはナンモを応援に連れてきたの





DIRTY PAIR



20エディさん大丈夫？あいつらを信用して、一人で金の受け渡しにいくから…



19トランクを要求するクロッカー



18やった、あと一桁！もう少して



22ユリ達は前に行ったスクラップ場を探索した



21私らより荒っぽい操作でそこに



26ユリのボディアタック ちゃんと捕まえてよ！



25えっ、これが808便の機体？



24死に化粧くらい念入りに…早くしてよ、ユリ



23せっかく侵入したのに
らわれの身に…



28ムギ！そのままそいつを押さえてな



27遅いじゃないユリ、厚化粧になったじゃない



31メロディも無事助かって…まずは事件解決



30はいクロッカー、御愁傷さま。観念するのね



29100m先まで走れって、ひえ



33いえい！バカンスバカンス！サイコー！

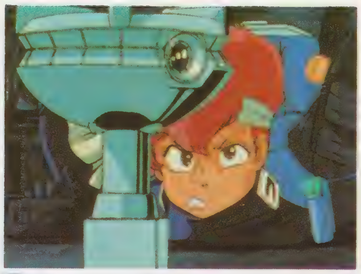


32幸せな一家になってね、エディさん



第23話 不安だわ…!? うちらの華麗なる報復 最終話

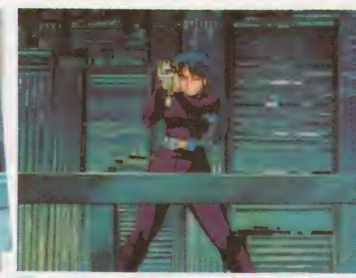
ケイ　本当に良かったの？ユリ？あれだけの美形をふっちゃって…。
ユリ　しつっこいわね、また足踏まれたいの？
ケイ　わーった。ちょっと待て。そうそう、落ち着いてムキにならずに…。
ユリ　誰がムキになっているって？
ケイ　わーった。あたしが悪かった。ほんとにもう…でも、ちょっと惜しかったな、3千万クレジット…。
ユリ　なにブツブツ言っているのよ。
ケイ　…ユリは素晴しいパートナーだと…。
ユリ　見えすいた嘘言うんじゃないの。
ケイ　いえいえ、美形で好みのダニエル氏よりも、あたしのような男役しか出来ない相棒を選んでくれたのですから…。
ユリ　そんなに、ひがまなくても…。
ケイ　あたしはボーイにアナウンサーにメルナード、ユリは世紀の大金持ちエルヌイカジャク嬢、…素敵なシナリオでしたわ。
ユリ　しょうがないじゃない。奴が作ったもんだもの。
ケイ　そう、奴が作った物だもんね。
ユリ　もう、何が言いたいのよ。
ケイ　うちらは華麗なラブリーエンジェル。信頼してますわ、ユリ♡

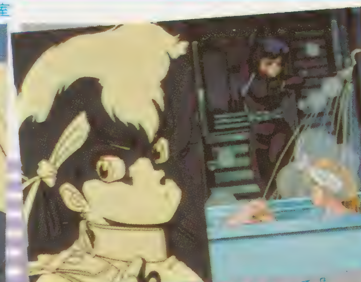

1 監視システムに見つからないで、ケイ


2 あたしは中の様子を伺って…

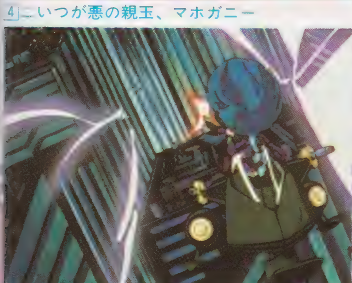

3 ここがマホガニー一味の集まっている応接室


4 こいつが悪の親玉、マホガニー


5 奴に狙いをつけた所で…中止命令？何でよ？


6 この件に深入りするなだって？


7 うわっ、見つかった　ユリ、お先～


追いかけられて…振り切れない…

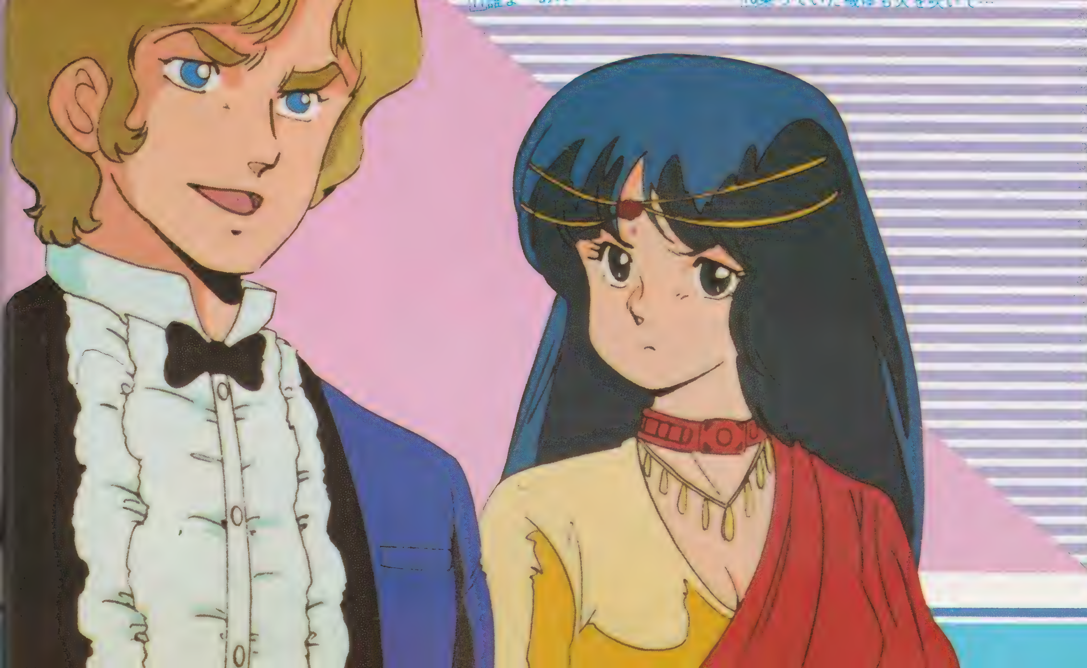

10 乗っていた機体も火を吹いて…


11 誰よ…あんた二枚目ね…


9 あうっ、やられた！


12 いきなりキスされて…おかげで助かった…


13 あたしはついに気を失ってしまったの





DIRTY PAIR



14この血の跡…もしかして、…



15この包帯はいったい？それにこの服…



16この男、あたしの裸を…それ…



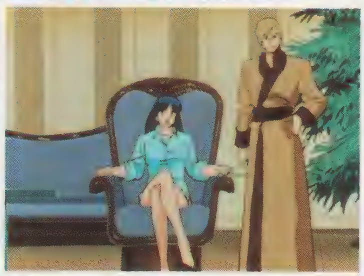
17あたしは、ケイの元に連絡を入れた



18足を見せなさいよだって？ほれ、足見せたわよ…少し落ちついて欲しいもんだわ、ケイ



19あんですって？銀河系最低の惑星ヘルドーラを3000万クレジットで買わせるだって！



20全ての手はずと役割はここに出来てるわ



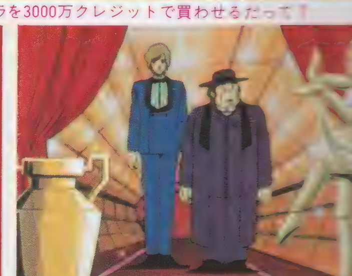
21その上、ダニエルはいい男だしだって？何よ！



22ボーイ姿が似合ってる♡



23メルナード様ですね…うまくやったわねケイ



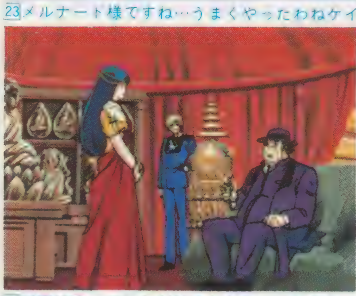
24マホガニーはBC561に来た



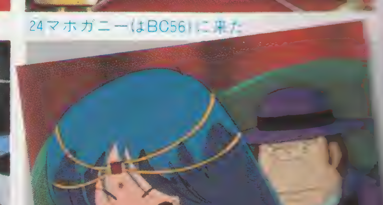
25お待ちしておりました。素敵な笑顔でしょ



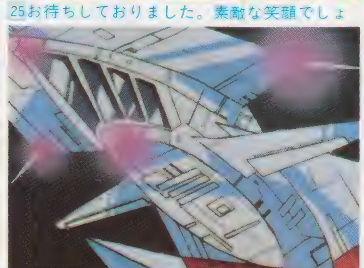
26ケイ、みっともないわよ



27秘密は守っていただけましたね。では早速…



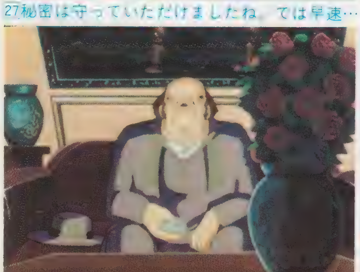
28見事に…



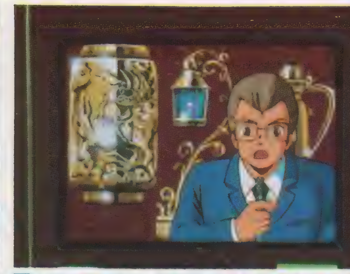
29マホガニーを乗せてヘルドーラに向かった

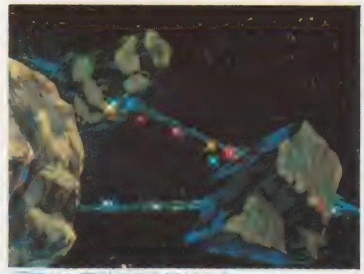


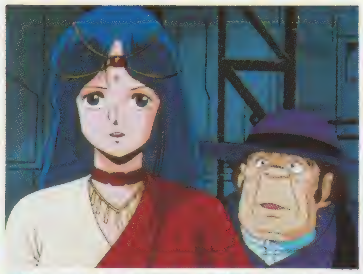
30悪いけど、葉巻はやめて下さる？



31奴め、私たちのビデオを見て信用してるわ


32ケイの名アナウンサーであたしを信用させた

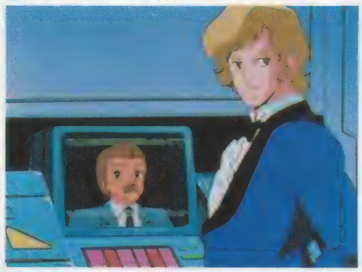

33僅かな石炭で生き延びてきたヘルドーラ

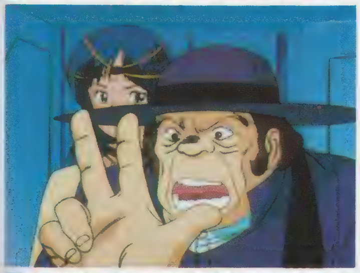

34計り知れないほどの金を埋蔵していたんです

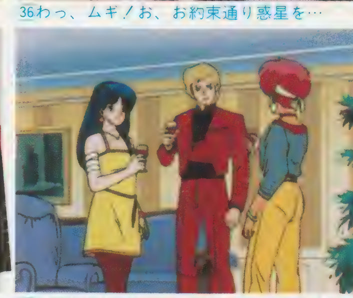

35ケイ何やってるの、間に合わないじゃない！


36わっ、ムギ！お、お約束通り惑星を…


37ムギ、声を上げちゃだめ！


38その男は偽物だ…今度はメルナード役ねケイ


39つり上げに成功。ついに金を出させる事に…

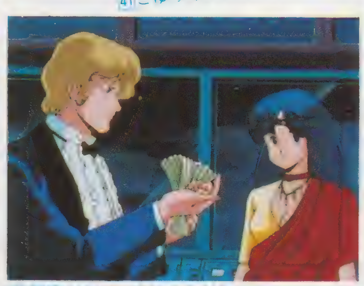

40取引は明日ボートドーリン7時、まずは前祝


41ごゆっくりだって？

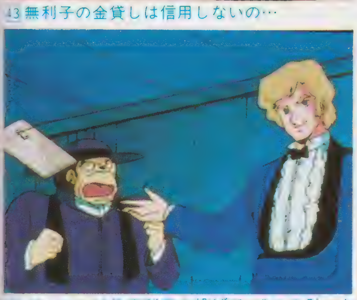

42君を愛している…ね、私はペテン師の求愛と

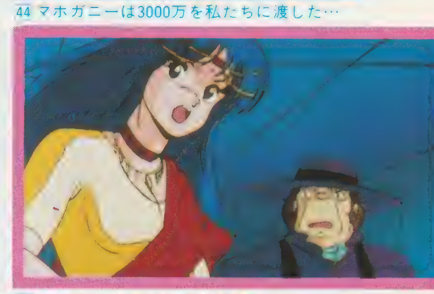

43無利子の金貸しは信用しないの…


44 マホガニーは3000万を私たちに渡した…


45間違いない、本物の金だわ


46 会長、やつら偽物です！…しまったバレた


47 ダニエルは偽権利書を投げて、逃亡を計った

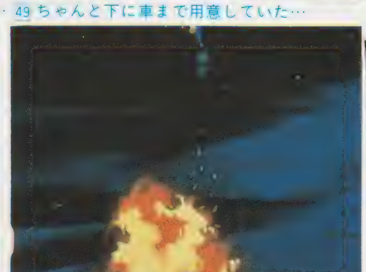

48 ダニエル！窓から逃げたのね


49 ちゃんと下に車まで用意していた…


50 ケイの操作するクレーンで手下はこの通り…


51ラブリーエンジェルをナメるからこうなるの


52 腕が落ちてないかって？バカにしてるな…


53 どう?うまくカバンの蓋を撃ち抜いたでしょ！


54 何が俺の流し目に落ちない女はいない…よ


助けなくたって、かまわない奴だったわ

第23話 名場面原画集







第24話 かなりマジ？ マンションは危険なアドレス

番外編

グーリー　何はともあれ、よくやってくれた。すぐに報告書を持って本部に戻ってきて…、いや…そうだな…。
ケイ　どうしたんですか？主任。
ユリ　有給休暇でも、くれるんですか？
グーリー　う…うむ。
ケイ　え～っ、うそ～！本当ですか？主任。
グーリー　この半年、働かせ過ぎかもしれんからな…。もし、おまえらがあの犯人のようになったら、被害者になる男は33人なんてもんじゃすまないからな。
ユリ　あたしたち、そんな事しませんわ！…あ、いえ…なるかもしれません。ええ、なっちゃいます。だから休暇下さい…。
グーリー　よし、持別に1ヶ月の有給休暇をやろう…放映も終わった事だし…。
ケイ　いやっほ～。休暇休暇、1ヶ月の有給休暇。いっぱい、遊ぶぞ～。
ユリ　やっと、仕事から解放されるんだわ。ユリちゃんうれしい！今度はちゃんと男をつかまえ…あれ、何ですか主任？
グーリー　突然で悪いんだが、今依頼が入った。休暇は取りやめだ。急いで、惑星ウクバールへ飛んでくれ。
ユリ ケイ　そんな事だろうと思った…。


1 今日もマンションの女が狙われていた


2 そして、また一人の犠牲者が…


3 ユリを付け狙う黒い影…実は、あたいなの


4 カビ臭いマンションに3日も閉じ込められて


5 ナンモとムギもチェスで退屈しのぎ


6 資料を読んだかって？アハハ、もちろん…


7 犯人はマンションの女性ばかり狙って…


8 ゲゲッ、乙女の見るものじゃないね～


9 その時、セールスマンがやって来た


10 こいつがレーザーナイフの訪問販売員…か


11 ひえ～っ。ゆ、指を切った～！


12 冗談ってねぇ～、このスカ！


13 凄い美形のこいつはマドンナ社の訪販員ね


14 白い活火山ね…なるほど凄いブラだ事

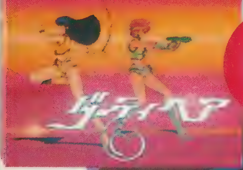

15 何してんのよ、このコソドロ野郎


16 潔く白状しないとこのおじさんに切られるよ


17 ちょっとタンマ…こ、この子も訪販員なの？


18 その目は…ぎ、義眼なのね

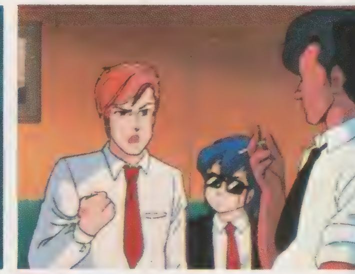

19 刑事まで来て…ムギの助けをした…



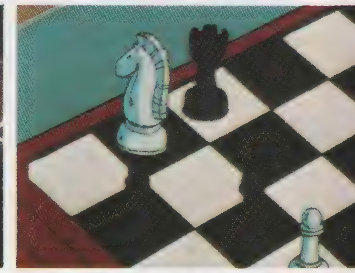
DIRTY PAIR


22最初の被害者の残した文字は「P」つまりポーン、場所はここ。謎解きが始まった


21 33件目の殺人現場ブルーマンション


20現場のあの文字には意味なんかないのかも…


24ここも8×8のマンション…


23こうするとチェックメイトになるじゃない！

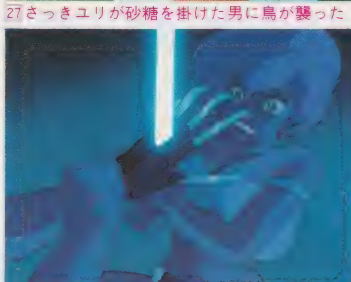

28奴がついに本性を現して襲ってきやがった


27さっきユリが砂糖を掛けた男に鳥が襲った


26どうする気なんだろ？ユリは…


25さあケイ、ジェイクバードを離して


30ユリの一発でやっと気絶させる事が出来た


29レーザーナイフのおかげで…くっ、この～！


31これでチェックメイトだね


32こうしてもう一人の犯人双子の弟も捕まった




ダーティペア
DIRTY PAIR
T.V SPOT FILM
新番組
ダーティペア
7月15日 月曜日
夜7:00 スタート!!



ILLUSTRATION
小林 ゆかり
YUKARI-KOBAYASHI

オリジナルビデオ

ダーティペアの大勝負 ノーランディアの謎(なぞ)

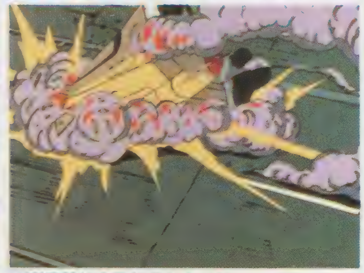
惑星ウクバールの首都アジジジョハリで輸送船の墜落事故が多発していた。一方、コニーからミスニーの保護依頼を受けたＷＷＷＡは、ラブリーエンジェルを派遣することに決定した。そして現地に向かう途中で、二人はクレアボアイヤンスでミスニーと邂逅する…。

アジジジョハリで依頼人が殺されているのを知り、二人は手がかりを求めてノーランディアの森に向かう。その森でミスニーの存在と正体を、さらに背後にある現地を支配するＡＪディベロップ社の陰謀をつきとめる。こうして、事件は結末へと動き出していった…。


1 全ての始まりが、このミスニーたちだった


2 会社の支配を嫌って脱出した岸田博士だが…

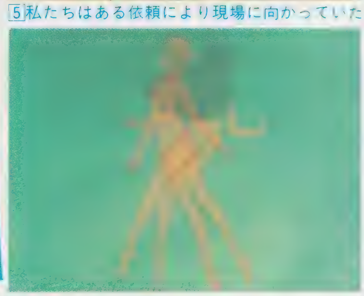

3 ミスニーの幻覚攻撃によって…


4 宇宙船は大破してしまった


5 私たちはある依頼により現場に向かっていた


6 L.A.号で私達はその画像を見た


7 「この世に存在しない物」に悩むケイ


8 手をつないだ瞬間、クレアボアイヤンスが…


9 ミスニーが見せた物なの？


10 クレアボアイヤンス…事件の手掛かり…


11 ミスニーの保護者コニーの所へ…


12 何物かが襲ってきて、コニーは…


13 殺されてしまった

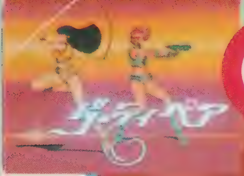

14 私たちは救急車の後を追ったが…遅かったの


15 救急隊に連れてこられた所は…



発売：バンダイグループ
㈱ネットワーク　フロンティア事業部

カラー 55分	VHS：BES-150
	Bata：BEB-150 ステレオHi-Fi



DIRTY PAIR


16AJディベロップ社保安部長サマラの所だった


17彼女は私達をこの都市から去らせようとした


18彼女の言葉を信じてノーランディアへ飛んだ


19殺人犯人はミスニーを追って…急がなくちゃ


20行けばなんとかなると思ったその矢先、L A 号の船尾で何かが起った


21識別信号が出ているって？


22ケイが横でうるさく言うから…


23ついにタッチダウン、ムギはふんばったけど


24私たちはダウン


25L.A.号は地面に突き刺さって、修理不能に…


26識別信号の発進場所へ私たちは向かった


27あたしはここの生物の異常さに気付いたの


28ミスニーのロケット(？)を突き止めたけど…


29このロケットはどう降下したのかしら？


30ノーランディアの森にきりん竜が現れた！


31雨が降り始めると今度は花たちが動き始めた


32その晩、ケイとあたしは同じ夢を見た…


33それは気持ちの悪い軟体動物につかまれて、包み込まれてしまう夢だった


37森にはたくさんの生物たちの死骸があった


36私たちは朝、現場に駆けつけてみると…


35その夜、何者かがこの森に忍び込んできた

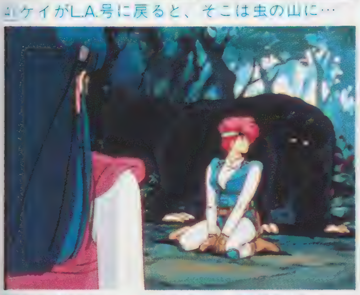

34夢にうなされ、二人とも起きてしまったの


41ケイがL.A.号に戻ると、そこは虫の山に…

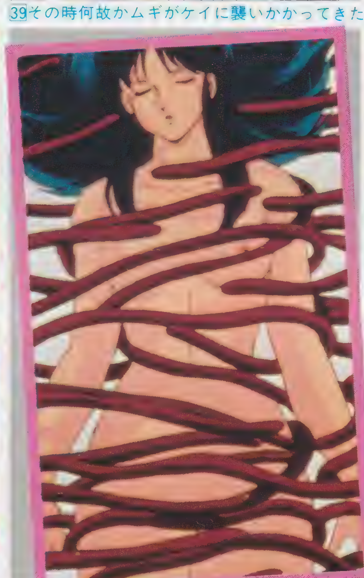

40ケイはあたしを抱えて逃げてくれたの


39その時何故かムギがケイに襲いかかってきた


38入ろうとしたあたしは倒れてしまい…


46水を掛けたら、ケイはやっと気が付いた


45幻覚から必死に逃れようとしているケイ


44私は森の生物に包まれてた


42何が起こったの!?


48ケイを落ち着かせると…


47本物のユリなの？…しっかりして、ケイ


43ケイが気付いた所は病院の中だった


52ミスニーが生物たちを使って…？


51対ESP部隊が生物たちに襲われ全滅


50ノーランディア全体がこの世ならざる物よ！


49この森の謎は有機物の構造にあったの


54あたしは自分の脳波を調べて、これが幻覚でない事を確かめたの


53きりん竜を追ってくとそこに異星人の遺跡が

オリジナルビデオ ダーティペアの大勝負★★★★ ノーランディア(なぞ)の謎


55きりん竜をいたわるようにミスニーが現れた


56作戦を変えて、私たち遊ぶ事にしたの


59私たち鬼ごっこはちょっと過激かな？


57まずは、湖で水上サーフィン


58幻覚を見せられても気にしないの




60あたしの作ったお人形、かわいいでしょ


61ケイの作った鼠人形、ムギも恐かったみたい


62ほんとに楽しいわ、サイコー！


63作った人形を岩の上に置いて…


64水辺で日光浴をしてると、幻覚で美男子が…


65それを見て、ケイはカイボウしたらかですって


66その頃サマラに電話が…


67ピクニック？仕事にも様々な仕方があるの！

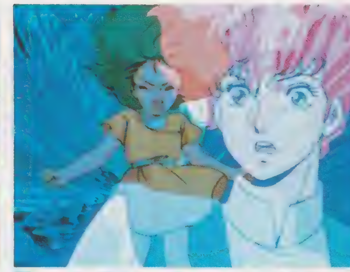

68落ちていた雛を巣に…私が支えていたのよ


69いらっしゃいミスニー、恐がらないで


70ついにミスニーが出て来てくれたの

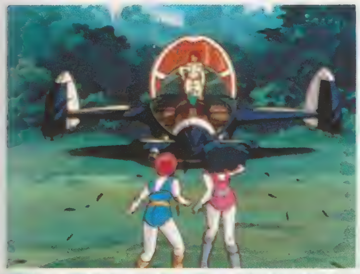

71もう恐い人たちの事は心配しなくていいのよ


72帰ろうと言ったとたん、ミスニーは恐怖し…


73そして、私たちに様々なイメージを見せた


74ミスニーの過去のイメージ…？


75その時、一条の光りがミスニーを貫いた

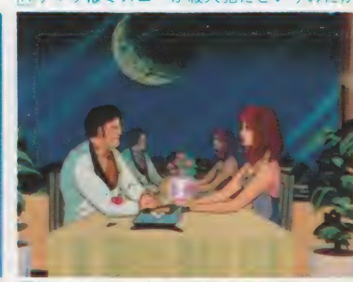

そこに現れたのはサマラとユルジスだった


77サマラはミスニーが殺人犯だというのだが…


78私たちの目の前でミスニーは連れ去られた


79私は返す言葉がなかった…


私たちは一時、ウクバールを去った


81弱気になったサマラを励ますオラン


82AJディベロップ社の…


85動かないで！ケイの腕は確かなんだから


ムギのお守のパイトを捜しに戻ったのよ


83窓から私たちはおじゃまさせてもらったの


84帰ったんじゃないのかって？おあいにくさま

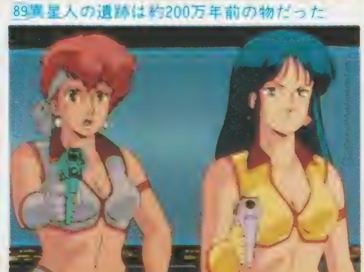

オランは不敵な笑いを浮かべたけど…


88来る前に行ったウラン鉱山の事を言うと…


89異星人の遺跡は約200万年前の物だった


90遺跡の大半は目的さえ分からない物だったが


使い方を見つけた物で、ミスニーをも…


92生命を弄び、支配を企む奴は許せない


93弱者は滅びなきゃいけない？そんな論理！


94その時、サマラが入ってきて…



ダーティペアの大勝負 ノーランディアの謎(なぞ)


95邪魔だとオランはサマラを跳ね飛ばした


96ケイはユルジスの一撃をかわしたが…


97追い詰められた所を助けたのはサマラだった

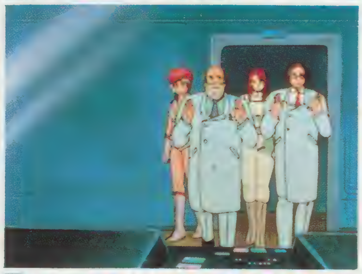

98一方、オランは車で逃走した


99あたしはタクシーの車を借りて、オランの後を追跡した


100ケイはサマラと共に研究所へ


101あたしはあくまでもオランを追い続けた


102まいたつもりでしょうが、そうはいかないわ


103ミスニーを元通りにする為に所員を動かし…


104カプセルの中で眠っていたミスニーの目を覚まさせた


105ジェットローラーを使ってでも追跡するわ


106せっかく車を止めたと思ったのに…


107絶対、逃がさないんだから

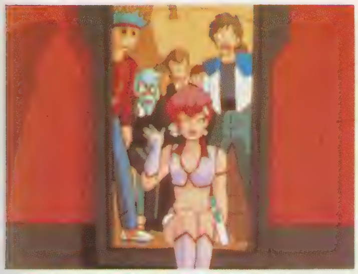

108ケイはモノレールに逃げ込んだが…

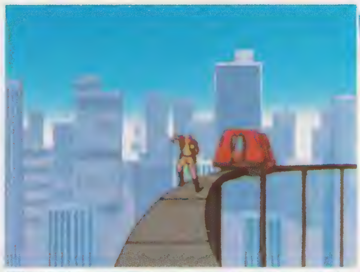

109ユルジスは怪力でドアをこじ開け入って来た

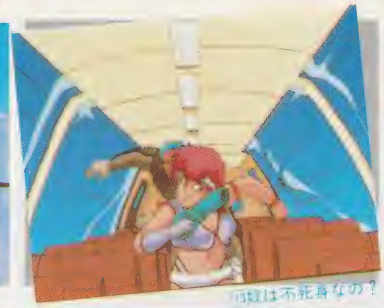

110ジャマよ、どいて！


111ブラッディーカードの威力！

オリジナルビデオ ダーティペアの大勝負★★★★ # ノーランディアの謎（なぞ）


でも、ケイの放った爆弾で終わりね…


切り放した車両からまだ追いかけてくる！


奴は不死身なの？

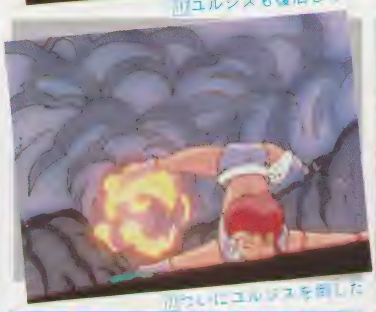

逃がしはしないわ、オラン！

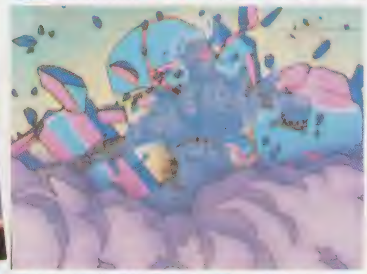

多くの人を巻添えにするなんて許せない！


ユルシスも復活して…


追いかけっこはここまでね、オラン、ケイがやっとの思いで捕まえてくれたけど…


オランは遺跡の一部と共に脱出しようとした


ついにユルシスを倒した


シャンデリアに潰され、撃ちのめされて…


サイボーグは銃で撃たれても死なないが…


その時、ミスニーが目覚めて…


125 ついに…やったわ


124 勝ったと思ったオラン、そうはさせない！


123 あたしは冷静に奴の機体を狙った


ミスニーたちが崩壊を早めた。…結局、私たち、ミスニーを助けられなかった…


元々侵食により弱い土地だったけど…


アジジジョハリが崩れ始めた…

ケイ　どう、ユリ？報告書は書けた？
ユリ　だいたいはね。でも、これで良かったのかしら？あの星の人たちにとって…。
ケイ　生命を弄ぶ奴は始末したんだし、良かったんじゃないの。
ユリ　そうね…うん…そうよね。
ケイ　そうよ、あたしらラブリーエンジェルのやった事に間違いはない！
ユリ　そうだ。ムギのおもり役へのバイト代、主任に払わせちゃおうと…。
ケイ　それはいいや、それからボーナスもね！


132 SEE YOU NEXT VOL…!? AGAIN bye bye…


131 ケイ、部長への報告書はまかせたわよ

130 誰も彼女を恐がらせたりしないと思うわ

DIRTY PAIR

①ケイたちのアパートメント・リビング。壁に組み込まれ
た脚立に乗ったケイが、カルーが
たエアコンを修理しながら……ジョーズ……でもしせ
ケイ「九十パーセント、ジョーズ……でまし
犯人とみて間違いないわ……このた、君
くね。そこまで突きとめたって……プラス
どころが判らないなんて……プラスドライバーを
手伝うナンモが……ケイの額の前まで
アームでつかんで……
伸ばす。

第25話・第26話

未放映 ストーリィ・ダイジェスト

第25話 脚本 星山博之

ケイとユリはニセ札犯人の逮捕を依頼されたものの、犯人の居所がわからない事をいい事に、勝手に休暇を取っていた。

一方、事件を解決してもいないのに休暇をとっている二人に腹をたてたグーリー主任は、新たに提供された情報を盾に、早速二人を現地に向かわせようとした。ところがユリは買い物に出かけており、ケイはユリに置き手紙を残して、一人出発する事になった。

不安を感じたグーリー主任は、助手のキャリコを手伝いに行かせた。キャリコにとっては久しぶりの現場である。シーサイドボートにグリーンベレーの格好をして現れた彼は、ケイと共にモーターボートで情報があったタムル島に向かった。

その島の頂上付近には別荘が建っており、ニセ札犯人と目されている消息不明の男、ジョブス＝ガルーがいた。ガルーはそこで、失った息子のマックの代わりのロボットと妻のミレーヌと共に暮らしていたのだ。ミレーヌは、ロボットを息子として扱う夫の姿を見て、泣き崩れるのだった。

ケイとキャリコを乗せたボートが島に近付くと、金属製ジョーズが襲いかかりボートは破壊されてしまう。ようやく二人が島に着くと今度は小型ロボットにおきかえ、ガルーは二人の姿を認めると、そのロボットたちに攻撃命令を出した。二人は拳銃二丁とバズーカで応戦したが、小型ロボットは移動スピードが早く、苦戦を強いられる。

一方、ユリが買物から帰るとケイがいない。ムギが[illegible]のりんごを食べたので、置き手紙はソファーの下に舞い消えていた。不審に思いながらも、ユリはWWWAの保守より、ガルーの息子が上司の不正により自殺したという情報を聞く。その時、ケイからのコールが来て、初めてユリは事態を知った。

邸内ではミレーヌが、WWWAの応援を恐れガルーに逃げるように説得していた。ガルーは小型ロボットを引き上げ、替わりにマックを戦闘に送った。そして、彼は地下のニセ札工場から原版を抜き、工場破壊をロボットに命じて、妻とともに小型艇に乗り込んだ。

ケイはマックと交戦している最中に、地下工場への入口を見つけ侵入した。ケイはこの工場を破壊しようとしたが、無数の小型ロボットがケイに襲いかかりこの工場を[illegible]しているのを目撃する。

ガルー夫妻が乗り込んでいる小型艇が発進しようとした時、ラブリーエンジェル号でユリがやって来た。ケイはユリに小型艇の破壊を指示し、ガルーの命令により工場を守ろうと攻撃して来る小型ロボットをキャリコにまかせ、ガルーを追う。

ユリはその頃、地上に降り立ちマックの攻撃に四苦八苦していた。ケイがそこへ助けに入り、マックに一撃を食らわせた。だが、それがコントロール系を狂わせ、一転マックは逃げ出していたガルー夫妻を襲う。間一髪マックを破壊するケイ。マックの狂った最後に己の姿を見たガルーは、地下工場から這い出たキャリコに素直に逮捕されるのであった。

しかし、ユリの言葉からガルーの息子への気持ちを知ったケイは、残っていた小型ロボットを使って逮捕の邪魔をする。キャリコはたまらず逃げ出し、海に落ちてしまう。ケイとユリはL・A号で地下工場を破壊し、ガルー夫妻を残して去っていくのだった。

救援ボートに残されたキャリコは、「ダーティペアー!!」と怒り心頭で叫ぶのだった。

第26話 脚本 大川俊道

ある朝、グーリー主任と助手はWWWA兵器開発研究所に視察に来ていた。中に入ってみると、所員たちが倒れていた。警備隊長のマルカスが反乱を起こしたのだ。助手は警備隊に殺され、グーリーは捕虜にされてしまう。

緊急呼び出しを受けたユリとケイは、グーリーの代理を務めるキャリコにこれまでの事情を聞いていた。一味はグーリーを人質に、また最近完成したゴッド・キャノンによるエレノアシティ攻撃を止めるかわりに、100億クレジットを要求してきたのだ。しかも24時間の期限付だった。

WWWA首脳部はすぐにこの問題に対する結論を出した。脅しには屈しない。しかし奇襲や人質救出作戦も行わないというものだった。研究所の地下には自爆装置が仕掛けられており、その装置を期限直前に発動させる。装置は、研究所が建っている火山を噴火させることになっているのだ。そのためWWWAはグーリー救出も断念したのだ。二人はいつもの様に独断で救出行動に移るのだった。

二人は研究所に気球に乗って[illegible]いた。しかし、気球は手前の密林の中に落ちてしまい、二人は警備隊員に囲まれてしまう。その場は切り抜けるが、毒ぐもに気を取られた瞬間、ケイは罠に落ちてしまい、その間にユリはホールドアップの状態になっていた。

ケーブルカーに連行された二人だが、毒ぐもを使い警備隊員を追い払ってしまう。このまま研究所まで直通かと思えたが、その様子をモニターで見ていたマルカスに、乗っていたケーブルカーごと川の中に落とされてしまう。

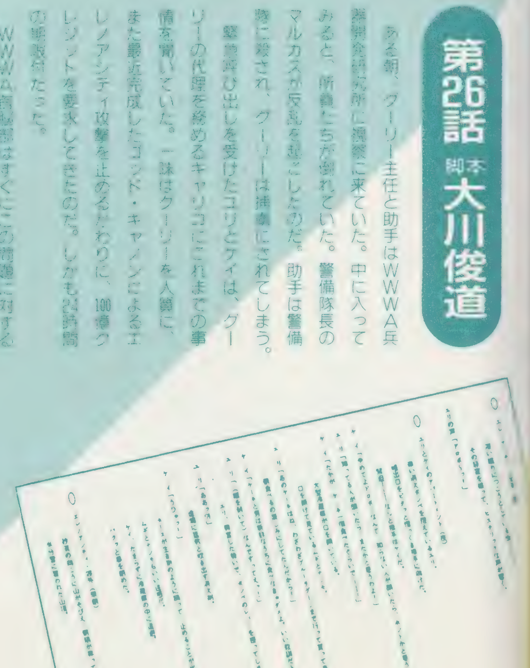
二人はその危機を脱し、何とか研究所にたどりつく。警備室の隊員たちをやっつけ、グーリーの居所を探った。グーリーは展望室にいる。そこに行く方法は2つあり、もめたあげくユリは通風口から、ケイは展望室に上昇するはずのゴッド・キャノンの格納庫から侵入する事にした。

通風口の中を必死に進む二人。途中で別れ、二人ともチャンスを伺っていた。期限時間まで後30分なのに返答がないので、マルカスは苛立っていた。グーリーが閉じ込められたカプセル内に高圧電流が流された…「主任ッ!」ユリは思わず悲鳴を上げてしまう。「誰だ!?」という声。ユリは通風口を出てレイガンを発射する。が、マントに弾き返されてしまい、逆に囲まれて捕らえられてしまう。引きずられながらユリは夢中でレバーを引いた。その途端、ゴッド・キャノンが床の下から現れ、マルカスは砲身にいたケイに撃たれてしまう。

二人はグーリーを助け、サイレンと共に次々と現れる警備隊員を倒していった。しかし、瀕死のマルカスは展望室の内側に強固な壁をおろすスイッチを押してしまう。三人は四方を壁に囲まれてしまった。しかも床は戦いでほとんど焼け落ちて、眼下に溶岩が見えていた。

二人は研究所の機密書類を納めたカプセルを使い脱出を試みるが、重量オーバーでグーリー一人を脱出させるのが精一杯だった。追い詰められた二人はゴッド・キャノンを使う。壁までは超至近距離である。発射!…爆風でキャノン自身が床に沈んでいった。しかもユリがはさまれたままで…。ケイが必死に助けようとしたその瞬間、自爆装置が働いた…。

しばらくしてケイは建物の破片と共に森林に落ちてきた。そして、ユリを捜すがいない…放心状態になるケイ。その時、地面の下からユリが現れる。お互いに喜びあう二人…が、また喧嘩を始めてしまうのだった。



オリジナルノベル

スクランブル・パッション

BY 井上敏樹
挿絵 おおやまさひろ



1

二日酔いだった。大体、二日酔いには二種類ある。けだるい気分の中で前夜の甘い記憶に尚も酔いしれるような二日酔いと、単に頭ガンガンお目々シブシブお腹ゴロゴロの二日酔いと…。今朝の場合、後の方の二日酔いだった。

私はベットの中で丸くなったままこめかみを揉み、何度もお酒臭い溜息をついた。氷水が飲みたかったけど、起き上がるのも面倒臭い。

私は決してお酒に弱い方じゃない。それどころか〝ウワバミのユリちゃん〟と異名をとった事があるくらいだ。

が、相手が悪かった。何しろケイは九歳のお誕生日に父親のワインを立て続けに十二本空け、それ以来髪の毛が赤くなってしまったという伝説の持ち主なのだ。

昨日、私とケイは知り合いのデザイナーの招待を受け、ファッション・ショーにでかけた。ショーの方は大した事なかったけど、帰り際、モデルの男の子にナンパされた。向うも二人連れで、さすがにモデルだけあって美男子ぽかった。

何と言っても男は顔だ。いくら性格がよくったって、カボチャをハットで叩き潰したような顔をしてたんじゃどうしようもない。最高級のフランス料理だって、バケツで食べたんじゃ、おいしくないのだ。

「カーノジョ!」と、最初に声をかけて来たのは、二人のうち、背の高い方だった。白のスーツをビシッと着込み、無造作に掻き上げられた頭には白のメッシュが入っていた。「ねえねえ、これからぼくたちとさあ……」

「お茶でも飲まない、なんて言わないでよ」

私はチラッと笑いながら、男の言葉を遮った。

「まさか! そんな陳腐なセリフは吐かないよ。これからぼくたちと……」

「断っとくけど、ドライブなんか行きたくないから」今度はケイが言った。

「……これからぼくたちと…」

「食事もしたくないわね」

「………これからぼくたちと…」

「お酒も飲みたかねーな」

「…………これからぼくたちと…」

「モチ、映画なんか観たくないし」

「む」男はすっかり考えてしまった。寄り目になって考え込んだ。バッカみたい。

もう一人の男は、噛み煙草を噛みながら黙って私たちのやりとりを聞いていたけど、何となくハードボイルドを気取ってるみたいな感じだった。寒くもないのにトレンチ・コートを着込み、重苦しい視線で私とケイを見比べている。

「……君たちはしゃべりすぎる」白のスーツが黙ってしまうと、ハードボイルドはボソッと呟くように言った。「女の唇は、ただ男の口づけを受けるためだけにあるんだ」

ゾ。バッカみたい。でも、ま、許しちゃう。二人共顔はいいのだ。何と言っても男は顔だ。

DIRTY PAIR



〝ねえ、どうすんのさ？〟
〝せっかくだから、遊んであげよ〟
〝そだね！〟

と、まあ、そんな事を私とケイは目で語り合った。

　結局、サボテンのステーキとスッポンのワイン（両方とも大変美容によい）を、男たちにおごらせ、それから本格的に飲む事になった。白のスーツは私に、ハードボイルドはケイに気があるみたいだった。

　私たちは〝デジャ・ヴュ〟のカウンターでバーボンを飲んだ。ムーン・ライト・ビルの275階にあるスナックだ。時計は午後十時を回り、店内ではピノキオ・バンドがお経のようなブルースを演奏していた。

　近頃じゃ、どこの酒場にもピノキオ・バンドが置かれている。五体のピノキオ型ロボットから成るこのバンドは、お客のリクエストに応えてメロディを奏でる。ロボットといっても他の機能は備わってないので、ピノキオ・バンドはジューク・ボックスと変わらない。

「いい音楽と美しい夜景と、イカス女…」

　白のスーツが私の目をのぞき込むようにして言った。

　確かに素敵な夜景だった。店内の壁は全てガラス張りだったので、街の灯りが八方から押し寄せて来るみたいだ。赤、青、白、オレンジ……光の粒子がうぶ毛よりも微かに震えながら私に押し寄せ、私を月の高さまで押し上げる。

「君、処女？」

「え？」

　私は月の高さから一気に墜落し、白のスーツに顔を戻した。白のスーツはいつの間にか酔払いに変身していた。目は白く濁り、唇はヌメヌメと濡れ、眉毛は逆立って指先がブルブルと震えている。

「え、どうなんだ!? 処女なのか？　え？　え？　え？」

「さあ、どう思う？」私はゆっくりとグラスを傾けながら言った。

　ケイは私の隣の席でスッポンの飼い方についてハードボイルドと話し合っていた。

「処女かどうか、調べれば分る。調べてやる調べてやる調べてやる！」白のスーツは一気にグラスを空け、ジロッと私を睨んだ。

「あ！」私は思わず叫んだ。白のスーツの顔が、一面ジンマシンだらけだった。

　ケイは私の隣の席でスッポンの首の切り方についてハードボイルドと話していた。

　白のスーツのジンマシンは、あっと言う間に首筋から耳の後まで広がった。

「ううう……」苦しみ始めた。ブクブクとアワを吹き、胸を掻きむしって立ち上った。

　ケイは私の隣の席でスッポンの甲羅のはがし方についてハードボイルドと話していた。

　白のスーツはヨタヨタとフロアを横切り、ピノキオ・バンドのステージに倒れ込んだ。押し退けられたピノキオロボットたちが、連鎖的に白のスーツの上に重なり落ちた。ピノキオたちは倒れたまま、相変らずお経のようなブルースを演奏していた。

「サボテン・アレルギーですな、これは。大変珍しい」お客の中から医者とおぼしき男が出て来てそう言った。「ほら、その証拠に顔にトゲが生えている」

　なるほど……よくよく白のスーツの顔を見ると、ジンマシンの上から、無数の小さなトゲが生えていた。どうやら先程食べたサボテンのステーキがいけなかったらしい。

「こいつは研究に値する。せっかくだから顔の皮を貰っていこう」男は内ポケットからメスを取り出し、けけっと笑った。

「な、何をする」メスが近づくと、白のスーツはぼんやりと意識を取り戻し、あえぎながら言った。

「簡単です」医者は答えた。「あなたの顔面の皮をペロリと一枚はがすだけです。家に持って帰って調べます。調べてやる調べてやる調べてやる」

「い、いやだいやだ」

「安心なさい。ちゃんとメスは消毒してあります」

　多分、バーテンさんか誰かが電話したのだろう、そこに救急車がやって来た。

　白のスーツは難を逃れたかに思われた。

「やあ、君たち。丁度いい所に来た」医者はタンカを運ぶ二人組の男に手を振って言った。

「この男をうちの病院に運ぶ。手伝ってくれ」

「いやだいやだ」白のスーツは泣きながら喚いた。「違う病院がいい。違う病院に行く」

「何を子供みたいにワガママ言ってるのですか、あなたは。全ての人間は医学に貢献しなければならないのです。健康な人間ですら健康な人間のサンプルとして医学に貢献しているのです。ですから病気の人間は病気の人間として医学に貢献しなければいけないのです。分りましたか」

「分りません」

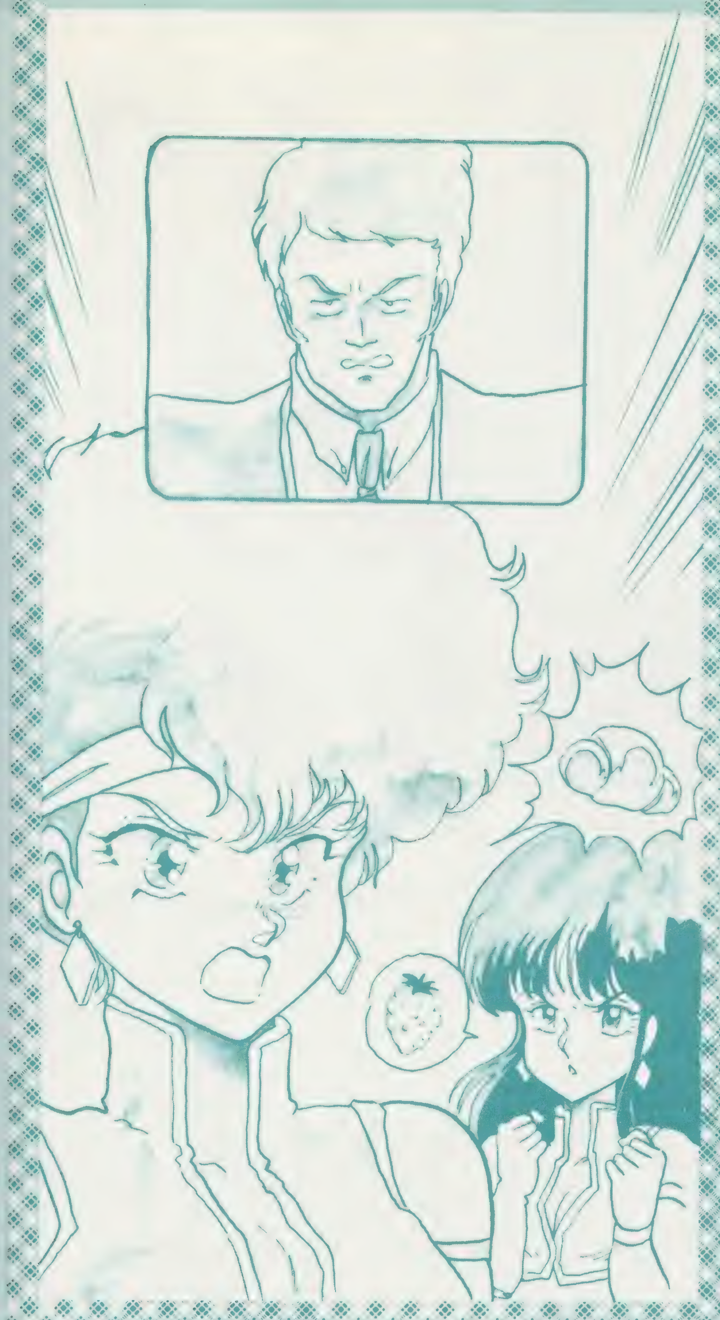
　が、結局のところ白のスーツは医師の先導のもと、タンカで運ばれて行った。

　私はわあわあ泣き喚きながら連れ去られてゆく白のスーツに向け、あらん限りの色気をふり絞って投げキッスを送った。

　ハッキリ言ってホッとした。もし、私と白のスーツがムニャムニャとなって、ニャンニャンとなり、いざと言う時にサボテン・アレルギーが出たりしてたら、真珠のような私の柔肌はトゲで傷ついていたかもしれないのだ。

　あ――よかったよかったほんと――によかったホッとした

　お友たちが倒れたのにハードボイルド



はしらんプリリンを決め込んでいた。湯気が立つような熱っぽい視線でケイを見つめ、冗談を飛ばしたり、ザキなセリフを連発したりしている。

ハッキリ言って頭に来た。別にハードボイルドが友情に冷たいから頭に来たわけではない。他人の友情など私の関知するところではない。

ハードボイルドが、余りにもケイにばかりお熱なので頭に来たのだ。ハッキリ言って女の魅力なら私の方が百倍も上だ。

「スッポンのお話は終ったの？」私はケイとハードボイルドの間に割り込んで言った。

「あ〜ら、まだいたの、ユリ」ケイは迷惑そうにジロリと私を睨みつけた。「サボテンに水をやりに行った方がいいんじゃない？」

「スッポンの話なら終ったよ」今度はハードボイルドが口を開いた。「おれはイイ女を見るとスッポンのように離れない。そしてスッポンと同じくらいスタミナがある。そういう結論に達したのだ」

ふん。イヤラシイ。

早い話がスッポンポンになって、スッポンスッポンしたいのだろう。

けれどもケイはシラジラしい程うっとりとした表情になり、頼もしいわあ、と呟いた。「最近少いのよね、そういうタイプ」

もちろんケイが本気だとは思えない。要するに私の前でハードボイルドをたらし込み、女性としての優越感に浸りたいのだ。

「ケイだってスタミナあるもんね」私は努めて明るい口調でいい、ケイの肩をポンと叩いた。「昨日の夜、生ニンニクを七個丸かじりしたもんね」

「するかっ」

「あーら。さっきファッション・ショーでゲップしたじゃない。とっても素敵な匂いがしたわよ」

ケイは血走った目で私を睨んだ。

「香水はお好き？」私は構わずハードボイルドに訊ねた。

「ああ」

「私の香水はヒラージュのナンバー3。とっても甘い香りなの。でも、私の唇はもっと甘い」

「昨日、トイレにスリッパ落しただろう」ケイが言った。

私は左の眉毛を釣り上げてケイを睨んだ。

ケイは右の眉毛を釣り上げ私の視線を受けとめると、ウイスキーを一息に空け、空のグラスをカウンターに戻した。それからグラスの端を指で弾いてチーンと鳴らした。

私はすぐにチーンにこめられた意味を理解した。

言葉でイジメ合っても、結局、いつものように共倒れになるに決っている。お酒で勝負しようじゃないの——そうケイは言っているのだ。

チーンという音は、まさにゴングだった。

私は立て続けにウィスキーを二杯飲んだ。

ケイは立て続けに三杯飲んでニヤッと笑った。

私が四杯飲むとケイも四杯飲んだので、私はさらに三杯飲んだ。するとケイが六杯飲み、今度は私が七杯飲んだ。

私たちのまわりには、いつの間にか他のお客たちがズラリと並び、ヘラヘラ笑いながら見物していた。

ハードボイルドはトイレに行くといったきり帰って来なかった。きっと恐れをなして逃げ出したに違いない。

私の記憶もここら辺からあやふやになる。

とにかく私たちは無限に続く道のりのようにお酒を飲み、カウンターの上に何本もの空ボトルが並んだ。

窓の外、東の空に赤い月がとぼけた感じで浮かんでいた。月を見つめてからグラスに目を落すと、ウィスキーの表面で月の残像が歪んでいた。笑う月だ。一体、私はいくつ月を飲み干したろう。

ピノキオ・バンドは相変らずお経のようなブルースを演奏していた。

私の香水はヒラージュのナンバー3。とっても甘い香りなの。でも、私の唇は

もっと甘い。そして私はカウンターに熱烈なキスを捧げた。
見事な共倒れだった。
私とケイはほとんど同時にカウンターに倒れ、何本もの空ボトルがドミノ倒しのように倒れていった。

2

私は自分で自分のお尻を叩き――実際にハシハシと叩いた――ようやくベッドから起き上った。頭が割れるように痛い。頭の中でいくつものドラム缶がカランカラン音を立てているみたいだ。こんな完璧な二日酔いは初めてだった。完全無欠の二日酔いだ。
第一、あれからどうやって家までたどり着いたのか、まるで覚えてない。
私は必死の力を振り絞ってカーテンをあけた。
眩しい。
〝そうだ。ケイに謝らなくちゃ〟
輝しい朝日の中で不意に私は決心した。
〝昨日はゴメンね、ケイ。おバカさんの私を許して、ね。お願い〟――そう言って謝ろう。
夜は明けた。私たちの友情も新しい夜明けを迎えなくっちゃ。
そう思うと、私は私の素直さに遭遇したような気持ちになり、うれしくなった。
何よりも決断の早い所が素敵だ。
〝顔のキレイな人は、やっぱり心もキレイなんだわ〟
私の心には、ほとんど瞬間的に天使のような優しさが広がった。まるで神様が今日、この時を選び、悟りを用意しておいて下さったみたいだ。
つまらない意地の張り合いはもうよそう。ケイだって決っして悪い人じゃない。そうよそうよ。私は限りなく優しい人間になろう。この前みたいに、ケイが間違って私の歯ブラシを使っても、怒るのはやめよう。誰にでも間違いはあるのだ。
「昨日はゴメンね、ケイ。おバカさんの私を許して、ね。お願い……」私は洗面所で歯を磨いているケイの背中にしなだれかかり、お尻をつねって謝った。
「分かりゃいいのよ、分かりゃ……」
…………かわゆくない。
歯?
ケイは歯を磨いていた。
ケイは私の歯ブラシで歯を磨いていた。
「あ～っ、それ、私の歯ブラシじゃないっ。何やってんのよ、バカ。アホーッ」
「げ、き、汚ない」
「それはこっちの言うセリフよ」
ケイはガラガラとうがいをし、さらに消毒液でうがいをし、最後に香水でうがいをした。
私の頭にドッカンッと血が昇った。
私はケイの歯ブラシをハッシと掴み、リビング・ルームに走り込むと、ソファで寝ていたムギの口をこじ開けてシャカシャカと歯を磨いた。
「あ」追いかけて来たケイの顔が、見る間に紅潮した。
「や、やったわね」
ふん。私は黙ったままムギの歯を磨き続けた。ムギは気持ち良さそうにアクビをした。
振り向くとケイの姿が消えていた。
私はドタバタと足音を立ててケイの後を追った。
ケイはキッチンにいた。私の歯ブラシを握りしめ、換気扇をはずそうとしている。私の歯ブラシで換気扇を磨こうと考えたに違いなかった。
何という非倫理的、非人間的な事を思いつくんだろう。汚いったらありゃしない。ほとんど信じられない。あんな事をして自分がイヤにならないのだろうか。
こうなったらこっちはトイレを磨いてやる。
……が、それはあくまでも最後の手段だった。
私はケイの腰に抱きついて歯ブラシを奪おうとした。
「返してよ、私の歯ブラシ」
「そっちが返したら返すわよっ」
「そっちが先よっ」
私たちはそっちだそっちだと言いながら、歯ブラシで決闘した。
歯ブラシのフェンシングだ。
けれども二人共一分ももたなかった。
何しろ二日酔いで……気分が悪くて……
私とケイは「うっ」と口を押え、ヘタヘタとその場に座り込んだ。
リビング・ルームから、グーリー主任の呼び出し音が聞えて来た。

3

「ん? 二人共、ずい分顔が青いようだが……」顔テレに映し出されたグーリー主任は私とケイを替るがわる睨みつけて言った。
「うっ」私はもう一度口を押え、吐き気をこらえた。
「ん? どうしたのだ」主任が訊ねた。
まさか二日酔いだなんて言えなかった。
「あの」私は言った。「つわりなんです」
「何!?」
「…実は、いやがる私をムギが無理やり」
「バカッアホッノータリン」ケイが唾を飛ばして私に怒鳴った。
主任は煙草をくわえて火を点けた。眼が白目になっていた。
「もういや、こんな生活」私はヨヨと泣き崩れ、ケイを指差して言った。「もう私、こんな人と仕事なんかできません。できませんたらできません」
「私だって」ケイも私を指差して喚いた。「こんな根性のねじ切れたカワイコブリッコの顔なんか、見たくありません。ありませんたらありません」
「何ですって」
「何よっ」
ばちばちと火花を散らす私とケイに、グーリー主任のカミナリが落っこちた。
ハッカモ――――ン
ハッカモ――――ン
ハッカモ――――ン

4

主任の説明によると、事件は至って単純だった。銀行に強盗がたてこもっていると言うのだ。と言ってもただの銀行ではなかった。人体を扱うアイス・バンクだ。人間を冷凍保存して未来世界で甦らせるという発想は、ずい分昔からのものらしいけど、数年前に完全な設備を整えたアイス・バンクが出現するや、あっと言う間にブームになった。
これも複雑怪奇な時代のせいに違いない。何しろ不治の病のため、未来の医学に希望を託してアイス・バンクを訪つれるといったまともなケースはほんの一握りで、大部分は何か勘違いしていた。
たとえば夫婦ゲンカの末家を飛び出した男がアイス・バンクに駆け込んで叫ぶ。
「女房にイジめられた。冷凍してくれ。女房が死んだら起きる」
かくして男は冷たい夢の中へ――。
さらに、ご乱行の結果、公衆トイレで赤んぼを生み落したティーン・エイジャ

ーが意味もなくアイス・バンクに赤んぼを預けたり、あるいは登校拒否の小学生がおこすかいをためて……またはプロデューサーに頭を冷やして来いと言われたシナリオ・ライターが思い余って……あるいは殺人犯が逃げ場に困ってアイス・バンクに……とにかくもう、メチャクチャなのだ。

もちろんバンク側もそれなりの動機を志願者に求め、一応資格基準を設けてはいるのだが、何事にも裏口というものがある。

裏口から札束を吸い続け、アイス・バンクは急速に発展した。現在、バンク事業に進出した五つの会社がそれぞれ成功を収めているのも、裏口志願者が後を絶たないせいに違いない。

高層ビルが建ち並ぶ街中に、巨大な冷蔵庫のようにのっぺりとした建物が見えたら、それがアイス・バンクだ。ぶ厚い壁の向う、銀色の繭のような冷凍カプセルに包まれ、多くの人々が眠るアイス・ハンク

一体どれだけの人々が正気と狂気を胸に抱き、冷たい夢の底をさまよっているのだろう。

「で」私は顔テレの向うの主任に訊ねた。

「犯人の狙いは何なんです？　どういうわけでアイス・バンクに立てこもっているんです？」

「恋人だ」主任が答えた。「犯人の恋人ロザーナは、一週間前からヘラッツ社の第二十五号アイス・バンクの最上階で眠っている。冷凍契約期間は五十年間だそうだ」

「……五十年も……何のために？」

「分らん。犯人にとっても突然の事だったらしい。恋人を失った悲しみが、一人の平凡な男を犯罪者に変えた……」

男はあらかじめサラピリン系のホルモン剤を飲み、恋人の眠るアイス・バンクを訪づれた。冷凍志願者を装い恋人を盗み出そうと考えたのだ。

男はカプセルの中で冷凍されたものの、ホルモン剤のおかげで二時間後に復活した。内側からカプセルをこじ開け、男は恋人のカプセルを探し当てた

警備員が男を見つけた時、男は銀色のカプセルの表面に、泣きながら唇を押し当てていた。

「バッカみたい」ケイが言った。「眠り姫じゃあるまいし」

5

私とケイは何はともあれラブリー・エンジェルで現場へ向った。

操縦席に座ると、一時はおさまったかに思えたムカムカが宿命のように甦って来た。二日酔いのムカムカとケイに対するムカムカだ。いつもはとてもとてもサッパリしている私なのに、今日はちょっとおかしかった　さっと仕事に対する不満やケイに対するウップンが知らず知らずに私の中に溜っていて、それらが出口を求めて暴れているのだ。それはケイにしても同じ事に違いない、その証拠に…

「思い出した」私の隣の操縦席で、突然ケイが地獄のように低い声で言った。目か血走り唇は震え、肩の筋肉がプルプルとケイレンしていた。「あんた、この前レストランでサービス・ランチ食べた時…そう、あの時、私がトイレに立って帰って来ると、私のロールパンが一個足りなかった。あれ、あんたがくすねたんだろ」

あービックリしたあきれたおそれいった。

なんちゅーセコさだ。何を言い出すかと思えばたかがロールパン一個でなんちゅー事を。相棒として、私はケイにもっと広い心を求めたいのだ。

私は悲しい

あんなまずいロールパンなんか食べなきゃよかった

「思い出した」私は言った。「あれは二年前の夏の事、そう、ハレー彗星が地球に大接近したその翌日、私は冷蔵庫のキャベツの裏側にショートケーキを隠しておいた。夜中に食べようと思ったらケーキの上のイチゴだけが消えていた…」

「ふん。何が言いたいわけ？」

「あのイチゴ、あんたがつまんだんでしよっ」

「あーら、証拠でもあるのかしら？　ほほほ」

証拠だ？　くやしい～！　指紋とっとけばよかった。確か生クリームに指の跡がついていたのに。

もういいもういいもういやだ。ケイなんか無視してやる。そうよ、無視た無視た絶対ムシだ。星の数程ムシしてやる

私は悲しい

6

ヘラッツ社の第二十五号アイス・バンクは高層ビル街の中に、静まり返った墓標のように建っていた。のっぺりとした窓ひとつない壁面が、太陽を反射して眩しい。

エンジェル号を正面入口に着陸させると、私たちはお互いに相手を無視しながら建物の中に走り込んだ。

エレベーターに乗り、最上階の冷凍カプセル安置フロアでドアが開くと、嵐のような喧噪が私たちの頬を叩いた。何十人もの警察官や新聞記者やニュース・キャスターが押し合いへし合い壁のように犯人を取り囲み、口々に何か叫んでいた。

私たちはお互いに相手を無視しながら人垣を掻き分け、ようやく犯人の姿を見る事ができた。

だだっぴろいフロアの片隅にいくつものカプセルを積み上げ、犯人はバリケードを築いていた。そしてバリケードの向うから時々顔をのぞかせては、レーザー・ナイフを振りまわし、大声で喚いた。

「寄るな！　誰も寄るな。ぶっ殺すぞ、みんなブチ殺す」

言うまでもなくカプセルの中には冷凍人間か入っている。それは実に理想的な人質だった。これじゃ、うかつに近寄れない。

犯人は何だかんだと喚き散らすと、顔を引っ込め、ロザーナ、ロザーナと呟きながら、わあわあえんえんシクシクと泣いた。多分、バリケードの向うにはロザーナのカプセルが置かれていて、犯人はカプセルに頬ずりしたり撫でまわしたりしながら泣いているのだ。

「何者ですか、あなたたちは」一目で刑事と分る男と、恰幅のいい中年紳士がやって来て、私たちにそう訊ねた。

「WWWA、トラコンのユリです」

「ケイです」

「ほおう」と、二人は溜息と共に驚きの声を上げた。中年紳士は感動の余り私たちの手を握った。男はヘラッツ社第二十五号アイス・バンクの責任者だった。

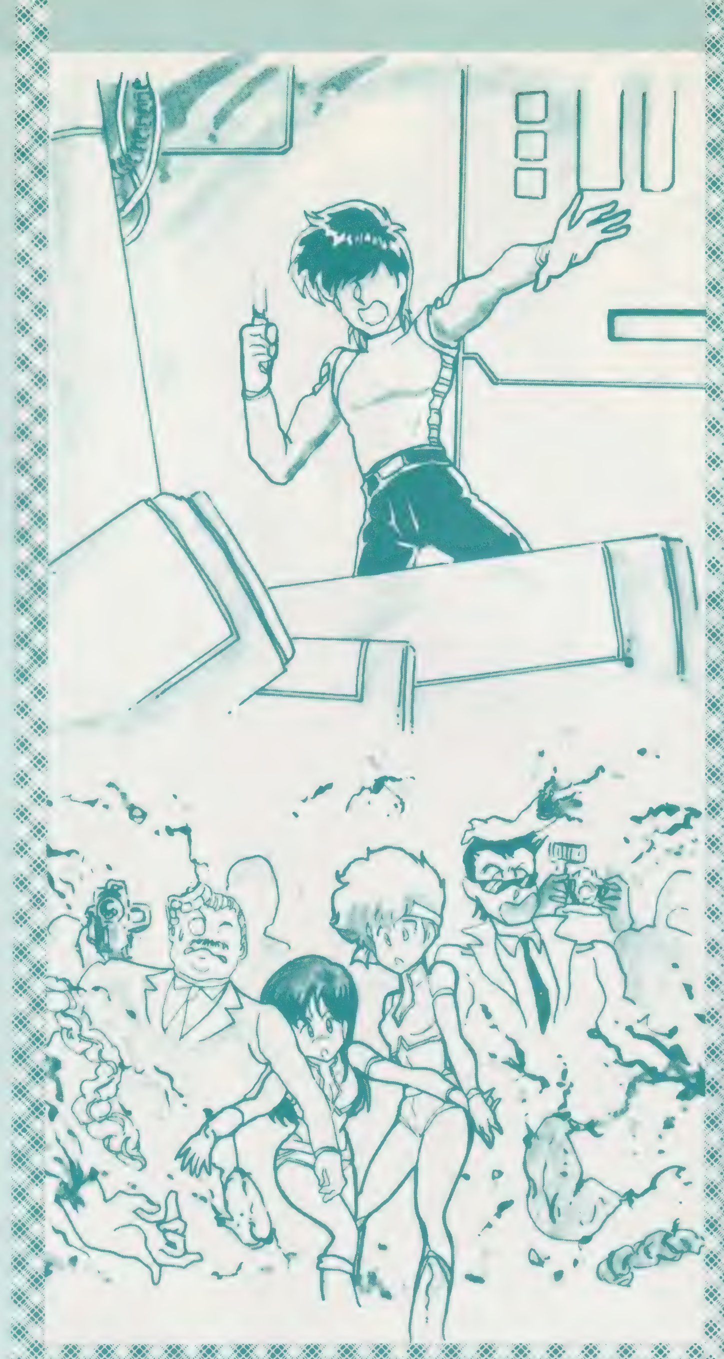
「お二人のご活躍はかねがね耳にしています」責任者は言った。「いや、もう、実に素晴らしい」

「二人の活躍じゃなく、私の活躍でしょ」私はニッコリ笑ってそう言った。

「思い出した」突如、ケイが地獄のように低い声で呟いた。「そう… 以前私はお

DIRTY PAIR

ニューのハイヒールを買い、ゲタ箱の奥にしまっておいた。しばらくして見てみると、ハイヒールの踵がグラついていた。あれ、あんたがやったんだろ、黙って人のハイヒール穿いて」
う、う……で、出た。こんな時に何という事を。第一、サイズの合わないケイのハイヒールを穿いたおかげで、あの日私の足は血マメだらけになってしまったのだ。あの血マメの責任はど、ど、ど、どうするのだ。元はと言えばケイがハイヒールなんか買うからいけないんじゃないか
けれども私はグッとこらえて沈黙を守った 花のように
ハッハラハーを相手にすると、こっちまでハッハラパーになってしまう。無視だ。ガマンだ。無視ガマンだい！
「犯人に告ぐ犯人に告ぐ」その時、刑事がおそらくは何度目かの説得を始めた。
「いい加減にあきらめたらどうだ。このままじゃラチが開かん」説得になってなかった。
「黙れ」バリケードから顔を出し、犯人が叫び返した。「ロザーナを返せ。ロザーナを甦らせろ。そしたら話し合いに応じてやる」
刑事はラウド・スピーカーを降ろし、責任者に顔を向けた。「やはり、まず、犯人の要求を聞き入れる意外なさそうですな」
「困ります」責任者が鼻の穴を膨らませた。「ロザーナ嬢との契約は五十年です。契約違反になります。たとえ何があっても契約を守り通すのが我社の方針なのです。困ります」
「何をグズグズしているのだ」犯人が言った。「おれの手でカプセルをこじ開けてしまうぞ」
「やめろバカ」刑事が言った。「そんな事をしたらお前の恋人は死んでしまうかもしれないぞ。急激な温度変化がカプセルの人間にどのような影響を及ぼすか、知らんのか。常識のない奴だ」
「かまうもんか」犯人が言った。「ロザーナが死んだらおれも死ぬ。そしてあの世で一緒になるのだ。どうだ、ロマンチックだろう」
刑事はラウド・スピーカーを降ろし、責任者に顔を向けた。「どうやら本気らしいか」　「困りません」責任者は言った。
「犯人かカプセルを開けても我社の契約違反にはなりません。放っときましょう」



「ええい、何をグズグズしているのだ」犯人が言った。「よおし。ロザーナを甦らせないのなら、他のカプセルを一つずつこじ開けてやる。そうだそうだ、そうしよう。そうする事に決めた」
犯人は積み上げられたカプセルの中から一つを選び、レーザー・ナイフで銀色の蓋をこじあけた。真白い冷気がムア〜ッと立ち登った
新聞記者たちが一斉に喜びの声を上げ、次々にフラッシュを焚いた。
「あ」カプセルの中の人物を見て、犯人が叫んだ。「こいつはゲラー代議士じゃないか」
「え、本当か」刑事が訊ねた
「うん。本当だよ」犯人が答えた。
ゲラー代議士とは、政界の黒幕と密着して国税の一部を横領、そのお金で二流の女優二十人を愛人に囲い、しかも彼女たちを次々とベットの中で絞め殺したという異常性欲者だった。
「う〜ん、道理で見つからんわけだ」刑事が唸った。「こんな所に隠れていたのか」そして責任者を横目で睨んだ。
責任者は煙草の煙で輪っかを作って遊んでいた。
犯人はもう一つ、別のカプセルをこじ開けた
「あ。今度はアベサーダ婆さんだ」
「え、本当か」刑事が訊ねた
「うん。本当だよ」犯人が答えた。
アベサーダ婆さんとは慈善事業家を装った有名なサギ師で、百三十歳の高齢にもかかわらず十三人の愛人を囲み、しかも彼ら全員を腹上死させ、死体を刺身にして食べてしまったという異常者だった。
「許せん」犯人が喚いた。「こういった奴らは死んだ方がいいのだ」
そうだそうだその通りだと新聞記者た



ちが一斉に拳を振り上げて叫んだ。
犯人はレーザー・ナイフでゲラー代議士とアベサーダ婆さんの体を切り刻み、切り取った部分を私たちに向けて投げつけた。
腕や脚や頭が血を滴らせながらビュンビュンと飛び、胃や腸や心臓がバラバラと私たちの頭上に降り注いだ。
パニックになった。
アベサーダ婆さんの入れ歯が責任者の首筋に噛みつき、カタカタと震えていた。ゲラー代議士の腕が刑事の耳をつかんでいた。
警察官の一人が胃袋を踏んづけて転ぶと、何人かがドドドッと将棋倒しになった。
もっとやれもっとやれ、と無責任な新聞記者が犯人を応援した。
犯人はさらにいくつかのカプセルを開け、切り取った物を景気良く放り投げた。
何人かの女性キャスターたちはとっくの昔に失神し、倒れたところを警官や記者に踏みつけにされ、ほとんどボロ雑巾と化していた。
私は真青になりながら人波に揉まれ続けていた。が、意識はハッキリしていた し、悲鳴も上げなかった。
私はプロなのだ。
毛虫やゴキブリは嫌いだが、血を見ていちいち震えていたんじゃ仕事にならない。
もちろん確かに気持ちは悪かった。フロアいっぱいに広がった血の匂いが二日酔いのムカムカを甦らせ、私は何度も吐きそうになった。ノド元に酸っぱいものがこみ上げて来て、それが私をいら立たせた。
ケイが人波に押されて私の足を踏んだ。謝まりもしなかった。
私は礼儀として、思いきり体重をかけてケイの足を踏み返した。
ケイは人波に押されたふりをして、ひどく形のいい私のバストをギリギリとつねった。う、う、う、ぎ、ぎ…も、もうダメだ。ガマンにも限界がある。
フロア全体の悪夢のような雰囲気も、私の忍耐をぶっ壊すのに一役買った。
きい――――っ！
私の中でついに何かが爆発し、目の前が真白になった。

気がつくと私とケイはアーム・レットをふるい合い、百パーセントまじに闘っていた。
「きいっ」とケイが喚き、私も「きいっ」と叫んだ。
私たちは相手の攻撃をかわしながら思いきりアーム・レットを振りまわした。
可哀想なのは私たちのまわりにいた警官や新聞記者たちだった。訳も分らず顔面にアーム・レットを受け、頬や額に山脈のようなミミズ膨れを作ってそこら中を転げまわっていた。
ケイが責任者を持ち上げて私に投げつけて来たので、私は刑事を振り回して思いきり放った。
二人は空中で激突し、ほきぎっとヤな音を立て、床に落ちた。
「きいっ」ケイが私の腰にタックルした。
私たちはコロコロと転がりながら、勢いよくカプセルのバリケードに突込んでいった。
ガラガラとバリケードが崩れ、私たちが跳ね起きた時、私たちの傍には青ざめた顔の犯人がいた。
「よ、よせ」犯人は悪鬼のような私たちの形相を見て、明らかに脅えていた。「ケンカはよくないよ。やめなさい君たち」
「うるさい。じゃまするな」ケイは犯人に往復ビンタをくらわせた。
「そうよ、じゃましないで」私は犯人の股間を蹴り上げ、目つぶしをくらわせ、みぞ落ちに膝蹴りを入れた。
私とケイは闘い続けた。溜まりに溜まった心のアカを洗い流すように闘い続けた。
そして私が気づいた時、気絶寸前の犯人は最後の力をふり絞ってロザーナのカプセルを開けようとしているところだった。すでにキーは断ち切られ、犯人は銀の蓋をゆっくりと押し上げていった。
「あ」私とケイは思わず叫んだ。
カプセルの中から、真白い冷気と共に、一匹の年老いたヤギが静かに立ち上った。
「ロザーナ」犯人はヤギを抱きしめ、血の出るような叫び声を上げた。「ロザーナ」
ヤギは一度だけ犯人の顔をペロリとなめ、それから壊れたオモチャみたいにバッタリと倒れた。

7

「まさかこんな事に」全てが終わり、ガランとしたフロアで、犯人の母親は私たちに語った。息子を説得するために連れて来られたのだけれど、すでに彼は連行された後だった。私たちの他には、ロザーナの死体がぽつんと横たわっているだけだった。「息子は一人っ子で小さい頃から内気な性格でした。二歳の誕生日に私はペットをプレゼントしました。それがヤギのロザーナです。それはもう、息子は大喜びで……。息子とロザーナはすぐに大の仲良しになりました。いえ、しまいには愛し合うようにすらなったのです。年頃になっても息子は女性に目もくれず、ロザーナとばかり遊んでいました。遊ぶというよりデートです。一緒に映画を観たりお茶を飲んだりドライブに行ったり。そしてある日、私は息子がロザーナと一緒にラ、ラ、ラ、ラブホテルから出て来るのを目撃し、思い余ってアイス・バンクにロザーナを預けたのです。わ～！」
母親は突然号泣した
……………ウーム
静かに目を閉じて動かなかったロザーナが、不意に頭をもたげると誰かを呼ぶみたいに一度だけ鳴いた。
メエ～…。

DIRTY PAIR

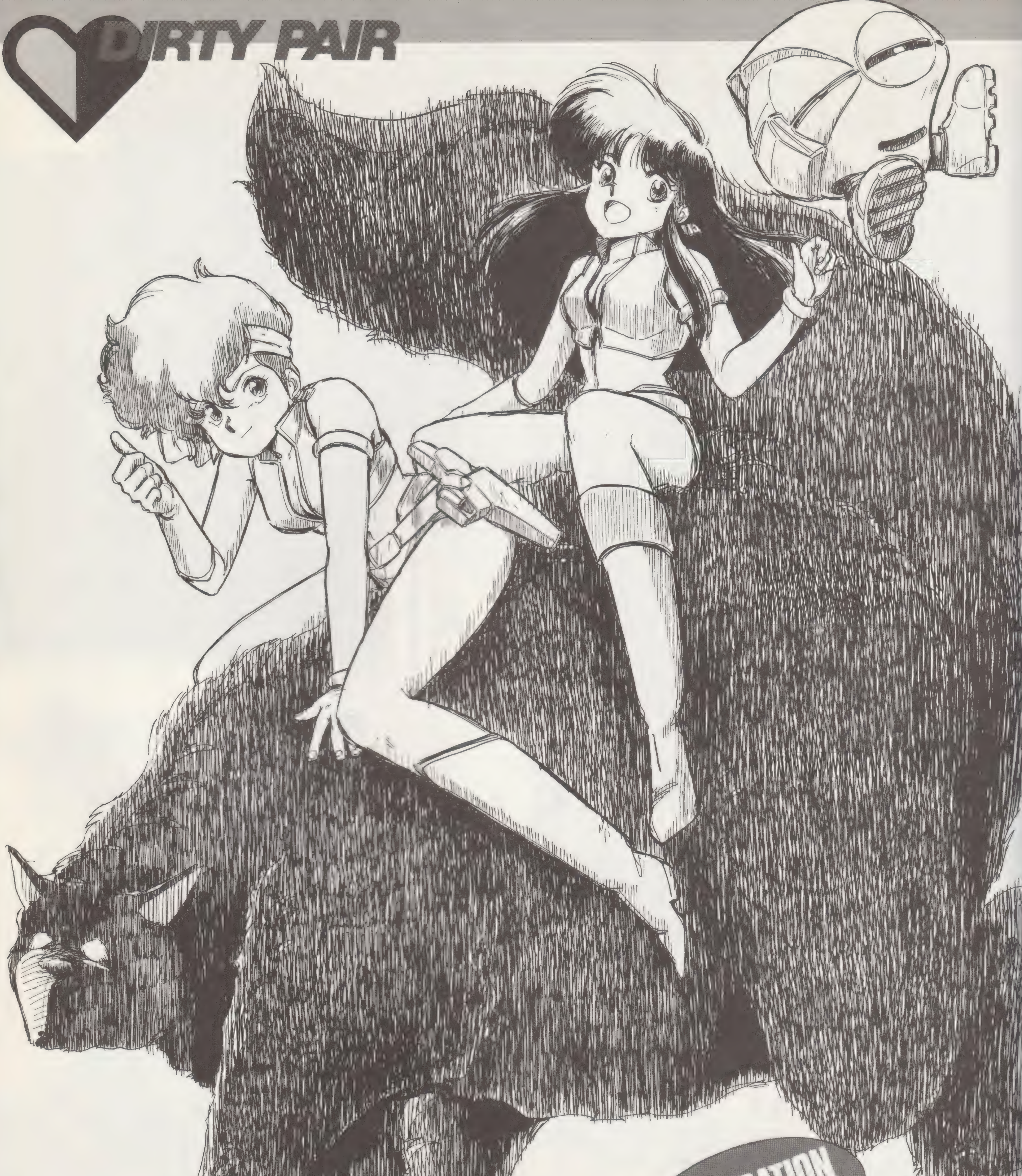


ILLUSTRATION
広田 麻由美
MAYUMI-HIROTA

脚本

井上敏樹



PROFILE

昭和34年生まれ。政経大学在学中、東映動画の七條プロデューサーにさそわれ『Dr.スランプ』でデビューした。その後、「ウラシマン」『スターザンS』『うる星やつら』『ダーティペア』等の脚本を手掛け、実写物では『どきんちょ！ネムリン』やにっかつの一般映画『みんなあげちゃう♡』等の作品を手掛けて、現在に至っている。

事件を解決しなくても二人が立てば良い

——シリーズ構成の方から言われたことと、それに対して自分の意見に違いはありましたか？

井上　最初、伊藤さんがシリーズ構成として立っていたけれど、あの人は非常に心の広い人だから「まあ、やりたいことをやりなさい」ということだったんで、こちらも「ああ、そうですか、やりたいことをやりましょう」という感じでやりましたね。

——『ダーティペア』を書かれる時に意識して他の作品と違えようとしたところはありましたか？

井上　とにかくなるべく変化球で勝負しょうと…。ケイとユリというのは新人類の代表みたいな人だから、陳腐な話の中でワーワー、ギャーギャーさせるのはあまりにもあの二人がかわいそうだ、と。だから、出来るだけ今までに見たことも聞いたこともないような話の中で二人を活躍させた方が、二人が生きるんじゃないかと思うんです。そういうことを心がけました。

——では、視点もあの二人を中心に考えて書かれた訳ですね？

井上　まあ、あの二人はとにかく立たなきゃならない。事件は解決しなくても、あの二人が立てば良いなと。

——ナンモやムギはどうですか、活躍させてあげたいとか。

井上　特には…まあ、やるんだったらこれからやろうかな、とうすうす考えてた時期に打ち切りになっちゃったからね。

——割とどんでん返しを多く使っていますが、それも同じことを意識している訳ですか？

井上　そうですね、つまらないことを書くのだけはやめようと。

——こう思ったらもう一回、もう一回と…。

井上　いや、書いているうちにそうなってしまうんだけど…。

——他の作品と比べて書き易い方でしたか？

井上　書き易い方でしたね。体質にあってるっていうか、そんな感じだったかもしれませんね。

——では、こういったSFアクションはお好きですか？

井上　SFって、これはSFだとは思ってなかったですね。SFでうまく利用できる部分があれば利用するけど、あまりSFにはこだわってなかったですね

視聴者を楽しませながら裏切りたい

——自分の書かれた脚本がフィルムになって、観た時に自分が思っていた通りの画像になっていると思いますか。

井上　う〜ん。今のところ2本しか観ていないけど、いままでのところではそんなに変わっていないですね。まあ、画像が出来ているかどうかは分らないけれど、一応僕のストーリーは残っているってことですね。演出のうまいへたはありますけど、それはおいといて…。

——それはどのような点ですか？

井上　えっ？まあ、なんというのかな。演出がおとなしいって感じる部分がありましたね。仕事ひとつでも、もっと大げさにやった方が面白くなったんじゃないかなって感じる部分はありましたけども、まあ僕の書いた作品に関してはそれほど不満はないですね。

——それでは各話ごとに伺いたいのですが、「追跡はチーズケーキと死のにおい」はあの名前とか、あの猫の設定はどこから出てきたのでしょうか。

井上　最初、伊藤さんの方で猫を捜すような話ということで、ああいう風に作ったという訳です。

——あの話のオチなんですが、Aパートの最後にちょこっとだけ伏線が張ってあって、いきなり最後にオチですね。あのあたりの伏線は脚本ではどう書いてあったんですか？

井上　いや、伏線はまったく張っていない。

——では、いきなりあのオチに？

井上　いきなりポンと落とした。脚本ではね。とにかく、あれはニセ物だと。猫間違いということでギエーッとなって…。本物のマラテスタが一匹で海辺か何処かをトボトボと歩いてて、目がギラリと光るという感じのオチだったんだけど。

——では、あの猫はいつすり替わっていた訳ですか？最初から違っていたんですか。

井上　最初から違っていた。

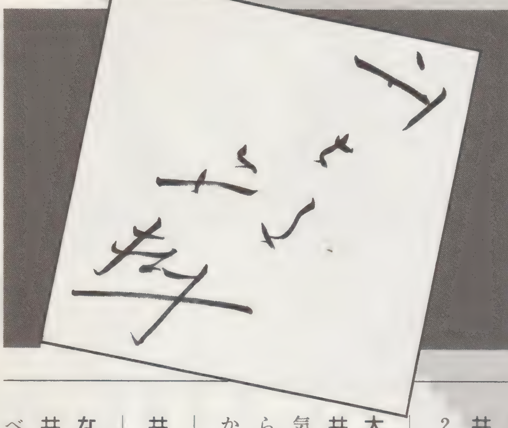
——最初から違うのを追っていたんですか？

井上　そう、こっちはそういう風に書いたんだけどね。だからまあ、本当は途中で入れ替わったのかもしれないし、そこは視聴者の方が勝手に考えてくれればいいんじゃないかと。



DIRTY PAIR INTERVIEW

そりゃユリです、色が黒いのは嫌いなんです



——次の「愛こそすべて命賭けます逃避行！」の話なんですが、最初に出てきた一夫多妻型の結婚式というのは、アラブあたりから思い付かれたのですか？

井上 いや別に、ただなんとなく自分があぁいう風になりたいなぁって感じでね…書いただけで。

——性転換もなかなか突飛で面白かったですね。

井上 あれもできるだけ視聴者を裏切っていこうというのが頭にあったんで、単なる女じゃ面白くないから、未来ってこともありますしね。性転換の女の話にすれば、今までにないものになるんじゃないかと。まあ、どっちかといえば鬼門っていうか。でも『ダーティペア』だから出来たんじゃないかと…。

——最後に周回軌道に乗って行った後、どうなるんですか？素朴な疑問ですけど。

井上 やっぱり、永遠に宇宙を回わって、50年後に地球に戻ってきてはまたケンカして、また宇宙に行ってしまうと。

——なかなかハードな話ですね。ところで、脚本はいつごろ書かれますか？

井上 主に夜中ですね。家が環八沿いにあるものですから夜の方が集中出来ますからね。

——月にどのくらい書かれますか？

井上 月3本くらいじゃないですかね、平均して。

——1週間ぐらいで、あがっていますね。

井上 う〜ん。大体は〆切り過ぎていますけどね。〆切り過ぎてから考えているから…。

——それは井上さんに限ってのことですか？それとも…。

井上 そういうライターは多いですよ。大体、『ダーティペア』のライターはみんな遅いんじゃないかな。みんな〆切りすぎてから考え出すって。

——では書き始めてからどのくらいで出来るのですか？

井上 書きだしちゃえば早いですよ。2〜3日でね。

——やはり、ネタを思い付くまでが大変ですか？

井上 そうそう、考えるまでが割合に。気分がのらないと書けないしね。だからのせるのが難しいというか、金がかかるんですよ。

——それは飲み代とか？

井上 そう。たいがい飲み代ですね。

——脚本の他にどのようなお仕事をなさっていますか？

井上 『マクロス』『オーガス』のノベライズくらいかな？

——脚本と小説ではどちらが書き易いですか？

井上 まあ、書くという意味では脚本の方が楽ですね、全然。それに脚本だとやっぱり演出家に分かればいいって気持ちがありますからね。一般の目に触れる訳ではないから、そんなに気を使わなくても済むしね。やっぱ、書くんだったら脚本の方が楽です。

——脚本ではアニメと実写ではどちらの方が書き易いですか？

井上 アニメの方が書き易いですね。規制がないからね。実写というと予算が決められちゃうからね。例えば6千万円の脚本を書いてくれ、と言われても分らないでしょう？『みんなあげちゃう！』なんか、脚本では「20億ぐらいかかる」って言われたのを無理矢理6千万だったかな？にしたんですよ。

——飲む以外に色々と勉強もあると思いますか？

井上 そりゃもうね。まあ、勉強にも色々あるけど、やっぱりいつも自分に不満を持っているというのが大事じゃないかな…。

——書き上げてもあれが足りないとか、あれを直したいとか思いつつ渡す感じですか？

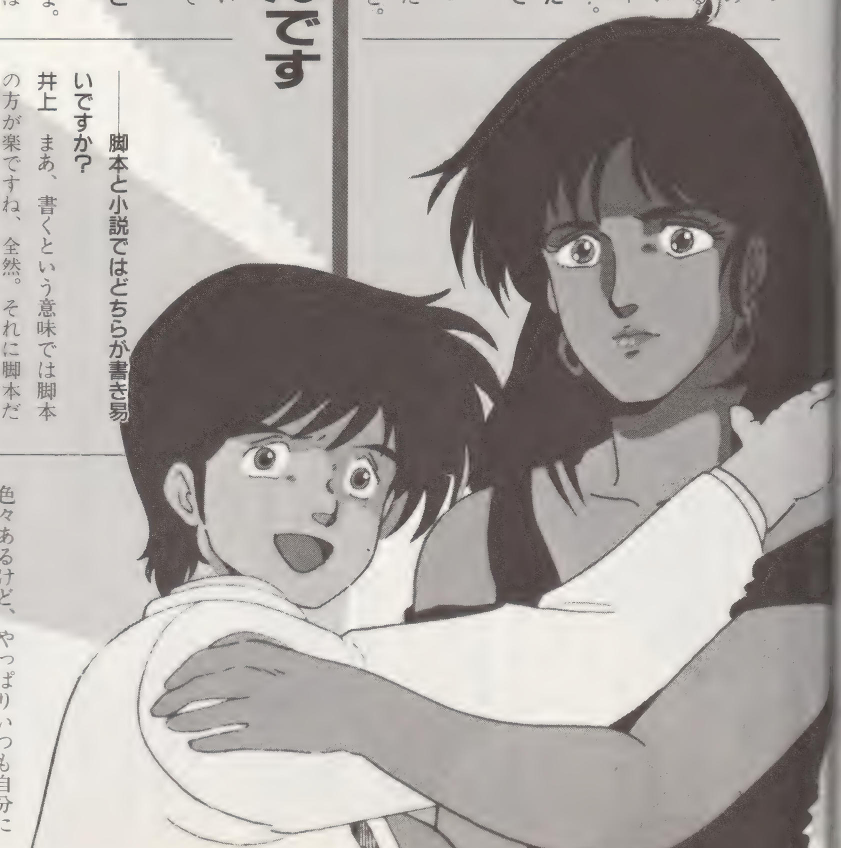
井上 いや、書き上げた時は完璧だと思っているんですよ。こりゃ面白い、絶対完璧だと。で、1週間か2週間ぐらいして読むと、やっぱり…。

——ガックリと落ち込むと？

井上 そうそう、足りない部分があると。そんなもんじゃないですかね。やっぱり、書くことが大事だと思いますよ。読むことも大事だしね。

——えーっと、最後に単純な質問ですけどユリとケイではどちらの方が？

井上 そりゃユリです、ユリ。色の黒いのは嫌いなんです。



脚本

島田 満



PROFILE

某年、板橋区の工場地帯に生まれる。早稲田大学教育学部国文科在籍中に、東映動画の採用試験を受け、演出家志望だったのが脚本家として採用される。以後、『Dr.スランプ』を中心に、『みゆき』『スターザンS』『うる星やつら』『クリィミーマミ』『ペルシャ』『ダーティペア』等の作品を手掛け、現在に至っている。

今までにない作品づくりを

——まずは『ダーティペア』をやった感想から伺いたいのですが。

島田　『ダーティペア』は今までやってきた作品と傾向が違うので、凄い気が入っていたと言うか、SFアクションっていうのはやりたい素材だったので、工夫してやろうという意気込みがあったんですけどね。

——今までは少女ものやギャグものが多くSFアクションは初めてですね。

島田　そうですね、強いていえば『スターザンS』がちょっとそうだったんですけど。

——始められたきっかけは、伊藤和典さんからですか。

島田　ええ、『クリィミーマミ』で伊藤さんと知り合って、その時に私がSF好きだっていうのを知って、それでじゃないかと思うんですけど。

——『ダーティペア』をやっていく上で特に注意した点というのは。

島田　ともかく、従来のこういうアクションものの、事件があってそれを解決して、誰かと仲良くなったり誰かが死んで終わるっていうパターンを、どうにかして打ち破りたいっていうのがありましたね。それに語り口の新鮮さとかね、今までにないのをっていうのを考えました。

——それが「クリアドスのどっくんどっくん！」なんかの、依頼もなしにいきなり事件が進んでしまう話に結び付く訳ですね。

島田　そうですね。だから私が書いた話は、割と依頼がないっていうのが多かったんですけどね。ユリとケイのキャラクターを大事にしたいっていうこともあったし、最初の依頼の内容を説明する部分がどうしてもスローになるからっていうようなとこもあったですね。それがシノプシスを書いていくと、「あのぉ、依頼の話にしてください」って言われて、しょうがなく依頼の話にしたっていうのもあったし。

——「ホホホ、ドレスと男はおニューに限る」なんかは割とキャラクターが中心に進んでいると思うんですが、他の話がとても女性の書いたとは思えないくらい、凄くハードに進みますよね。それで凄く意気込んでいるなって感じたのですが。

島田　なんか今まで自分のやってなかったことをやってみたいっていう気持ちが強かったし…。最初に滝沢さんの方から、従来の女の子が適当に事件を解決しちゃってつじつま合わせるみたいなものじゃなくて「この娘たちはパーなようでいて、凄くハードな娘たちなんだってことでやってください」っていうのがあって、それで「そーか、ハードな話か」とか思って…。

——自分の書いた作品についてどう思われますか。例えば演出や作画の処理についてどう思われますか。

島田　そうですね、『ダーティペア』に関しては、なんか割と色々と変えてたところが多かったなっていうような印象でしたね。

——変えられて疑問な点というのは。

島田　うーん、なんかこうイメージが違うところが多かったですね。演出サイドとか、現場が試行錯誤してたんじゃないかなというのが、フィルムにそのままでている感じでした。「クリアドス」なんかは、後半の1/3が全然違うんですよね。演出の方で考えていることも分りますけど、やっぱり見てて「うーん、イメージが違うな」って感じでしたね。

——ズバリ、書かれた脚本で一番気に入られてるのはどれでしょう。

島田　「クリアドス」と「暗殺者」っていうのは割と今まで自分がやらなかったジャンルだったので、その思い入れみたいなものはありますね。

——他の脚本家の書かれた脚本で興味を持たれたものはありますか。

島田　そうですねぇ…井上さんのシナリオなんか、自分には書けない世界ですね。なんて言ったらいいか分らないんだけど、ブッ飛んだ世界ですから。ああいうことをああいうふうには書けないんですよね。そこが違うなぁって思いましたね。

ヒューイはデヴット・リー・ロスのイメージで

——では、島田さんが担当なさった話を順番に伺いたいのですが、まずは「勝手に惚れな！恋はロシアンルーレット」はどういう形で出来上がったのでしょうか？

島田　最初は私が書いたんです。そしたら、その後に伊藤さんが登場人物と設定だけ残して後をお書きになったんですね。私はシドニーとかのキャラクターを一応作ったんですけども。まあ共同というか、伊藤さんのシナリオということになるんじゃないでしょうか。

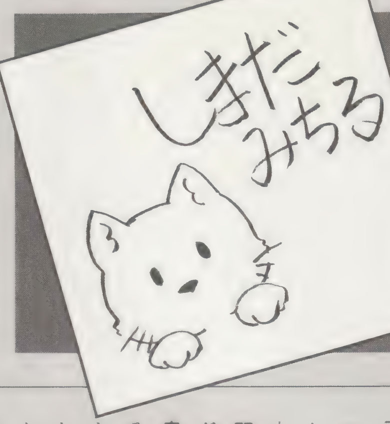
——それでは「クリアドスのどっくんどっくん！」ですけど、後半が違っていたとすると、ナンモが壊れてしまうって話は書いてない訳ですか。

島田　私のだと、途中でナンモが壊れちゃうんです。それで最後は大団円のアクションだったんですけど、そこが違っていたのかな。

——それでは「ホホホ、ドレスと男はおニューに限る」の話ですが。この作品はどうでしたか？

島田　あれは大体シナリオ通りでした

DIRTY PAIR INTERVIEW



ね。この話はユリとケイっていうのが何を考えて普段行動してるか、みたいな話を一つやりたいなぁと思って書いたんです。で、二人のハチャメチャさが周囲の子供も含めて、こう、人々にどう受け止められてどんな騒動になっていくのか、なんてところをやろうかと思ったんですけど…。

——フランシスというグーリー主任の名前は、設定があったんですか。

島田　それはなかったんですけど、適当に書いて怒られちゃったかなぁ。

——「出てこい出てこい!暗殺者」でケイが尼さん姿で出てきますが、あれはなんで尼さんなんですか?

島田　うーん、やっぱりケイが一番似つかわしくない格好したら面白いかなぁと思ったんですけど…。

——あと、ロック歌手のヒューイでしたっけ。あれは…。

島田　ええ、あれはね、デヴィット・リー・ロスのイメージで書いたんですけど。一見、凄くギンギンでついていけないみたいに見えるけど、実は人間的な優しさを持ってて、チャランポランで女たらしでもあるけど、暖かさみたいのを持ってる男っていうような。なんかあの頃デヴィット・リー・ロス見てて、「この人そういう人なんじゃないかな」って思って。で、そういう人間を書きたいなぁっていうのがあったんですね。

——「クリアドス」でケイがラジオを聞いてた時に名前だけ出てきたんですが、あれは意識して使ったんですか?

島田　あれはそうじゃなくて、最初にそのロック歌手の名前だけで出て、あとで「暗殺者」の話を書く時に「ああ、じゃあ、あの人使おうかな」って思ったんです。どうしてかっていうと、私の頭の中だとケイの好きなタイプっていうのは、そういう人じゃないかっていうのがあったからなんですね。それで最初、ケイがロックを好きで聞いているって場面を出して、その後で具体的に出す時にその人を使ったんです。

——ケイにこの話のラストで「まぁ、こんなもんか」って言わせてますが、ケイはやっぱりああいうふうに考えると思われますか?

島田　やっぱりブラックホールの中に吸い込まれる時って、どんな気持ちかなぁって考えると、きっとケイなら死を目前にしても「まあ、いいや」って思うんじゃないかなぁと思ってね。

——ところで、島田さんには島田さんのユリとケイのキャラクター像があると思うんですが、他の男性が書くのをみて「これは違うんじゃないかな」と思うようなことってありますか。

島田　うーんとねぇ、男性のとかっていうことなのか分らないんですけど、最初の企画の時点で私が考えたユリ像っていうのと、フィルムになって動き出したユリっていうのがちょっと違うんですよね。最初のイメージっていうのは、表面を繕う頭の良さみたいな、女性的な駆引きも出来るし、頭の鋭い子っていうような…。それがTVのユリだと凄くブリッコになってたんで、後で自分が書く時に気持ちを修正して「ああそういうふうにいくんだったらブリッコにしましょう」ってことで、自分で直したんですけど。

——じゃあ、元々は知性派と肉体派という感じだったんですか。

島田　大体そうですね。

——二人の魅力というのはどんなところにあると思いますか?

島田　あの二人はデートしてハッピーエンドにならずに、いつもなにか満たされないでギャンギャン言ってるみたいな面白さって言うか、そういうのびのびした明るさとか、おっちょこちょいさとか、タフさみたいなところが魅力だったんじゃないかと思いますね。

——半分、現実が重なっているとか。

島田　そうですね。もうだから楽しかった…やっぱり女の子のうっぷんが爆発できる話だったから楽しかったです。

6対4でユリに近いかな?

——では、『ダーティペア』を終えての感想を伺いたいのですが。

島田　欲をいえば『ダーティペア』はもっとやりたかったですね。SFアクションは前からずっとやりたいと思っていたし、キャラクターも面白いし、何でも出来る世界だなぁと思っていたので残念でした。それに現場のノリも良くなってきたところですし…でも、もう言ってもしょうがないですね。

——最後に割と俗な質問ですが、ユリ派かケイ派かということで、どちらに感情移入しやすいでしたか?

島田　う〜んとね、どっちにっていうことはないんですけど、ユリを書いてる方が面白さがあって、ケイを書いてるとすごくスカッとして、言いたいことが言えるっていう感じですね。

——どちらが自分に近いですか?

島田　どっちだろう。自分が書く時は……う〜ん。

——どちらも極端ですけど。

島田　そう、極端だから、どっちかな。6対4でユリの方かなぁ。よく分んないですけどね。



平野靖士



PROFILE

昭和30年生まれ。円谷フロでアルバイトするうちに、脚本家となる。『恐竜大戦争アイゼンボーグ』でデビュー後、『ザ・ウルトラマン』『ウルトラマン'80』などの円谷作品の他に『おじゃまんが山田くん』『Dr.スランプ』『うる星やつら』『ガラット』『バイファム』『キャプテン翼』『ダーティペア』等の作品を手掛け、現在に至っている。

終わってもったいないと思いますね

――まず、『ダーティペア』をやることになったきっかけから伺いたいのですが。

平野　最初はサンライズの方に「企画書を書け」と言われてね。それが、一昨年ぐらいかなぁ。で、それからしばらくどうなっているのかな、と思っていたら、なんか始まるらしいって聞いたんですよ。おかしい、なんでこっちに話が来ないんだって、サンライズの方に言ったんですよ。そしたら、僕が書いたのは社内向けというか、広報向けの企画書だったんですね。実は局の方の企画書が通ったらしくて、滝沢さんとか伊藤さんが一派を連れてきてやるらしい、ということになってたんです。で、どうでもいいけど企画書を書いたんだからとりあえずやらせろ、と言って無理矢理入れてもらったんです。

――それでは、『ダーティペア』をやられてよかったと思われますか？

平野　うん、けっこう面白かったですよ。なんで終わったんだか…もったいないなと思いますね。要するにユリとケイで色々と遊べた訳でしょう？けっこう遊ばし方が色々と出来るなと思い始めた時だった。けっこう弾んだセリフが書けてたでしょう？

――それでは、各話ごとに伺いたいのですが、まず「うちらを買って／用心棒には美人がお得」の話から。

平野　あれはちょっと脚本としては…もっと僕はふくらましたかったんですよ。だから、ちょっと長さの関係で、短くしなきゃいけなくなって、本来やりたかった部分がなくなってしまったのが残念なんですよ。それに出来上がった絵がね、あんまり納得してないんだけど、正直言うとね。

――では、その辺を追求させて頂きたいのですが、御自分の作品がこう演出されて、絵ができて、実際にフィルムになった時に平野さん自身のイメージとどのくらい差がありますか？

平野　色々ですね。例えば「用心棒」の奴はね、50％くらい…はっきり言って。

――では、「小さな独裁者／触らぬ機密にたたりなし」の話は。

平野　「アルジャーノン」はまあいいんじゃないですか。

――ではあれは、80か90％くらいで。

平野　ただ、ちょっとラストがね。本当はもっとアルジャーノンにしゃべらせたかったんですよ。その辺がちょっと残念。もっとアルジャーノンとチッチの会話をいれて、他のねずみと区別したかった。ちょっと曖昧になっちゃったからね。本当はもっと区別したかったんだけども、いまひとつ上下の関係とか、知能指数の高いという、人間を馬鹿にしているというね…

――態度が出なかったと。

平野　うん、いまひとつ出てないなと。というか、まあそりゃ脚本でも出てなかったのかも分らないけれども、もうちょっとね。だから脚本はもっとセリフがあったんですよね、確かアルジャーノンにね。

――じゃあ、その辺でもうちょっと演出の方でやって欲しかったということですか？

平野　そうですね。

「アルジャーノン」はゲッシーが原作を読んでつけたんです

――「アルジャーノン」なんかは、元ネタである原作がありますが、例えば伊藤さんの方からこれでやってくれという要請があったのですか？

平野　いや、なかったで～す。

――なかったんですか？

平野　うん。だから元ネタというのは最初の「用人棒には美人がお得」が完璧に「用心棒」です。…「用人棒」というよりねぇ、あの～、ハメットの「血の収穫」って小説があるんですよね。で、「用心棒」の原作というのはあるんですよね。本当はね、そっちの方だったんですよ。

――わりと翻案を取り入れてみたいというのがあったのですか？

平野　まあ、翻案っていうよりは、ちょっとアイデアが使えるかなっという程度ね。うまく使えれば、この二人の性格がよく出るんじゃないかなっと思ってやったんだけど、話の長さの関係で動きだけで終っちゃいましたね。「用心棒」はもっと、相手の暗黒街の若い男とユリとかケイとかの関係をね、もうちょっと本当は書きたかった。

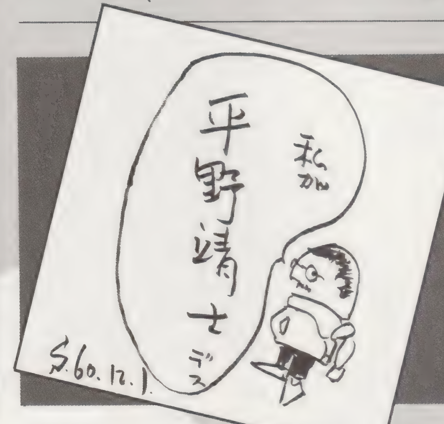
――そうですね、もう少し描ければ良かった感じがしますね。それで、「アルジャーノン」の原作を使おうと思われて、それをあのようなドタバタにしたのは…？

平野　あれはね、滝沢さんからWWWAの中の話がやりたいという話があっ



たんです。それで何の話にしようかと考えて、「機密が盗まれる話にしましようか？」と色々と話していて…。とりあえず、WWWAの中でドタバタする話がやりたい。そこで秘密兵器を盗み出すっていう話を考えたの、最初。しかしあたりまえの秘密兵器じゃあ面白くない、何かないかなって思っていたらネズミを思い浮かべてね、「アルジャーノンに花束を」という小説があったなあと…。

で、作品の中で何でネズミをアルジャーノンという名前にしたかというと、あれは2千何年の話でしょ、実はあの原作がまだ残っていたんですね。ゲッシーというのが、そういう研究をやっていて名前を何にしようかと思った時に、あの原作を読んでアルジャーノンに決めたんです。そういう事なんです。



「金庫」にはまったく別の話があったんですよ

──それでは次の「金庫か選挙か？演説会は殺人びより」の話ですけれども。

平野　まあ、あれは満足してます。ただちょっと脚本が長かったから、そこの切られた分だけね。

──といいますと。

平野　金庫の中にケイと殺し屋の破壊工作員が入ってますよね。あいつが閉じ込もってて、あともう少しで爆発する。で、どうするっていった時に、外でユリが一生懸命にコンピューターと戦って。それで開いた時にユリが5千クレジット賭けてて、「賭けは私の勝ちね」みたいなことを言う訳。で、ケイが「それだったらこの男に貰って」と。「私は助かるかどうかに、こいつに1万賭けたのよ」って言うんです。本当はそこまであったんです。そういう遊びをちょっと切られてね。あと、これも尺数の問題になってくるんだけど、もうちょっと金庫との戦いがね。

──確かに、金庫の中でのサスペンスがちょっと足りない感じがしましたね。

平野　うん、もうちょっとヤバイ状況というのが脚本では書いてあった様な気がするんだけど。あれはムギが助けにいくのね。ムギが助けにいかないと、あそこにムギがいる必要ないんですよ。

──そうですよね。

平野　ナンモは金庫の作動を止める仕事があるけれども、ムギの方がちょっとね。何もしてなかったけれど…いいんじゃないですか。

──「金庫」はどういうふうに物語を発想したんですか？

平野　あれも滝沢さんからじゃないかな。あそこにも中華料理屋のチャンさんが出てきたでしょう。それにゲッシーとかを使ってもう一度出来ないかという話が来た訳。場所はどこでもいいと言われたんだけど…。まあ、どうせだったらWWWAで、またやっちゃえてんで…。これも最初の話は今と全然違っていたんですよ。金庫の中のイメージがメインだった訳。

──感じは残っていましたね。

平野　一本ね、全然違う話で書いたんですよ。あれ、惜しいんだなあ。結構これ面白かったんだけどね。

──結局、まとまりがつかなくて？

平野　いや、そうではなくて『ダーティペア』の世界観に合わないんじゃないかということで…。ギャグぽくしすぎたというところですね。…ちょっと惜しかったけど。

──それで、あのような話になった訳ですか？

平野　もうちょっとハードな話にしてくれって言われまして。で、結局最終的には、犯人が分ってコロンボっぽく終わりたいとゆうのがあったんだけど。あれはあれで、お話しとしてはキッチリ出来たんじゃないかなと思うけど…。

──あの幻想シーンは自分のイメージ通りでしたか？

平野　いや〜、あれは脚本というより演出の方ですね。

──それほど確固たるイメージを持っていた訳ではないのですか？

平野　最初の別の話にこだわりすぎていたからね。恐怖のイメージというだけで、そんなには。だから、怪物ぐらい出て来てもいいんじゃないかなあとは思っていたけどもね。

ケイの方が性格が見えていて好きですね

──あと、ユリとケイの書き分けについて伺いたいのですが。

平野　難しい…。まあ、ケイは割合と男っぽい感じで書けば結構…。それで純情なとこをチラッと見せておけばケイらしいっていう感じはあるね。ユリの方は、もっと大人かも分らない。実はブリッコしてんだけども、その後ろでは凄いことを考えてて、突然そういうものがポロッと言葉として出てくるんじゃないかと。で、見た目は髪が長いから女っぽさを強調するんだけども、どっかで普通の女じゃないと。なんか恐ろしいことをこの女は持っているという風に俺はちょっと考えてたけど。

──最後に単純に言って、ユリとケイではどちらがお好きですか？

平野　俺はケイの方がいいですね。ユリはね…あれに付き合うと疲れるよ。多分、後で結婚してみたらさ、ええ嬶天下になってしまったっていうタイプやなあ。それよりも、最初から性格が見えてた方がやり易いね。



大川俊道



途中から入ったので不本意な出来でした

——大川さんは実写の方が中心でアニメーションは3作しかやっていませんが、そこでなぜ『ダーティペア』を手掛けられたのかを伺いたいのですが。

大川　日テレの『太陽にほえろ』とかやっているのですが、そのプロデューサーが『キャッツ♥アイ』と関係していまして、途中からですがやらせてもらいました。で、『キャッツ♥アイ』のプロデューサーが『ダーティペア』と同じ初川(則夫)さんだったので、これも途中から入りました。

——『ダーティペア』をやられていかがでしたか?

大川　途中から入ったので、全然分らないうちに2本書いてしまって。それで「さあ、これからオリジナリティーのあるものを」と思ったら、向こうで話を作ってくれて…。前後編の話と、結局制作されなかった最終回のやつが、これも向こうで作ってくれたんだけど、それを書いたらもう終っちゃったんですよ。

——なるほど。

大川　で、これからどうにか書けるかなあと思った時に終っちゃったんで。だから非常に不本意ですね。最初から声をかけて欲しかったですね。だから絶対…どのくらいありますか、視聴率?

——だいたい10%前後ですね。

大川　僕が最初から書いていたら15くらいいったんじゃないかと思うんですよ。

——凄いですね。

大川　キャラクターのこととかも、漫画の原作でもあればまだちょっとつかめたんでしょうけど。あれは小説が原作だったから。

——小説の方は読まれましたか。

大川　読みません。もらいましたけど。

——で、アニメーションをやられてどうでしたか?実写と比べまして。

大川　実写だと割とシナリオ通り撮ってくれるんですけど、アニメだと演出の方がかなりはりきってイメージをふくらませて…だいぶ変わりますね。特に『ダーティペア』の場合は割と…。

——では、演出の方にイメージが伝わっていなかったという感じですか?

大川　ちょっとニュアンスが違うなって時がありますね。もうちょっと直しても構わないから、演出の方と意見が合った形で出したかったですね。

——ポンと渡して、それきりですか?

大川　いや、そうじゃないですよ。結構直しを言われて直したんですけど、違ってたんで、はらわた煮えくり返ったりして…。

——この作品をやられる時に色々と説明を受けられたと思いますが、自分としてはつかめたと感じましたか?

大川　いえ、つかめませんでしたね。つかめないまま終ってしまいました。けど、キャラクターに関しては滝沢さんが日テレで火曜の深夜にやっている『女刑事キャグニー&レイシー』の感じでって言われたんでそれで初めて、僕あれ好きでしたから、つかめたという感じですね。

パクリがあったりして…反省しています

——それでは、各話ごとに伺いたいのですが。まず、「ごめんあそばせ走る迷惑強行突破!」。

大川　あれを一番最初に書いたんですよ。で、訳が分らなかったから、クリント・イーストウッドの「ガントレット」っていう映画のパクリですね。というか殆ど盗作ですね、あれは。

——後半が特にそうでしたね。

大川　脚本では宇宙船か何かで突っ込むようにごまかしてあったのに、演出の方で見事にトラックか何かで…恥しくなっちゃいましたねぇ。

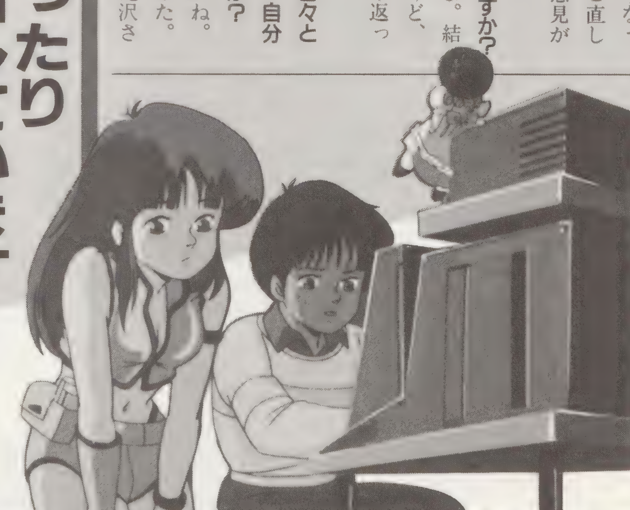
——それではああいう風にしてくれと言ったのではないのですか?

大川　いえ違います。その時は僕は自主制作映画を作ってて、頭が回らなかったんですよ…そんなこと言っちゃいけないんだけど。『ダーティペア』という作品がどういう話か分らなくて、だから「しょうがないや」と思って…う〜ん、反省しています。

——あの作品については変えられても文句は言えないと。

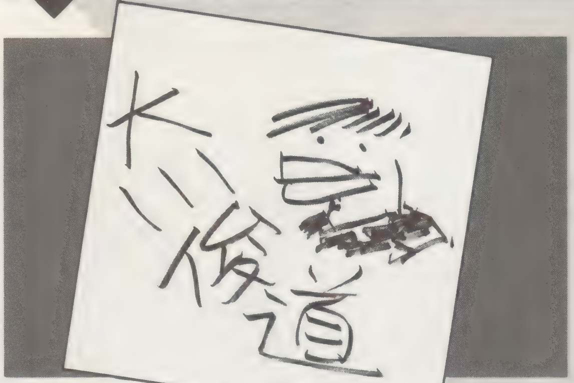
大川　もう、あれは謝るしかないですね。放映された作品も、演出の方も大変だっただろうと思うけどひどかったですね。

——次に、「やるっきゃあない!恋は女の起爆剤」はいかがでしょうか?



PROFILE

大学を卒業後『太陽にほえろ!』でデビューし、以後も同作品を中心に活躍中。その他にも『サーティン・ボーイ』『誇りの報酬』等の作品を手掛けている。アニメーション作品としては『キャッツ・アイ』を初めとして『ルパン三世パートIII』『ダーティペア』の日本テレビ系列3作品を手掛け、現在に至っている。



大川　はい、済みません。これは「地獄の7人」のパクリですね。ここから先はちゃんとやろうと思っていたんですけど…。でもこれはスタッフの人が「面白い」っておだててくれたんで「そうかなー」とか思ってました。まあ、放映された物はかなり派手になっていたから。ちょっとニュアンスが違っていたっていうのはありますけどね。

――「強行突破」よりはネタばれしていませんでしたね…。では、前後篇「うっそ〜!消えた463人?」「やったね!出てきた463人」は。

大川　これはひどいんですね。誰だか忘れちゃいましたけど、初稿があったんですよ。で、よく知らないけど後を頼むっていう感じだったんです。「もう、出来ているなら」という安易な気持ちで引き受けて。これは「天国と地獄」に似ていますけどね、誘拐の話ですから。

――そうですね。

大川　「飛行機がこっちからあっちへ行く間に乗客が何人か消えちゃう話でね、面白いでしょ?」って言われたから「そりゃ面白いや」と思っていたら「だから大川さん、どうやって消えるか考えて下さい」って。ひどいと思いません?大変でしたけど、キャラクターもつかめていたし、星山(博之)さんが色々と御指導くださったんで楽でしたね。それに滝沢さんとか、吉井さんなんかが色々と考えてくれましたから。

実写で撮れるような感覚で書きました

――ところで、脚本は一本当たりどのくらいの時間で書かれますか?

大川　プロットをもっていって「これでいきましょう」となってから一週間くれるんですが、だいたい〆切日に電話が掛かってきてから脅迫観念にかられて書き始めます。で、なんとか次の日までに間に合わせると。

――かなり、早いですね。

大川　「太陽にほえろ」なんか4日しかくれないですから。一週間ありますと安心しちゃって。だから結局あわててやることになる…本当は良くないんですけどね。

――二人のセリフは割と簡単に書けましたか?

大川　やっぱりね…。こういうのやセリフは女のライターの方がうまいんじゃないんですか。ただ、僕なんかは翻訳調のセリフが多いからその点アニメーションに向いていたんですけどね。刑事ものだと追いかける時など、たいてい「待て!」しか言わないですよね。アニメーションだとそこで余計なことを一言言わなきゃならないから、それがちょっと面倒くさかったですね。書き始めはつまづきますけど、動き始めたらその気になって楽になりますね。

――これからもアニメーションをやってみたいですか?

大川　いや、最初から仲間に入れて欲しいですよ。いつも途中からなので…。

――実写と比べて自由に書ける点は楽ですか、それとも…。

大川　それはケース・バイ・ケースですね。自由過ぎると、かえってどうしていいか迷っちゃうし。

――『ダーティペア』はどうでしたか?

大川　『ルパン三世』『キャッツ♥アイ』はいくら翔んでいてもやっぱり地球の話ですからね。だから『ダーティペア』も地球で、しかも実写で撮れるような感覚で書いていましたね。その点で僕のはあんまり面白くなかったかもしれませんね。

――実写の場合は役者さんが決まっていますけど、アニメーションの場合はその点でイメージがつかみにくかったと思うのですが…。

大川　『ダーティペア』の場合は途中から星山さんが細かいキャラクター設定を書いて下さったんで、「これ最初っからもらっとけばよかったな〜」って思ったんですよね。で、もらった二人のスチール写真なんかを貼って、書いていましたね。

なんだかんだ言ってもユリが好きです

――では、具体的に二人についてどのようなイメージで書いていましたか?

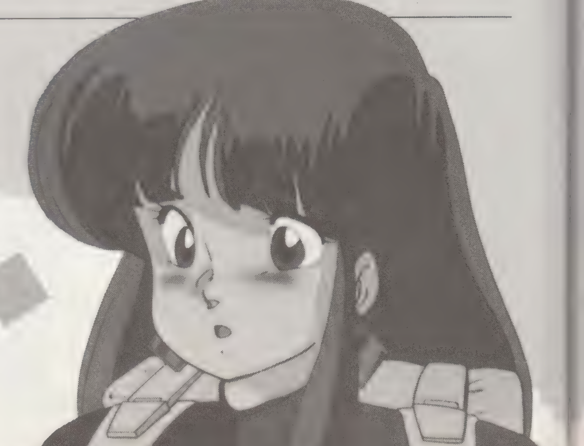
大川　書いた結果が伝わっているかどうか分りませんけど、ケイは90%男にして、ユリの方は何かひっぱたきたくなるような邪魔っけな女だと思って書いていました。「しょうがねえなあ」って感じのキャラクターですね。

――「恋の起爆剤」では、かなりユリの扱いが良かったような気がするんですが?

大川　そうですね。弁解めいているけど、よくハードボイルドの映画に出てくるような、ビービーやたら泣いていてひっぱたいて置いて行こうとするけど「しょうがねえな」って男が連れてくって感じの女がいるでしょう?そんな可愛らしさを前面に出したんだけどね。

――では端的に言ってどちらがお好きですか?

大川　文句いいながらもそんな女の子が好きです。だから矛盾するかもしれないけど、ユリの方が好きですね。それにケイの方は声も嫌いだし、ユリの方はだいたい良かったけどね。



監督

滝沢敏文



PROFILE

昭和28年生まれ。東京造形大学卒業後、撮影のアルバイトを経てシンエイ動画に入社。『おれは鉄兵』『一休さん』で演助に。後に日本サンライズに移籍。『サイボーグ009』を手掛け、劇場版『イデオン』で監督を務める。以後演出として『ザブングル』『バイファム』『ボトムズ』『エルガイム』『ダーティペア』等の作品を手掛け、現在に至っている。

男が嫌うヒロインでもいい

——まず、『ダーティペア』をやられた感想を伺いたいのですが。

滝沢　実を言いますと、僕は途中でおろされたんですよ。だから、時間がたっちゃっていて殆ど忘れていますね。

——では初めの頃の意気込みなどを伺いたいのですが。

滝沢　まあ、アイデアがあったら全てやっちゃうというような感じで初めはいったんですよ。だから、ひとつひとつアイデアがある度にそれでスタッフ全員がとにかく走っちゃえという感じでしたね。

——原作物ということで何か意識しましたか?

滝沢　原作と言っても殆どないでしょう。だからそんなに引きずられることもなかったですね。

——原作はかなりスケールの大きな話なんですが、テレビ版では大きな話はあまりなかったと思うんです。そのあたりは二人のキャラクターを生かす為なのでしょうか?

滝沢　劇場用ならかなり大きな話を作ったと思うんですけど。テレビで星一つ爆発したって面白くもなんともない訳なんですよね。それに何本も作らなきゃならない訳だから、彼女たちは何でも屋さんなんだっていうところを出した方が、面白いはずだろうと思った訳なんですよ。

——テレビ版ではケイとユリという女の子の舞台裏をうまく出していましたね。

滝沢　そうですね。それで例えば過去の女ものというのは『チャーリーズ・エンジェル』だとか『アンクルから来た女』だとか、色々とありましたよね。そういうのはやっぱり男が作りましたよという感じが物凄く見えていたので、それがとっても嫌だったんですよね。だからむしろ女が女の映画を作ったみたいなそういう作り方をしたかった。

——そこが、ヒロインであっても男に媚びたりしない理由の一つなんですね。

滝沢　そうですね。だからもちろん、男がこんな女は嫌だなって思うような主人公であってもかまわない訳なんですよ。

だから、こう秘かに反省しているのです

——そういった点も含めて、この作品で滝沢さんがなさりたかったことというのは、どのようなところにあったのでしょうか?

滝沢　そうですね、僕は『ダーティペア』をいろんなものの詰まったビックリ箱にしたかった。で、スイッチが色色とあって、好みでこれを押すとあれが出てくるみたいなものにしたくって。だから物語の一貫性を追うんじゃなくて、色々な方向の作品を取り揃えて、これは面白いか、今度のはどうだっていう作り方をしたかったし、それは出来たと思うんですよ。ただそれが観せられる側にとってどうなのかってことは良く分らないんですけど。

——それで、放送された作品の中で滝沢さんがこれだと満足された作品というのはありますか?

滝沢　僕が一番気に入ってんのはね、男が女になっちゃう「愛こそすべて(命賭けます逃避行!!)」ですね。

——それは単純に発想が面白いということですか。

滝沢　それもあるでしょうけど、あの話が上がった時にうち(サンライズ)の企画の一人が「同性愛の話はちょっと」と顔をしかめたんで、その時これは面白いなと思った。ある程度、俗悪でいられるというか。

——こういう話を子供が観ている7時台にやってしまうところが凄いですね。

滝沢　うーん、ああいうセックスの問題に関しては、大人が嫌がっても子供は何とも思わないだろうというギャップは物凄いですよね。だからその同性愛の話は苦虫をかみつぶしたようなところに現われると思うんだけど。

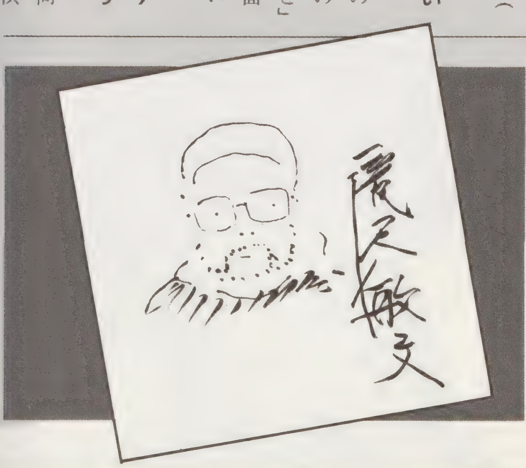
——この話は、滝沢さんが最初に考えられていた色々な話をやりたいということの見本みたいな話ですね。

滝沢　そうですね。僕としても、まあいい出来だと思うんですけどね。

——滝沢さんは『ダーティペア』の性格を決めた第1話の演出を自ら手掛けられていますが、その当時の感想を伺いたいのですが。

滝沢　現場というのはいろんなしがらみがあって、なかなかスタート出来ない訳なんですよ。だから、シナリオを練り上げていても先にいかないから、とにかくやってしまえっていうことでやってしまいましたね。

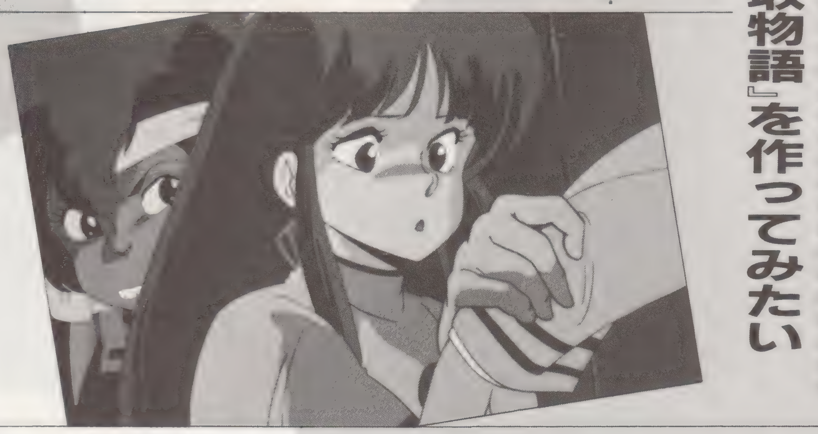
——出来上がって観ていかがでした



か？
滝沢　う〜ん。さて？何にも言えませんね。今回の場合は僕自身が何をやりたいかっていうのが先行していて、人が要求していることと僕が作りたい物とちょっと混同していたので、その辺で色々とトラブルがあったりしたんですね。離れて見て観ると、そういうアラが見えてくるんですね。だから、こう秘かに反省しているんですよ。

大スペクタル作品『竹取物語』を作ってみたい

――滝沢さんはいままで色々な作品を手掛けられてきた訳ですが、今回の『ダーティペア』はその中でどういう位置づけがなされているのでしょうか？
滝沢　それは今までと同じというか、まず思い悩んだらやっちまえっていうことですね。だから、まわりのスタッフの批判なんかは、実際はとてもいい加減なもので恐くないんだけど、やっぱり一般の視聴者の批判は恐いですね。一般の人たちが何を望んでいるかを自分で考え、感じた範囲でやるしかない訳ですよね。それで、後になってこれは間違っていたといつも思う訳なんだけれど…。そういう意味では今までと同じ一つのワンステップだと思っています。
――もし、自由にやらせてもらえるとしたらば、これからどういった作品を作ってみたいでしょうか？
滝沢　そんなにやりたいというものはないんですけど、一生に一度やってみたいというのはあります。本当の『竹取物語』をスピルバーグばりの大スペクタクルでね。
――それはアニメーションでやりたいということですか？
滝沢　そうですね。その中間あたりかな？まあ、例えばコンピューターを駆使するとか、アニメーションだけでもいいんだけどカンヌ・グランプリとかに持っていきたいですね。



――『竹取物語』といいますと、原作そのものでしょうか？
滝沢　かなりそのものを…精神は残してという感じで。舞台は古典なんだけど、より大スペクタクルというか、きらびやかな感じで…。古典というと地味なイメージを持っていますけど、もとは俗っぽくてとてもエネルギッシュだったものが古典と呼ばれているんですよね。だからそういうのを生かせたら面白いだろうなと思いますよね。あとは怪奇映画みたいなのがやりたいですね。
――怪奇ものがお好きなのですか？
滝沢　昔は怪奇小説ばっかり読んでましたよ。最近は面倒くさくて読まなくなりましたけどね。僕は心理的な描写よりも視覚的な恐怖が好きなので、恐怖映画というのは是非やってみたいものの一つです。
――SFの方はいかがですか？
滝沢　まわりに好きな人が多いからそれにつられて読んでいます。でも、どちらかというとたくさんの写真が載っている科学雑誌みたいな…例えば『ニユートン』だとか『オムニ』みたいな方が刺激的で読むことが多いですね。なんといっても最先端のことですし、いま一番面白いのは科学じゃないかなと思いますから。

ケイは男を意識しない魅力的な女

――最後に、ユリとケイではどちらがお好きでしょうか？
滝沢　そりゃもちろん女として魅力的なのはケイじゃないかと僕は思いますね。その、これからの女としてね。
――これからの女と申しますと？
滝沢　男を意識するとか、男に媚びないという意味なんだけど…。男の目を意識しない女というのを描きたかったからね。というのも魅力的な男というのはそんなに女を意識しないでしょう。どっちかというと。
――そうですね。
滝沢　個人として生きているというのが大切なんですよ。だから逆にユリは女であることの魅力を利用しなければ生きられないって感じですね。
――ユリがそういった女の魅力を利用できたのも器用だからで、ケイはその面に不器用だったのではないでしょうか？
滝沢　ケイの場合は必要がなかったのではないかと思いますね。
――では演出されていてもケイの方が生き生きしているとか？
滝沢　うん、そりゃあるでしょうね。どっちかというと。



奥脇雅晴



TV版とは違った作品にしました

——まず最初に、どのような形で奥脇さんがお話を受けられたかを伺いたいのですが。

奥脇 一応、サンライズの方からビデオの制作の依頼があったので受けることになりました。テレビの編集版のビデオも出ているので、一緒にならないようにテレビとは多少変えていこうということだと思います。

——スケジュール的にはどうでしたか？

奥脇 えーと、夏前から入っていたのですが、12月までかかっちゃって、キツかったですね。

——今回のビデオ、『ノーランディアの謎』ではテレビシリーズとは多少キャラクターが変わっていますが、どういうところに意図があったのでしょうか？

奥脇 最初の企画にもあるんですが、テレビシリーズの方はちょっと男の人が作ったキャラクターで、女性にちょっと受け取りにくい部分があったみたいなので、もう少し女の人にも受け入れ易いようにしていこうということで少し変えました。

——例えばそれは、主人公の描き方がテレビシリーズだと男性の目から観たものになっていた、というようなことでしょうか？

奥脇 うーん、その辺もちょっとあったと思うんですけどね。

——オリジナルビデオということでキャラクターなど変えられている他に、このビデオの特性についてどうお考えになりましたか？

奥脇 色々と考えたんですけどね…。テレビシリーズだと誰もが観るのに対して、ビデオだと買う人が限定されてくると思うんですよ。ちょっとマニアックな人なんかとかね。ですけど、いままでビデオというのをやったことがなくて、やはり多少テレビ的な…いろんな人に観てもらえるような…作り方で作品を作っていましたね。

——逆にビデオにも、テレビシリーズにある魅力を取り入れたと思うのですが、そういう取り入れた部分というのはどういうところでしょうか？

奥脇 サンライズの方から「最初にあるのを見ちゃうと同じような感じの作品になるから気を付けて下さい」ということも言われてましたので…こちらとしてもなるべく観ずに（でも観ましたが）、もうひとつの『ダーティペア』を作り上げるようにしました。

——では、出来上がったフィルムを観ていかがでしたか？

奥脇 いや～、実に緊張の連続でした。

マニア心をくすぐる3部構成の作品です

——高千穂遥さんの原作はお読みになりましたか？

奥脇 はい、読みました。昔読んだんです、一度。

——SF小説とかは良く読まれるのですか？

奥脇 学生の時は良く読んでいたんですけど、最近は実写映画を観ることが多くなりましたね。

——この「ノーランディア」はかなり原作に近い雰囲気が出ていると思うのですが、そのあたりは気を付けられたのでしょうか？

奥脇 なるべく近づけていこうというのはありましたね。あの…テレビの方はユリとケイの年齢を少し下げているんですよね、視聴者層を考えてね。で、ビデオの方はキャラを少し変えて、「これはビデオで作りましたよ」っていうふうにしたかったので、少し年齢も原作近くにしたんですよ。その点からも原作に近くしたんですけどね。

——脚本からしてマニア受けする要素が多分に入っていたと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか？

奥脇 その辺は脚本の伊藤さんにまかせているんですよ。僕もまだその辺は伊藤さんの方がうまいと思ったのでね。で、最初、脚本が上がってきた時に「これは良く心得ているな」と思ったんです。本当にマニアの人が望むようなところが、随分入っていましたから。だから、僕の方はその辺を買った上で気を使うようにしていただけなんですよ。

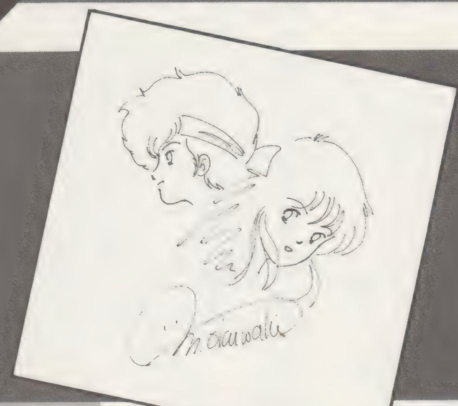


——それは例えば、ユリがノーランディアの森の異常に気付く時に、植物の分子構造について色々と説明をするあたりの科学考証などに現われている訳ですね？

PROFILE

昭和33年生まれ。20才前にアニメ界に入り、制作進行やＯＨプロでの作画を経験して『セロ弾きのゴーシュ』で演出助手をつとめる。東映を経て東京ムービーに入り、『キャッツ♥アイ』『レディジョージィ』『スペースコブラ』『ゴットマジンガー』等を手掛け、そして監督として『ビデオ版ダーティペア』を手掛けて、現在に至っている。

DIRTY PAIR INTERVIEW



奥脇　あの辺はやはり観ている人をくすぐる部分だと思うんですよ。あれがスンナリいってしまったら「なんだ…」という風になっちゃいますからね。まあ、こっちは図書館に走らされて、色々と調べましたけどね。

――そうしますと、ドラマ性とキャラクター性との比重関係で話のつなぎが難しくなってきたと思うのですが？

奥脇　話が長いんで、前半と中盤と後半にそれぞれレパートリーがあると思うんですよ。前半で二人を星に行かせ、中盤でノーランディアの謎解きがあって、後半に追いかけがあるというように。そういった、話の各部に分担があってもいいんじゃないかなと思って作ったんです。

――その中でも、謎解きに中心がおかれているような構成をなさっていたようですが、その辺はいかがでしょうか？

奥脇　脚本については、伊藤さんにまかせていたところが多かったですからね。まあ、色々と四苦八苦しましたけど…。

――では、観せ方の方に徹したのですか？

奥脇　そうですね。

ケイもユリも両方とも好きですねぇ

――二人のキャラクターについてはこの話の中でどういうふうに生かそうとしたのでしょうか？

奥脇　うーん。あの二人の性格が出ればいいなと思って…。ケイはドタバタやっているし、ユリは…ユリもやるけど、どこか違いますし…。一緒に行動していても二人は違う人物だというところが出ればいいなと思ってたんですけどね。

――違う人物像が出ればいいということなんですが、その違いはどういうところに一番大きく出てくると思いますか？

奥脇　即行動するのがケイですし、ユリはちょっと思慮深いところがあると思うんです。

――では、人それぞれだと思うのですが、ビデオにおけるユリ観・ケイ観は、どういったものでしょうか？

奥脇　うーん。テレビはテレビで、あるひとつのユリ・ケイ観があると思うし、伊藤さんは伊藤さんのユリ・ケイ観があると思うし…。フィルムは僕の持っているのと伊藤さんが持っているのがぶつかり合ったものですからね。違う人がやれば、また多少違ったものが出来るでしょうし…。

――ズバリ、奥脇さんはユリとケイをどんなキャラクターだと思いますか？

奥脇　ズバリは言いにくいなぁ。

――ではどちらがお好きですか？

奥脇　僕はどちらも好きですけどね。

もう一本長い作品を作りたいですね

――ところで、この『ダーティペア』という作品は奥脇さんの作品歴にとってどういう意義を持った作品になりましたか？

奥脇　そうですね。本当に…長い一つの作品として、またビデオ作品として、いい勉強になったですね。

――最後に、86年の目標といいますか、こんな作品をやりたいというのは何かありますか？

奥脇　一応、来年（86年）のはもう動いていまして。うーん、いつのまにか中堅になっちゃって、あせっているんですけどね。また、少しずつ地固めしていきたいと…。まあ、手持ちのスタッフでまた長いのを作ってみたいと思っています。





土器手司

ケイが70%、ユリが50%くらいの出来

――『ダーティペア』をやられたきっかけは何でしょうか？

土器手　『巨神ゴーグ』の時からずっとサンライズの4スタで仕事をやっていたんだけど、その時にプロデューサーの吉井さんから言われて…。

――キャラクターデザインをやられることになった経緯を伺いたいのですが。

土器手　最初、3～4人を試しに描かせていたみたいだけど…なんで選ばれたんでしょうね？

――原作といいますか、小説の挿絵などに安彦（良和）さんのキャラクターがすでにあった訳ですが、そのあたりはどうお考えになってデザインされましたか？

土器手　安彦さんの絵が好きだったから、亜流にならないように別個のキャラクターを作るように心掛けました。

――出来上がったキャラクターは何%くらいの出来だと思いますか？

土器手　全体で60%くらい。ケイが70%、ユリが50%くらいですね。

――ユリの方が色々と苦労していたようですが、そういうこともあって出来も低いと考えられる訳ですね。

土器手　実際にやっている間でもどんどん顔が変わっていったから…。ケイの方は顔が変わらなかったから、良かったんじゃないかなと…。

――他のキャラクターについてはいかがでしょう。まず、ムギについては？

土器手　キャラ表には描いてないんだけど、設定ではあっちこっち延びるということになっていたんです。一応ああいう形をしているけど、もともと形がないという設定だったんです。だけど、みんなでっかい猫の方が使い易いということで使いませんでしたね。

――美形キャラについてはいかがでしょうか？

土器手　あんまり美形は得意じゃない。美形は線が多くなるし、フォルムがあっさりしているから、髪型とか凝らなければならないので…中年の方があっちこっちでっぱているから、フォルムが作り易いですね。

中途半端な作りになったのが残念

――キャラクターを作るのと原画を描かれるのではどちらが良いですか？

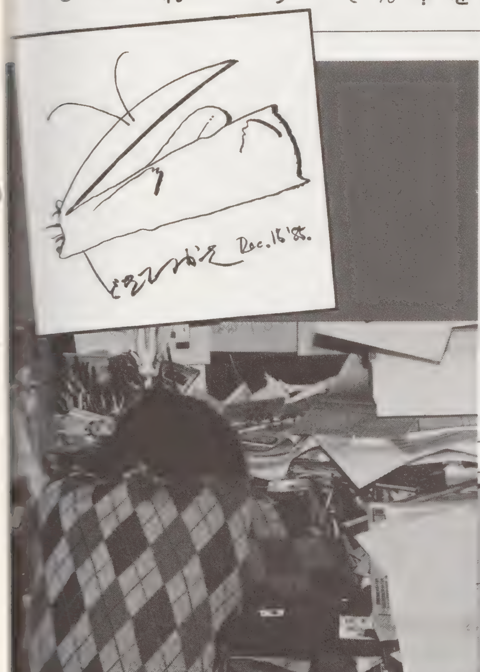
土器手　原画の方がいいですね。あんまりキャラクターを作るのには向いていないみたい。

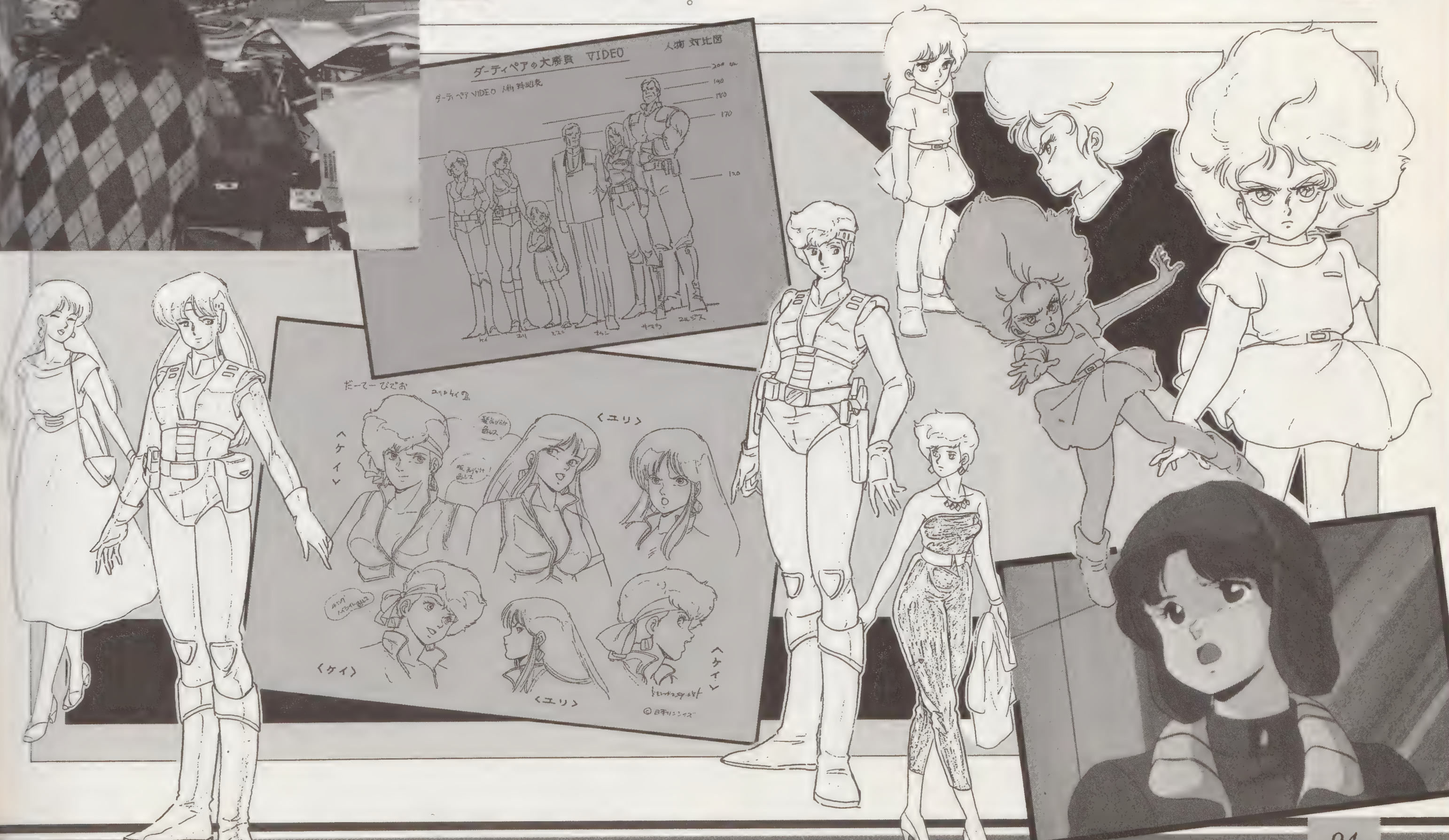
――では、作画とキャラクターデザインとではいかがでしょう？

土器手　どっちも嫌いですね。

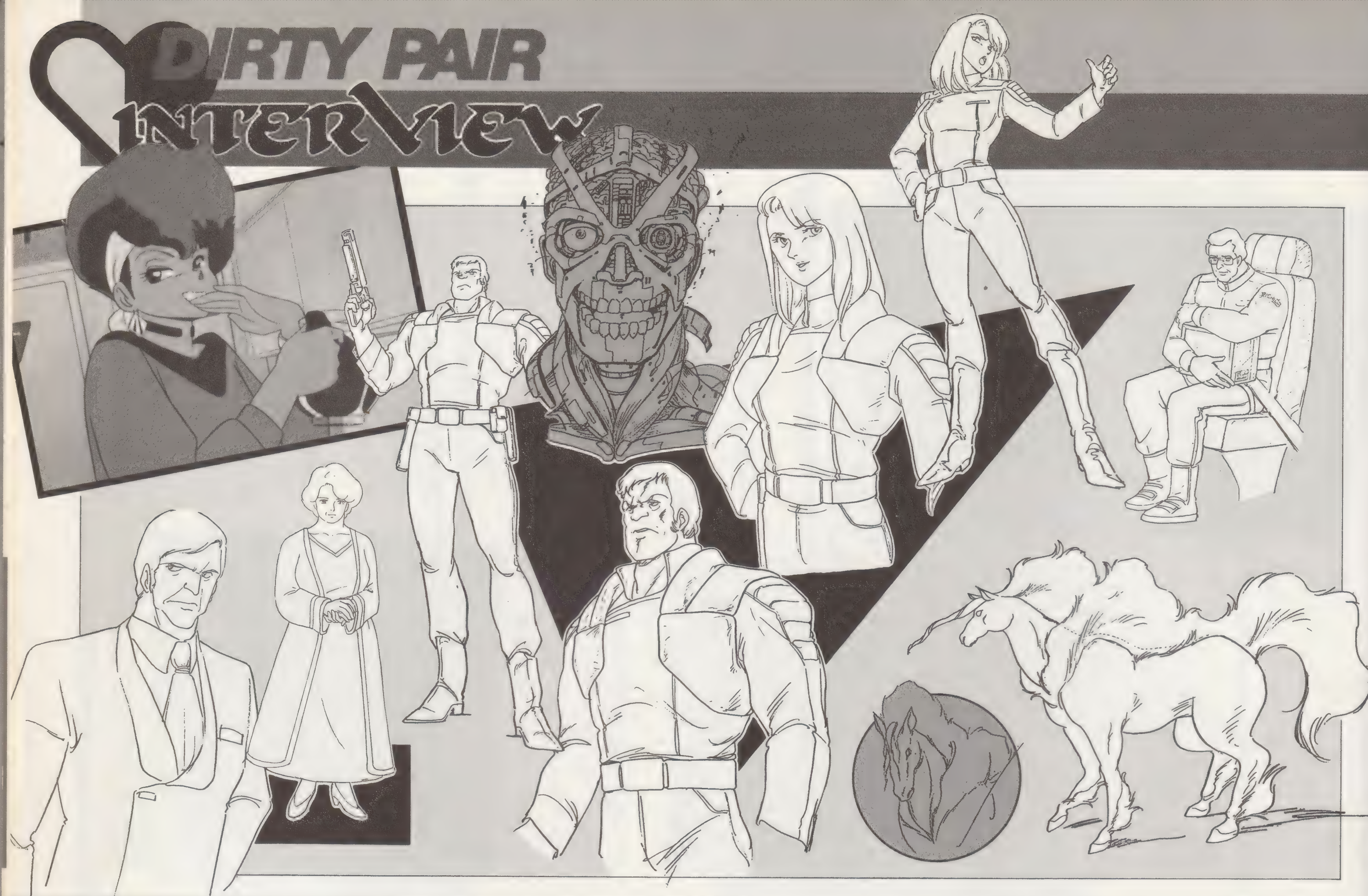
――キャラクターデザインをやられてみていかがでしたか？

土器手　昔はやりたかったんだけど、やってみてイメージをまとめるのがし





DIRTY PAIR INTERVIEW



んどかったりして、もうやる気がしなくなりましたね。

――自分のキャラクターということで、他の作品より作監作業は多くなりましたか?

土器手　なんとなくいらないところまで修正してしまうから…。原画そのものは変わらないんだけど、『ダーティペア』の方がきつかった…。

――修正はどのくらいかかりましたか?

土器手　サブキャラ作りとかが入って、2ヶ月かけちゃいましたね。本当は1ヶ月くらいでやらなきゃいけないんですが。

――ビデオの方のキャラを変えられたのは、理由があったのでしょうか?

土器手　演出とエモーション(株)ネットワーク)の方から、話の関係もあるからシリーズより大人っぽくしてくれと言われたので…。

――ご自身ではどちらのキャラクターの方がイメージに合っていますか?

土器手　シリーズのキャラをくずしたぐらいの、もうちょっとマンガ的なのがいいように思います。テレビもビデオもなんか中途半端な感じがしますね。

――『ダーティペア』という作品そのものについてどう思われますか?

土器手　もうちょっと何とかしたかったですね。なんか中ぶらりんな感じがして…もっと考えて、ギャグなら完璧にギャグを、シリアスなら完璧にシリアスをやれば良かったなと…。

――原作はお読みになったと思いますが、この作品は原作をうまく処理できたと思いますか?

土器手　原作はSFマガジンに載ってた頃から読んでいたけど、アニメは設定だけ貰ったまったく別の作品だと思っているから、比較になりませんね。

ユリはその日の気分で変わるのが楽しかった

――土器手さんのやられた回でどの回がお好きですか?

土器手　どの回も不満が残ってますね。1話、5話などの最初の方が印象は濃いですけど…。

――他の作監について伺いたいのですが、どの方の回がお好きでしたか?

土器手　大貫君のが一番面白かった。僕のより面白かったと思う。

――演出家、脚本家ではどなたが?

土器手　演出は浜津(守)さんですね。シリーズ全編、ああいう雰囲気でやれば楽しかったと思いますね。脚本は井上さんのが、訳が分からないのがいいです。

――最後にユリとケイのどちらがお好きか伺いたいのですが。

土器手　一応ユリ派です。

――描き易さではいかがでしょう?

土器手　ケイの方は決っているから描き易いんだけど、ユリの方はその日の気分で変わるから…逆にそれが楽しかったんだけど。



作画監督

大貫健一

僕は「ダーティ貧乏」になりました

――まず始めに『ダーティペア』をやられたきっかけを伺いたいのですが。

大貫　きっかけは何というか、『巨神ゴーグ』からズルズルと引き続いて…。

――作画監督をやられて、修正はたくさん入れられた方ですか?

大貫　いやあ、不充分ですね。修正したつもりですけど、良くないですね。

――原画のレベルはどうでしたか?

大貫　靏山さんの回に比べると、まあ良かったですね。前半の方で「うっ!」という感じのがありましたけど、まあ時間もありましたから…ね。

――では、あまりキツかった訳ではないのですか?

大貫　いいえ。貧乏になりましたからね。まあ、色々あって「ダーティ貧乏」と言われてましたから。(笑)

――土器手さんと比べて、修正量は多い方ですか?



大貫　最初は彼の方が多いなんてもんじゃなかったけど、後半はうまく押さえる所を押さえたという感じでしたね。

――その土器手さんについて、どう思われますか?

大貫　変わった人じゃないですか?でも、面白い人ですよ。

――キャラについてはいかがですか?

大貫　似ませんでしたからね。描きにくいというか…でも嫌いじゃないです。

――作品作りはいかがでしょう。

大貫　うまい人ですね。でもテレビ版の方はちょっと制約が大きかったですからね。もう少し好きにやらせてやれば良かったと思うんですけどね。

――『ダーティペア』という作品自体については、どう思われますか?

大貫　原作はともかくとして、アニメの方は少し考え過ぎですね。変に意識し過ぎたとこがあって、今一つでした。

――それは、話の上でですか?

大貫　話もそうだし、設定自体もそうだし、演出も作画もみんなそうですね。あと1クールくらいあれば、もうちょっと変わったかなって感じだけど、中途半端で終わりましたからね。残念ながら。

――では、もう少しやりたかったと?

大貫　いやそうは言いませんけど、作品自体はこれからだったかなという感じはありましたから。



――最後に、ユリとケイではどちらの方がお好きですか?

大貫　俺としてはケイの方が描き易いと思っているんですけど、最近イラストを描いているとユリの方が楽だなあって気がしますね…。

作画監督

靏山　修



殆ど泊まり込みの修正作業

――まず始めに『ダーティペア』をやられた感想を伺いたいのですが。

靏山　感想は無いね。何も残らなかったし、これといって面白い作品ではなかったですね。仕事だからね。

――なるほど、では作画監督がかなり大変だった訳ですか?

靏山　ヘタだからしんどいですよ。

――原画の質が悪かったとか?

靏山　悪かったね。『ダーティペア』に関しては。

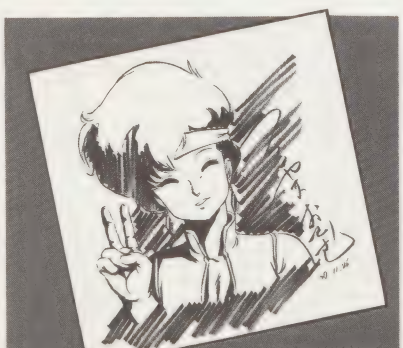
――全面修正の嵐とか?

靏山　ほとんど泊り込んでたもんね、みんな。それでも、一話で2ヵ月かかっていた。



――それでは『ダーティペア』という作品自体が嫌いなのでしょうか?

靏山　う～ん。シリーズは嫌いだね。まだ、原作の方がマシかなって気がする。面白いところが少しあるからね。



――アニメにして全部潰してしまったということですか?

靏山　うん。

――それでは土器手さんについて伺いたいのですが。

霧山　面白い男ですね。うまいですし。

——キャラクターについてはいかがでしょうか？

霧山　ああいうキャラクターは描きにくいからやめろとは言えませんしね。僕には描けなかったから、辛かったけど。

——最後にユリとケイではどちらが描き易いですか？

霧山　ケイの方が描き易いですね。

——ではどちらがお好きですか？

霧山　両方とも嫌いです。

ビデオ／作画監督

小林ゆかり

すごく長くやっていた感じがしました

——今回、ビデオ版の作監をやられてみていかがでしたか？

小林　実質は2ヵ月くらいですけど、設定とかがバラバラに入ってきたりして、すごく長くやっていた感じがしますね。

——絵柄の方は描き易かったですか？

小林　土器手さんの絵をやるのは初めてだったんですよね。だから最初はすごくやりにくくて、自分の絵になっちゃったんじゃないかなと思うんだけど。

——では、誰の絵が一番楽ですか？

小林　そうですね。杉野（昭夫）さんのとか、ああいうカッチリ取れるやつがいいですね。最近、意外と雰囲気で描く絵が多くなってきてるから、そうなると杉野さん以外の絵に似せるってのは、ちょっと難しいかな。

——修正量は多い方でしたか？

小林　多かったんじゃないかな。（笑）随分、いろんな人に蒔きましたからね。

——すると、統一がとれなくて？



小林　やっぱ、大変だった。服装なんかや付属品があったりなかったり、というのが細切れであったんで、注意するので大変だった気がします。

——原画と原画監督では、原画の方が楽だということですか。

小林　原画の方がやってて楽しいんじゃないかな。作監は黙々という感じで、孤独なんですよね。原画だと皆と一緒に同じものをやれるんだけど…。

——ところで『ダーティペア』をやられてみた感想を伺いたいのですが。

小林　女の子ばっかりでね～。いつも二人で出てくるのが…。

——では、作品についてはいかがでしょうか？

小林　好きでなくちゃいけないでしょうね。（笑）

——嫌いな人も割といますから大丈夫です。（笑）

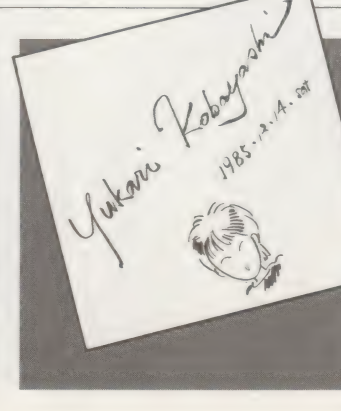
小林　大丈夫ですか？やってる本人が駄目なんて言ったらなんだけど。実は私、SFって分らないんですね。（笑）

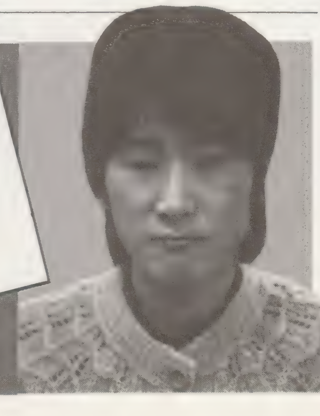
——それでは、今後はどんな作品をやっていきたいですか。

小林　これからはオリジナルを社内でやりたいですね。出崎（哲）さんが絵を描いて、それをみんなでやるというのが、本当はうち（マジックバス）のベストな形なんですね。それをこれからやれるから、これから楽しいんじゃないかなぁと思うんですけど。

——なるほど。最後にユリとケイではどちらが描き易いでしょうか？

小林　ユリは苦手でね。ケイはいつも描いているのに雰囲気が近いから。





映画のような画面作りを

——まずは『ダーティペア』をやった感想を伺いたいのですが。

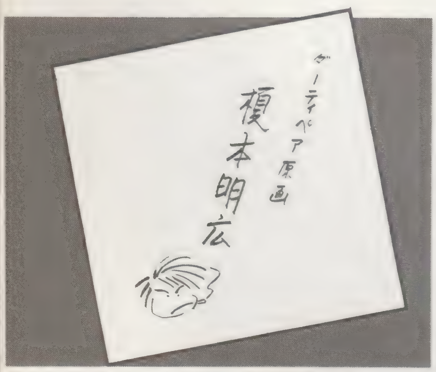
榎本　最初の2本くらいは、何が何だかわかんないまま仕事をやっていたという感じですね。「ネズミ」の話が面白くて、次々とやってるうちに仕事が段々面白くなってきたんですよ。それが打ち切りになって、尻切れとんぼで終わってしまったという感じですね。

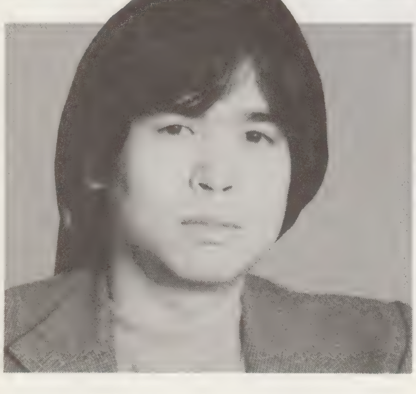
——榎本さんが担当された回というのは、割と密度の高いシーンが多かったと思うのですが、いかがでしょう。

榎本　1話はね、洪水のシーンをやらされたんですよ。まあ大変だったですけど、僕としては満足でしたね。

——それらのシーンを作画される時は、どの様な点に気を付けましたか？

榎本　僕としては映画作りをしてるという感じで仕事してるんで、動きを作る方に重点置いてます。『巨神ゴーグ』やってた時もそうなんだけど、すぐ近くに安彦（良和）さんがいるのに全然似





原画

榎本明広

ないのね。どうやっても似ないから、キャラ似せることに関しては作監にフォローしてもらおうと思って（笑）…。それと、1本のフィルムになった時のトータリティというものを気にするんですよ。自分の担当している分だけうまくいってればいいって人もいるけど、僕は自分のやってるところがうまくいっても、初号観に行って全体が落ちていると一ヶ月何やってたんだろうってガックリきてしまいますね。

——キャラが似ないというと土器手さんには随分直されましたか？

榎本　そうですね。彼も自分で作ったキャラでもあるし、こだわりはあったんじゃないかなと思いますけど。

——では、榎本さんが一番印象に残っているのはどのシーンでしょうか？

榎本　「消えた463人」で黒いエアカーが、住宅街みたいなところの花壇に突っ込んで来るシーンがあるんです。絵コンテを見て、すごく映画的なイメージが広がったので、この辺のレイアウトを取ってる時が楽しかったですね。

——土器手さんについてコメントをいただきたいのですが。

榎本　土器手君について！（笑）俺は気が小さいんでね、スケジュールが迫ってくるとプレッシャー感じるんだけど、土器手君は大したプレッシャーも感じずに黙々とやっていたみたいだね。それに制約がある中で、結構やりたいようにやってたみたいなんで、そういう精神は忘れないで欲しいですね。

——それでは最後の質問ですが、ケイとユリのどちらがお好きですか？

榎本　実をいうとああいう女の子は苦手なんですよ。最近流行っているようですけど。まあ、ユリは髪の毛の処理とかで気を使いましたからね…。



原画

広田麻由美

もう少しキャラの個性が出れば…

——『ダーティペア』をやられる時に、興味を抱いておられたのですか？

広田　やる前から、面白そうな作品だなあと思っていました。

——原作を読まれてですか？

広田　ええ、そうです。高千穂（遙）さんが割と好きで読んでいましたから。

——それでは、『ダーティペア』をやられていかがでしたか？

広田　割とのらりくらりとやってるから、別にね…。ただメカや爆発が苦手で、そういうのがまわってくると、ちょっと困りましたね。

——話とかキャラクターについては、いかがでしたか？

広田　二人ともなんか同じようになっちゃったね、と内輪では言ってました。

——個性の差が出なかったということですか？

広田　そうですね。ケイなんかも凄くいいお姉さんになってしまったし、子供がからむと普通の優しいお姉さんになっちゃうし…。



——次に、土器手さんについて伺いたいのですが？

広田　もう、凄い人ですね。

——それはやっぱり絵描きとしてですか？



広田　う〜ん。絵描きもそうだけど、アニメーターとして動かし方、物の見方、考え方…勉強になる…より、こっちが落ち込んでしまいます。

——最後に、ユリとケイではどちらがお好きでしょうか？

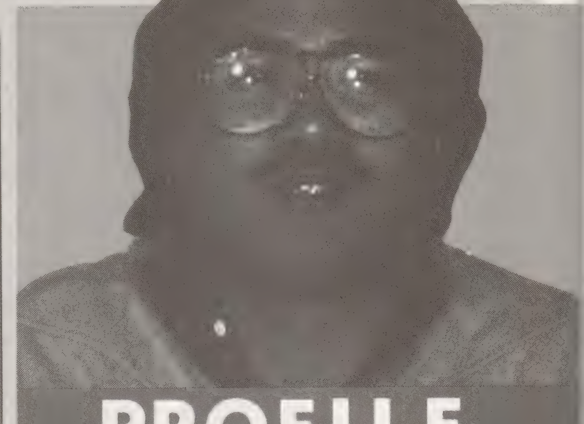
広田　ユリです。絵にして描き易いから。ロングヘアーで決まり易いっていうのがあるんですが、ケイはちょっと髪の毛がうまくつかめなかったから…。



音楽

木森敏之

120曲を2日でレコーディングしました



——この世界に入られたきっかけなどを伺いたいのですが。

木森　大学時代にアマチュアバンドをやっていて、その延長でいつのまにかプロになっていました。

——それでは尊敬する作曲家は誰ですか？

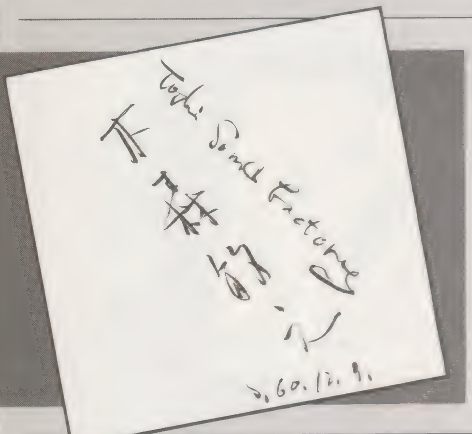
木森　うーん、僕は映像音楽をメインに仕事をしていきたいので、その意味でJ・ゴールド・スミスなどが大変好きな作曲家ですね。…尊敬しています。

——アニメの劇伴をやってみていかがでしたか？

木森　アニメの劇伴もドラマの劇伴と基本的には同じですが、ただ感情移入のシーンなどは人間が演ずるほどリアリティーが出ないので、そういうシーンを助けて欲しいという注文が結構多いですね。一番問題なのはロール数が映画のサントラに比べて3倍から4倍あり、その上に連続ものになると将来ストーリー展開が変わってくることも考えられてかなりのロール数を要求されることですね。

PROFILE

日本大学芸術学部卒業後、USディクグローブ・ミュージックワークショップ等を経て、映画・TV等の作編曲を中心に手掛けるようになる。主な作品に、映画では『蘇る金狼』『スパルタンX』等、TVでは『火曜サスペンス劇場』等があげられる。アニメでは『キャプテン』『ゴルゴ13』『ダーティペア』等を手掛け、現在に至っている。



——ところで木森さんが『ダーティペア』をやられるようになった経緯は？

木森　『火曜サスペンス劇場』のテーマ曲を始め、日本テレビの番組の仕事を数多くしている関係で日本テレビ音楽出版社からのオーダーです。

——『ダーティペア』についてどう思われましたか？

木森　シノプシスや企画書を読んでみて感じたのは、現在のアニメの主人公の多くは男であったり、または男と女とのパターンが多い中に女二人が主人公でSFタッチということで面白そうだなぁと思いました。

——曲はどのように書かれるのですか？

木森　作画監督や選曲の方が色々なシーンを想定してくれて、例えば『ダーティペア』だと戦闘シーンとか悲しいシーン、また主人公二人の絡みのシーンとかを全部想定してくるんですよ。それらを項目別にかなり具体的に打ち合せしながら書きます。

——アニメの曲は他のテレビ作品と比べて時間がかかりますか？

木森　かかりますね。まず先ほども言いましたが、ロール数が多いし色々なバリエーションの音楽を長い音楽から短い音楽まで作らなければならないし、また譜面に書けない音もあって直接スタジオでダイレクトにメロディーを作ったりしますので時間がかかりますね。

——すると譜面のない曲もある訳ですか？

木森　ええ。即興でやった方が譜面に書くよりもいい結果が生まれることもありますから、当然ロール数にはこうした楽曲も加算されてくる訳です。

——では、『ダーティペア』で作った曲数は何曲くらいですか？

木森　100～120曲はあったと思います。

——その曲数をどのくらいの時間で作るのですか？

木森　一週間以上かかりましたね。

——月に何曲くらい作りますか？

木森　例えば『火曜サスペンス劇場』では台本一冊につき平均25曲～30曲くらいあり、映画のサントラでも30曲くらいありますから月に2本やっても50曲以上ですね。その他を含めて月100曲くらいじゃないですか。

——サントラの録音現場の様子というのを聞きたいのですが。

木森　120曲くらいを2日に分けてレコーディングしましたが、限られた時間内に録り終えなければならないのでかなりきつい仕事でしたね。

——作曲と編曲では木森さんにとってどちらが楽しく、また楽ですか？

木森　僕は基本的に編曲は自分の曲しかしないので、いい曲が書けた時はアレンジもうまくいくと思うし、どちらが楽かはいちがいに言えませんね。強いて言えば作曲です。

——御自身はどのような音楽が好きですか？

木森　音楽を生業としている者としてはジャンルにこだわらず色々と聞いておりますが、最近はヨーロッパ映画のサントラやシンフォニックを聞いています。

——木森さんはこれからどういう音楽を作っていかれたいですか？

木森　映像音楽を志しているので、シーンを想い浮べると同時にメロディーを想い出されるような心に残る曲を作りたいですね。



プロデューサー

INTERVIEW 吉井孝幸

見終わった後が心地よい作品作り

――まず、日本サンライズにおけるプロデューサーの仕事というのは、どういった仕事なのか伺いたいのですが。

吉井 例えば「こういう企画なんだけど」というところでシナリオライターなり、原作者なりと企画を進めて、ライターを誰にしようとか、演出や作画を誰にするとかいうことから入って、あとはトータルな予算組み、スケジュール管理という仕事までやるんです。

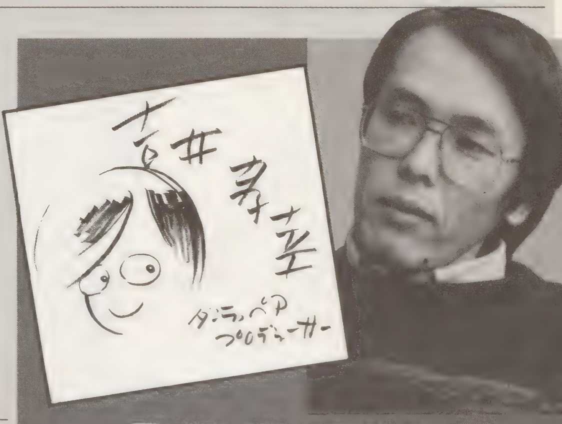
――なるほど。それでは『ダーティペア』の話ですが、最初の企画は日本テレビの方からきたというお話なんですが、その辺の事情は?

吉井 詳しい事情はともかく、日本テレビのプロデューサーが『ダーティペア』の企画を立てて、まず原作をクリアしようとして打診してみたら『ダーティペア』の原作の権利はうちが持っていたんです。それで「じゃあ、日本サンライズでやりましょうか」ということになったんじゃないかと思います。

――で、24話で打ち切りなのですが、この件についてはいかがですか?

吉井 当初から2クールの仕事で、その後でどうするのかって話だったから打ち切りというより一応2クールで納まったという解釈しかしてません。

――スタッフの方は残念がっているようですが、吉井さん自身はどう思われますか?



吉井 うーん、僕もやりたかったですね。4クールはやりたかった……。

――逆にいうとそれくらいはやれる作品であったということですね。

吉井 そうですね。充分やれる作品だと思います。大体この手の作品は、本数が増えれば増えるほどキャラクターが確立していくと思うんです。アクションを主体にした部分がとっつきづらく、キャラクターの浸透を妨げたのかもしれませんね。

――プロデューサーの方からライターの方たちへ、何か要望されたことはありますか?

吉井 ライターには好きなように作って、という感じのオーダーが一番多かったな。細かくは監督まかせですよ。小気味良さとか、壮快感とか、そういうものが出てくれればいいんじゃないかと思って、変に制約はつけなかった。話数毎に、ライターによってタッチが大きく違っていたりするんだけど、そういう意味ではバラエティに富んだ、悪く言えば散漫な、楽しい作品じゃないかな。そのために余計ライターが混乱したようですけど。

――逆にそこが良い面にも働いていると言うことですね。

吉井 とも思うんです。あくまでも娯楽性というのは重視しました。見終わった後の心地よさ。変にひねらず、幼児でも楽しめる作品にしたかった。

――実際にフィルムが上がってきて、ユリとケイの性格についてはいかがですか。思った通りでしたか。

吉井 僕が感じた『ダーティペア』の一番の反省点ですけど監督、演出とかライターやアニメーター、全部含めて『ダーティペア』って個人個人の思い込みの落差が凄いんですよ。当然僕を含めてね。ユリはこうだとか、ケイはこういう性格だとか、自分なりに解釈している訳。そういった人がごまんといる訳ですよ。この作品を難しくした原因はこれだと思うんです。

――と言いますと。

吉井 例えば、全くのオリジナルものであれば「A」というキャラクターはこういう性格ですよと書いてね、それでみんなが「ああ、こういう性格だな」と思いながら作業にはいる訳です。万事がそうな訳。それからコミックの原作であれば、キャラクター性が非常にハッキリしている訳ですよ。具体的な絵もあるしね。台詞も的確な訳。だから大概の人間はキャラクターを取り扱うのに取り違えない訳ですよ。ところが『ダーティペア』は原作の量が少ないということと、制作スタッフ個人個人の思い込みが強過ぎた。性格だって、原作読むと一人称付だから多少差があるような書き方をしているけど、よく読んでみるとそんな大差ないんですよ。特にユリというキャラクターに対して性格づけがはっきりしない部分があった。ケイの性格づけは映像で見るかぎり、まあうまく現れていると思います。

――ケイはどの回も割とまとまってましたね。

吉井 で、ユリの場合はストーリーによって性格が多少変わっていたりした。まあ、女性の気まぐれさだと解釈して下さい。

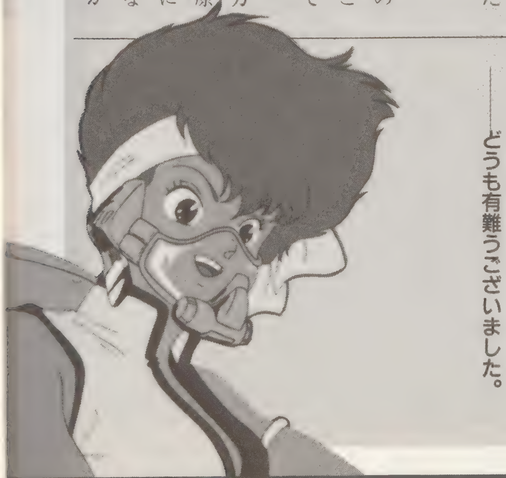
――それでは最後に、これからの抱負としてどういう作品をやっていきたいとお考えですか?

吉井 うーん、理想をいえば老若男女を問わず、特に子供が楽しめる大衆娯楽アニメーション。個人的に時代の代弁者であったり、メッセージ作品の魅力は感じるけど余りにも私有化した露骨な作品には嫌悪感しか残りませんからね。

――どうも有難うございました。

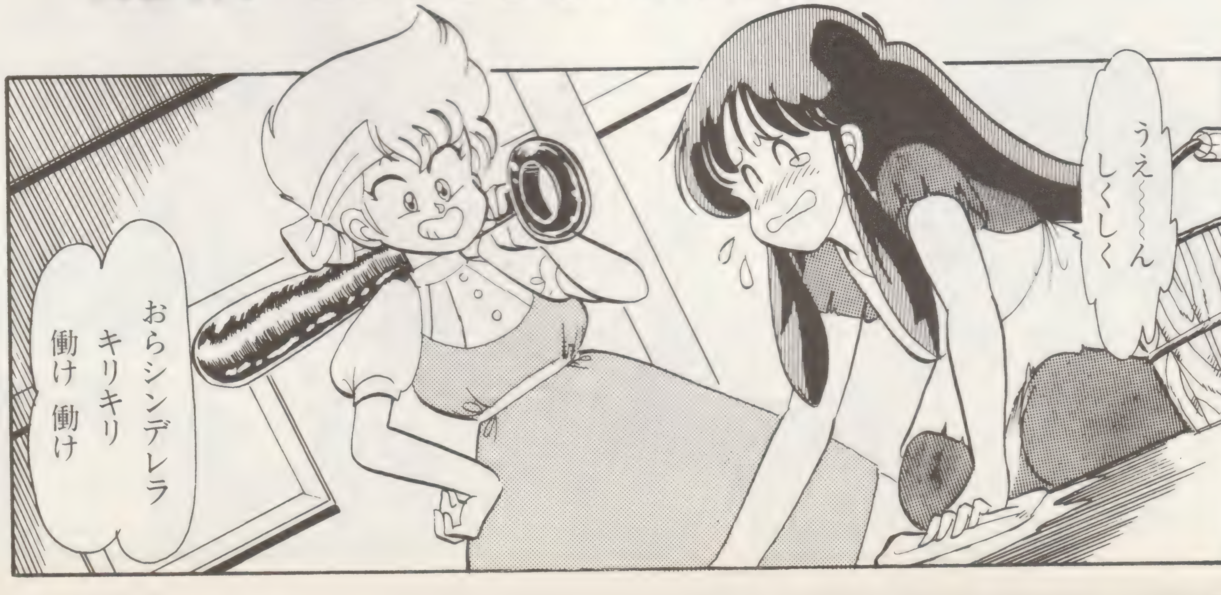
PROFILE

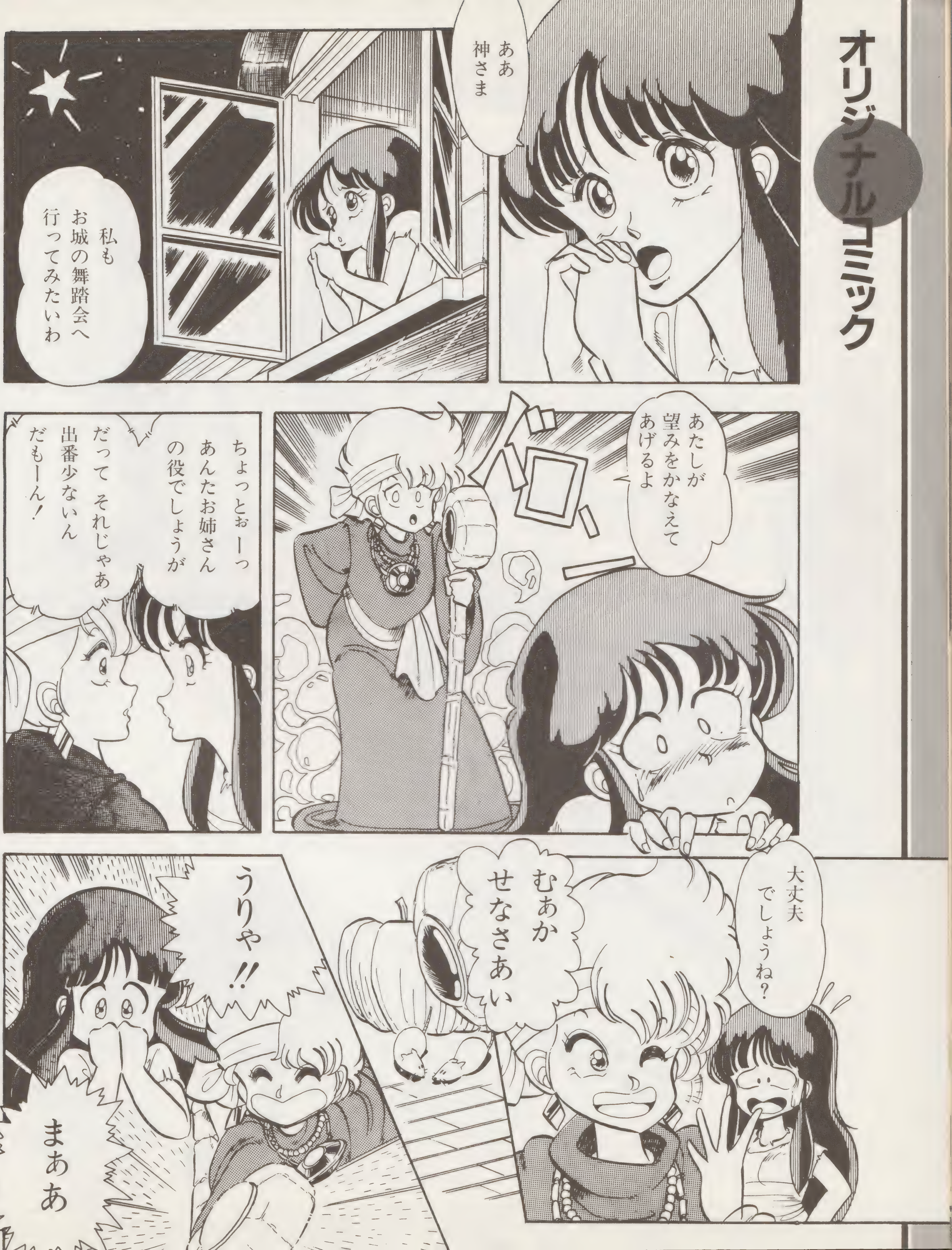
昭和20年代生まれ。8年程前、日本サンライズに入社。制作進行として『闘将ダイモス』を始めとする故・長浜忠夫作品や『ガンダム』などを担当した。その後『クラッシャージョー』で制作プロデュースに関わる。プロデューサーとして『劇場版ガンダム』や『巨神ゴーグ』そして『ダーティペア』を手掛け、現在に至っている。





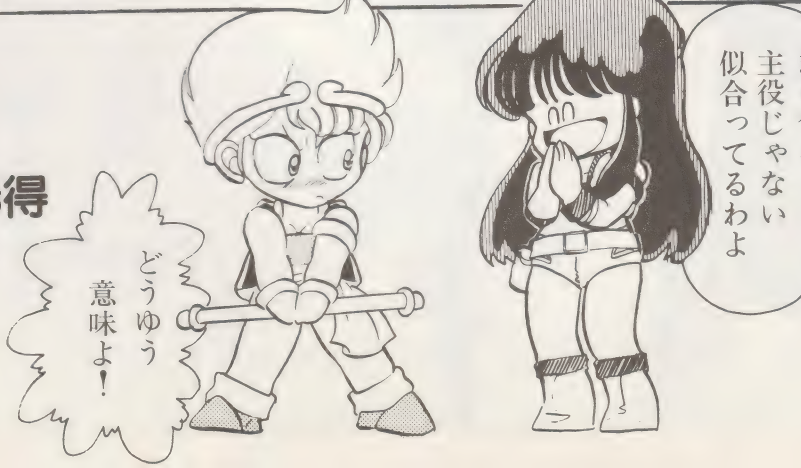
ACT.1 シンデレラのいじめ方教えます




ああ
神さま
私も
お城の舞踏会へ
行ってみたいわ
あたしが
望みをかなえて
あげるよ
ちょっとぉーっ
あんたお姉さん
の役でしょうが
だって それじゃあ
出番少ないいん
だもーん!
大丈夫
でしょうね?
むあか
せなさあい
うりゃ!!
まああ



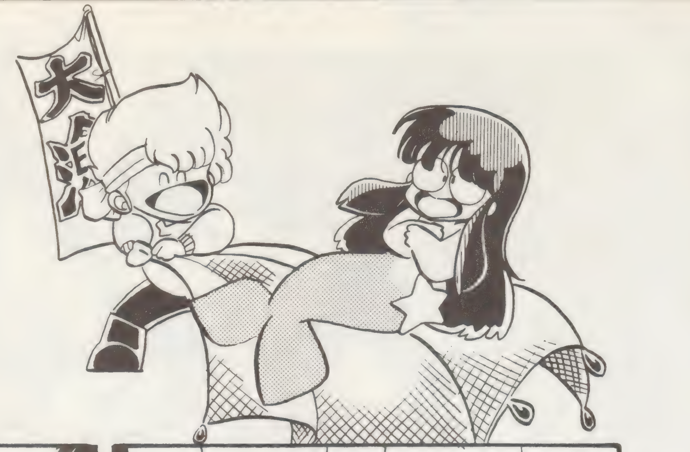
ACT.2
うちらを買って
用心棒にはお猿がお得

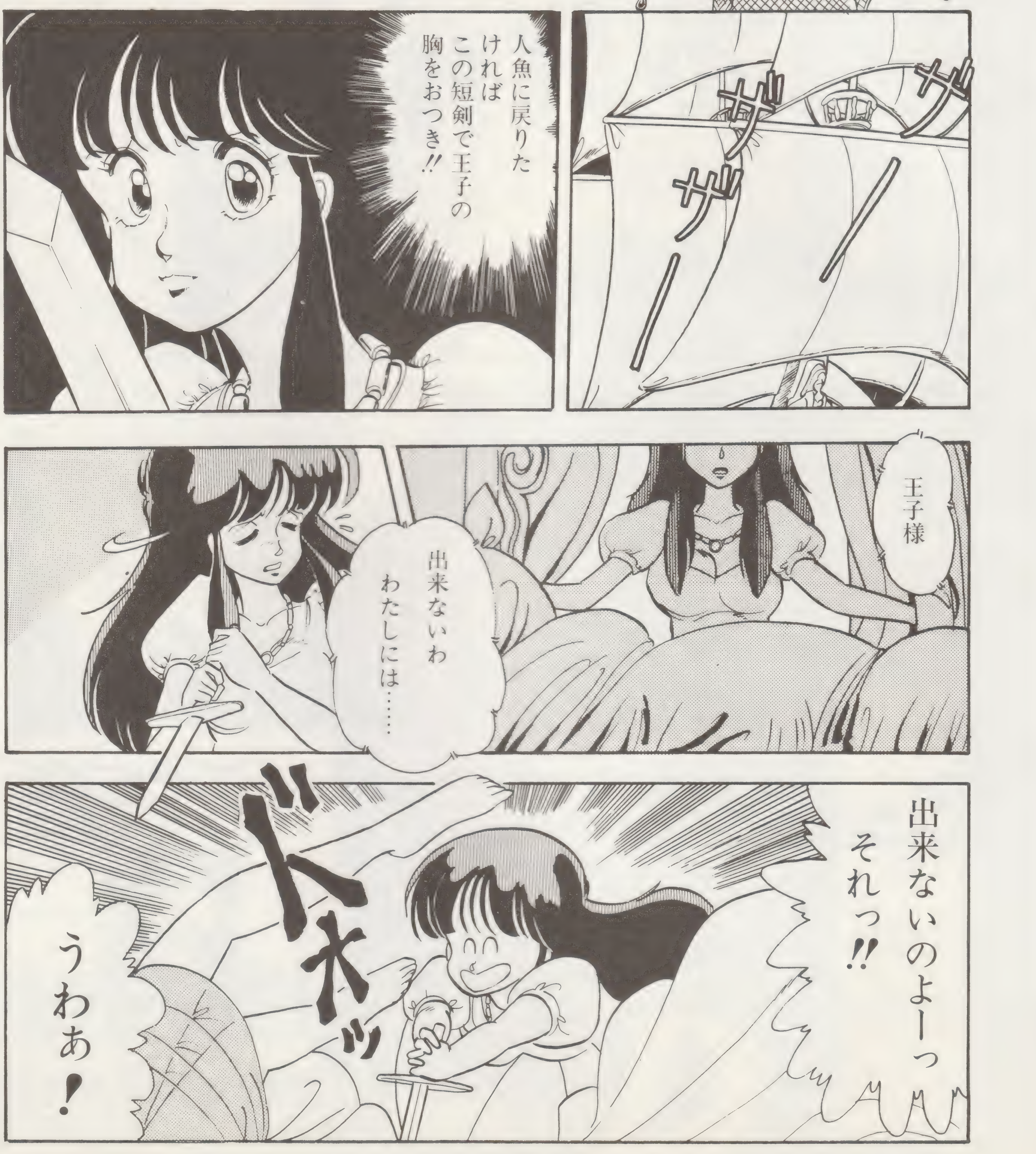



とおうりゃあーーっ
あー
いい汗かいちゃった
似合いすぎだわ
こりゃ

DIRTY PAIR

ACT.3
かなりマジ？
人魚姫は危険なおはなし

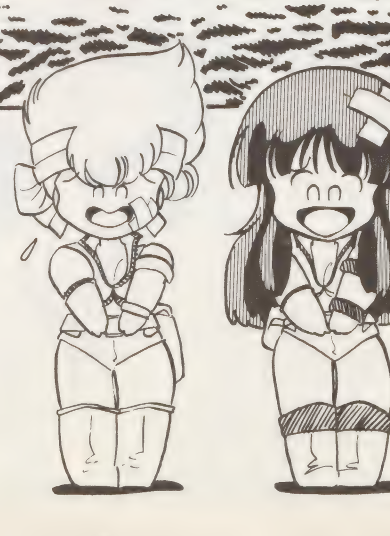




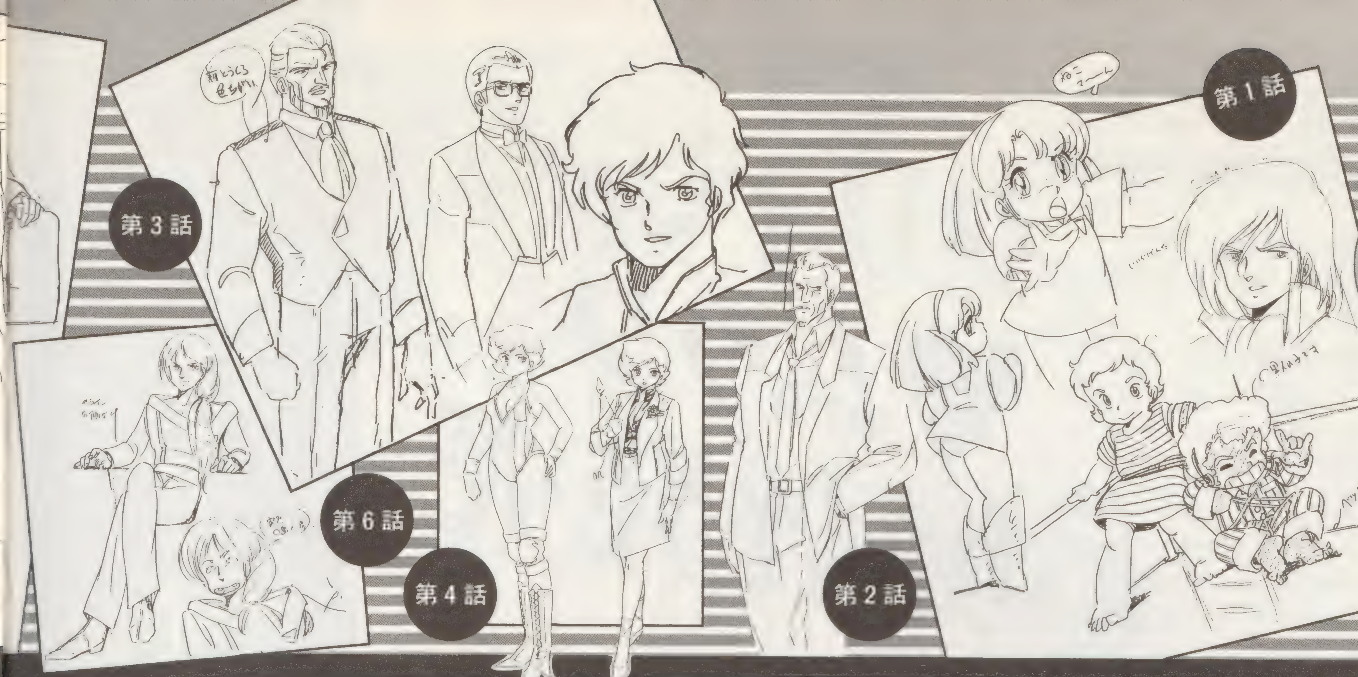


おそまつさまでした。

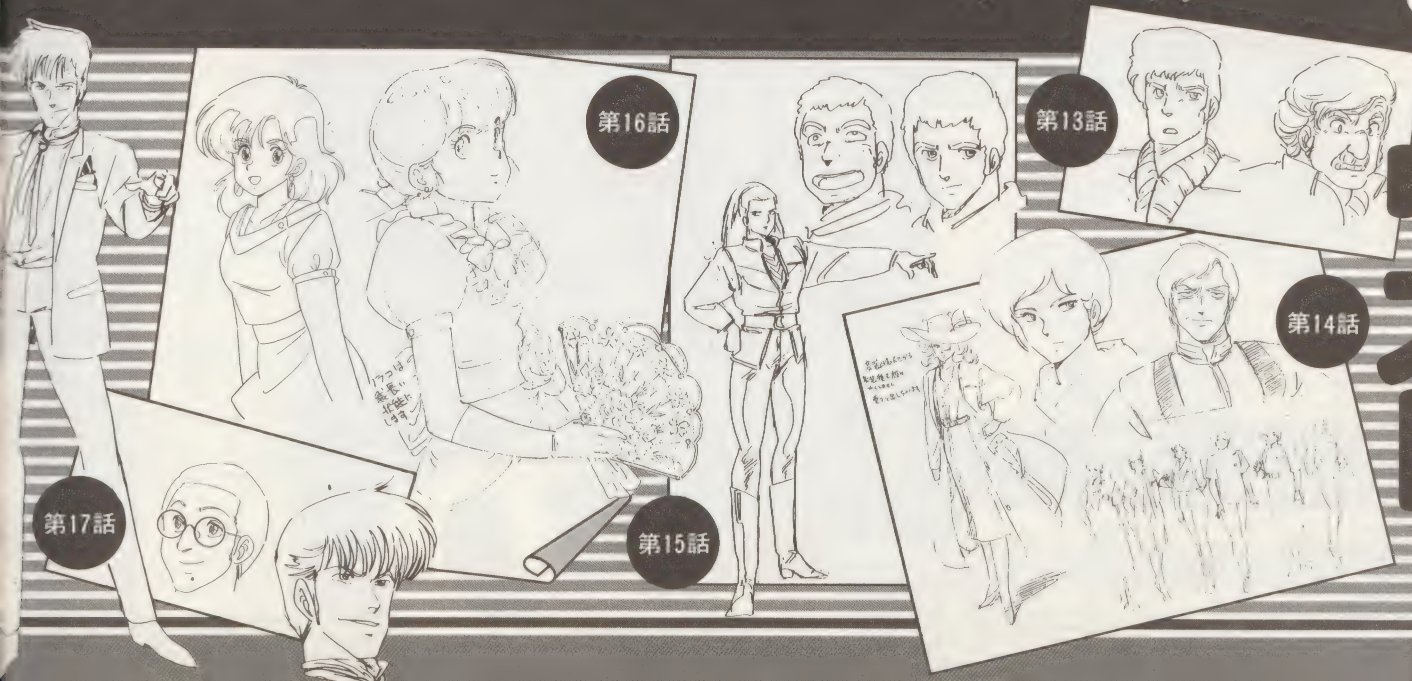
P.S
ビデオ版「ダーティペア」もよろしくね!!



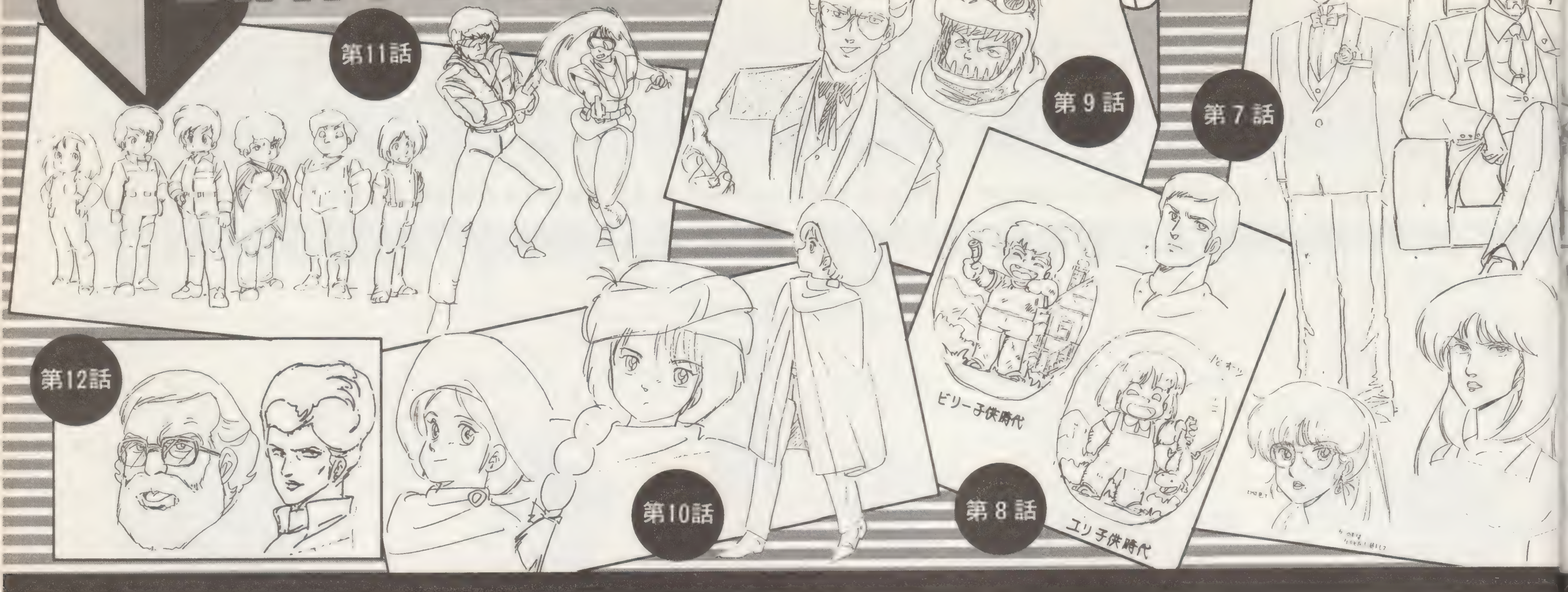
ユリとケイの サブキャラクターリスト



ケイ あによ～。なんであたいらがサブキャラクターの紹介なんかしなくちゃいけないのよ。
ユリ しょうがないじゃない。グーリー主任がやれって言うんだから…。じゃまず、第1話。この二人は…。
ケイ あ～っ、あのガキ～。おばさんと言いやがった～。
ユリ 押さえて押さえて。もう次、いくわよ。
ムギ むぎゃ～、みぎゃ。
ケイ え？あの女の子はちゃんと説明してくれ？「おっきいネコさん」と言ってくれた？なんのこっちゃ？
ユリ ムギってロリコンだったのね。じゃ次は美形の…。
ケイ 時間がないから第2話にいくよ。
ユリ んもう。…この話は大先輩のグレーブさん。
ケイ ちょっとかわいくなかったけど、ナイスガイ。
ユリ 第3話は、何といっても渋～いキングおじさま♡
ケイ この話はシドニーを最初に出すべきじゃない？
ユリ あら、シドニーにまだ気があったようね？
ケイ 誰が…次、第4話。あたしの憧れを壊してくれた、ザ・エレガンスのラン。いい腕していたのにな～。
ユリ 5話は飛ばして第6話。ケイのお友達のカイヤ…。
ケイ 誰が友達だって？知らんよ、あんな奴。次いこ。
ユリ 第7話は大金持ちのゴールドジェフ氏と息子のクリッキー。そして、その彼女（？）のジョアンカ。
ケイ さらに愛人の秘書もいるね～。
ユリ 第8話は…ビリー…。
ケイ お姿を拝見できなかったので、ロケットの写真で代用しました。あと、研究所員もついでに…と。
ユリ 第9話は数が多いので、それぞれのシンジケートから一人づつ代表に出てもらいました。
ケイ ジェリコってキザ野郎に、ブロッコね…。
ユリ …ということで、第10話。
ケイ 弱冠12才で大学生のヒース王子様。
ユリ それと途中で助けてくれたジプシーのリタも…。
ケイ あ～っ！今度は、惑星コルドのガキだ！
ユリ いちいちわめかないでよ。ピートとモエラまでいるんだから。まったくロクなことがなかったわ、第11話って。…ねえ、ケイ。第12話やらない？
ケイ あたしだってやだよ、ファンゴリア主任とゲッシ



DIRTY PAIR



ユリ　―教授の説明なんて…。ねえ、次いこ。

ケイ　あはは。という訳で、第13話。第1話でもお世話になったダモクレスタワーの管理部長と、新しく着任なさった当直主任さん。

ユリ　第14話は、あたしがあのパンドラ金庫で捕まえた変装の名人フィルに、

ケイ　WWWAの女子職員たち。

ユリ　なんで女子だけなんだって？そんなやぼなこと言わないの。え～っと、第15話は…っと。

ナンモ　パプープ。ピプ。

ユリ　ナンモの申し出により、にんにくのジョーじいさんはカットし、その助手だったクレメンタインを紹介することにしました。

ケイ　あと、崩れた二枚目のステファンも出しとくか…。

ユリ　第16話は、世間知らずのサクラコさま！

ケイ　ヨロズヤコンツェルンの社長だか、なんだか知らないけどね…。ま、いいか。

ユリ　次は、暗殺者サンデリックの第17話…。

ケイ　いやっほ～。ボビット・ヒューイよ！

ユリ　あちゃ～。始まちゃった…。

ケイ　なに言っているの。あたしはユリとは違うんよ。

ユリ　はいはい。で、第18話はB・Jね。第19話は…。

ケイ　異常体質のレアモンとメイドのミラルダ。あれ、もうひとりいるなあ。誰だっけ？

ユリ　うちらが壊しちゃった人形のメシューゼラでしょ。

ケイ　まあまあ、じゃ次いこ。第20話ね。

ユリ　いままでで一番渋かった殺し屋ブルースと、

ケイ　クリィミーギャルコンテストの今年の女王。なんで、こんなのまで紹介しなくちゃいけないのよ。

ユリ　どうせ主任の趣味でしょうね…。

ケイ　第21話と第22話はいっしょにして、このロス一家を大紹介！

ユリ　そして第23話は、この…。

ケイ　素敵なダニエル。

ユリ　あによ～。なにが言いたいのよ。

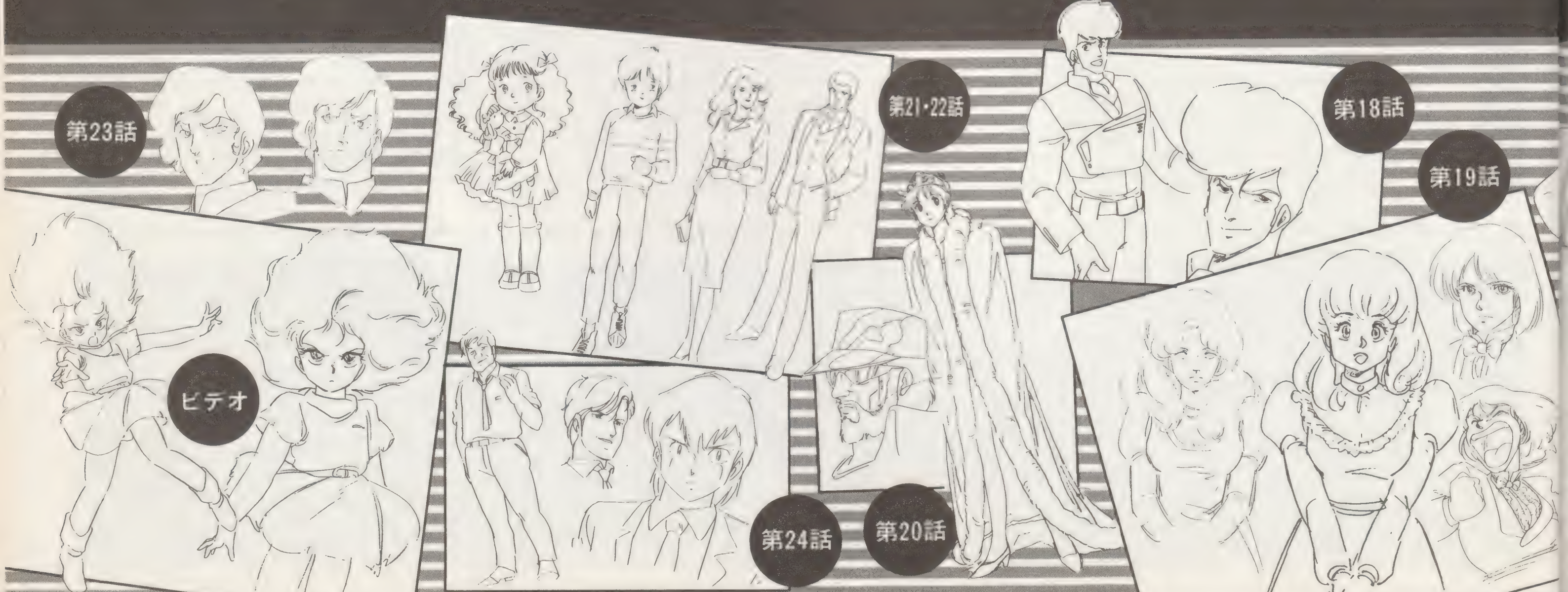
ケイ　いえ、別になにも。…それよりユリさん、番外編が残っていませんか？

ユリ　そうそう、美形は美形でもまるでマンガみたいな超美形のセールスマンBと、猫目のC君。

ケイ　そして犯人だった男。あれ、ひとり抜けてる。

ユリ　いいのいいの。最後におまけとして、ビデオからミスニーちゃんを紹介しておきましょう。

ケイ・ユリ　主任、終わりましたよ～。



STAFF&CAST LIST

撮影	枝光弘明
音楽	木森敏之
主題歌	「ロ・ロ・ロ・ロシアン・ルーレット」 作詩・作曲・唄　中原めいこ(東芝EMI)
プロデューサー	初川則夫(日本テレビ) 吉井孝幸(日本サンライズ)
製作	日本サンライズ

メインキャスト

ケイ	頓宮恭子
ユリ	島津冴子
ムギ／ナンモ	巻島直樹
グーリー主任	沢木郁也
ナレーション	蟹江榮司

DIRTY PAIR

15話	ここ掘れニャンニャン 果報は最後にやってくる (10／28)	金春智子	水谷貴哉 曽我部孝	土器手司 石津泰志	辻　初樹 佐藤雄三	佐藤雄三／市下　聡 中矢　卓／松原徳弘 志村　泉／塚本　篤	伊藤由起子	時永宣幸／榎本富士香 新屋真智子／北野由美子 酒井美雪／スタジオぎゃろっぷ	村井弘子／佐藤輝信 高屋法子／大沼隆一 村山得江／高波美好	メカマン
16話	まかせなさい！ WWWAは素敵なお仕事 (11／4)	金春智子	篠　幸裕 菊池一仁	大貫健一 石津泰志	大貫健一	村中博美／中島美子 山本佐和子／黄瀬和哉 アニメ・アール	清島孝一郎	上條　修／福江光恵 大島康弘／吉田和世 菅澤摩美佳／やぶもとえりこ	橋場喜代美／橘田昌典 荒井宏子／加茂美栄子 東　浩行	スタジオWHO
17話	出てこい出てこい！ 暗殺者 (11／11)	島田　満	水谷貴哉 水谷貴哉	土器手司 石津泰志	辻　初樹	佐藤雄三／松原徳弘 市下　聡／志村　泉 小林一三／塚本　篤	長谷川真浩	片田敬信／北野由美子 榎本富士香／酒井美雪 動画工房／スタジオぎゃろっぷ	長尾　仁／長江　強 美波宏之／中原英統 北村由利子／佐藤美千代	アトリエII
18話	ごめんあそばせ 走る迷惑　強行突破！ (11／18)	大川俊道	棚沢　隆 菊池一仁	土器手司 石津泰志	下田正美	坪川　正／中山勝一 嘉村弘之／新房昭之 いまぐましんいさ／動画工房		松下弥生／高橋勇治 神原よしみ／北村としひろ 石井邦俊／水谷貴代	勝井和子／西川増水 石川　満／林　良高 吉村敏樹／三沢千代枝	アートランド
19話	恋の恨みと逆恨み 恨みはらさず愛させて (11／25)	井上敏樹	水谷貴哉 辻　初樹	土器手司 塚本　篤	辻　初樹 松原徳弘	佐藤雄三／松原徳弘 市下　聡／志村　泉 中矢　卓／塚本　篤	片田敬信	長谷川真吾／北野由美子 榎本富士香／酒井美雪 新屋真智子／スタジオぎゃろっぷ	形山　正／木村真二 加藤賢司／田中貞彦 縫部文江／梶　信幸	小林プロダクション
20話	追憶のブルースは 殺しのBGM (12／2)	寺田憲史	鹿島典夫 鹿島典夫	大貫健一 石津泰志	大貫健一	靍山　修／おちあいなおと 坂本三郎／横田博之 遠藤麻未／稲葉　仁	清島孝一郎	平瀬弘英／桑沢和世 大谷久美子／岩柳恵美子 高橋良行／平田量也	勝井和子／西川増水 石川　満／林　良高 吉村敏幸／三沢千代枝	アートランド
21話	うっそー！ 消えた463人？ (12／9)	大川俊道	冨永恒雄 菊池一仁	佐久間信行 石津泰志	靍山　修	榎本明広／高橋久美子 坂本三郎／藤岡正宜	清島孝一郎	松野悦子／吉田和也 小池あゆみ／木村光雅 塚田　明／中村兼一郎	勝井和子／石川　満 吉村敏幸／西川増水 林　良高／三沢千代枝	アートランド
22話	やったね！ 出てきた463人 (12／16)	大川俊道	栗山美秀 菊池一仁	佐久間信行 石津泰志	佐久間信計	広田麻由美／和泉絹子 桜井芳久／今野博士 酒井啓史／アニメロマン	清島考一郎	小林美加子／森　悦史 高橋良行／桑沢和也 岩柳恵美子／平田量也	村井弘子／岡田有章 甲斐政俊／佐藤正治 千葉　薫／斎藤弘郎	メカマン
23話	不安だわ…!? うちらの華麗なる報復 (12／23)	島田　満	篠　幸裕 網野哲朗	土器手司 石津泰志	土器手司	和泉絹子／大滝友子 中野章子／坂本三郎 冨沢雄三／酒井啓史	片田敬信	平瀬弘英／大谷久美子 高橋良行／桑沢和也 岩柳恵美子／平田量也	橋場喜代美／新井宏子 東　浩行／橘田昌典 加茂美栄子	スタジオWHO
24話	かなりマジ？　マンションは危険なアドレス (12／26)	井上敏樹	水谷貴哉 水谷貴哉	佐藤雄三 松原徳弘 塚本　篤	松原徳弘 佐藤雄三	佐藤雄三／市下　聡 中矢　卓／松原徳弘 志村　泉／小林直美	皆川晴輝	森　悦史／うさぎ屋 G N C／松野悦子 高橋良行／スタジオフー・ビー	勝井和子／石川　満 吉村敏幸／西川増水 森　良高／三沢千代枝	アートランド

オリジナルビデオ〈ダーティペアの大勝負・ノーランディアの謎〉

―― データー ――

●発売／バンダイグループ㈱ネットワーク・フロンティア事業部 ●販売／㈱ＡＥ企画 ●発売日／1985年12月21日 ●商品番号／VHS：BES-150／Beta：BEB-150 ●記録／カラー55分録画・ステレオHiFi録音 ●定価／９８００円

―― スタッフ ――

●脚本……伊藤和典 ●監督……奥脇雅晴 ●キャラクターデザイン・作画監修……土器手司 ●メカニカルデザイン……石津泰志（スタジオぬえ） ●音楽……国本佳宏 ●主題歌……「愛・ever-本佳宏 ●主題歌……「愛・eve-lastig」 ●作詞……今村未仁 ●作編曲……国本佳宏 ●歌……槇　奏子 ●音楽制作……サンライズ音楽出版㈱／指田英司 ●協力……㈱エヌ・ツー／石黒典生 ●音響監督……山田悦司 ●効果……松田昭彦フィズサウンド ●調整……中戸川次男 ●録音……ＡＰＵスタジオ ●録音制作……オーディオ・プランニング・ユー ●美術監督……藤江優子 ●撮影監督……白井敏雄 ●原画……前島健一／川筋　豊／滝沢明美／四分一節子／古川佳正／佐々木正克／鈴木伸一／松田芳明／小椋真由美／飯村一夫／櫻澤裕美／北崎正浩／木川純一／阿部　恒／小園元祥／清山滋崇／酒井啓史／和泉絹子／神原敏昭／加藤義貴 ●動画チェック……関口重晴／安蒜俊江 ●動画……伏田光宏／村上暢康／角　弘光／結城信子／鈴木浩美／平尾昌子／加々美淳／佐藤利恵子／前川博信／吉野真一／長谷川浩司／比毛晴美／福島史士／行木富美子／吉沢八重子／山中　泉／西野理恵／日本サンライズ ●色指定……小野原浩美 ●仕上……ジャスト／清田みどり／鈴木雅美／千葉清枝／吉田麻紀子／小野原浩美／峰崎裕子／五十嵐真澄／皆川久美子／中村真弓／栗原博子／山口明世 ●仕上助手……歌川律子 ●特殊効果……千場　豊 ●背景……藤江優子／川名俊英／遠山麻理子／鈴木国生／植松早千代／東條俊寿／摸プロダクション ●撮影……森口洋輔／白井敏雄／木元雅信／松田　昇／土屋裕子／千葉　伸／阪本生長／新宮啓一／浦竹秀明／井野清志／岡野英月子 ●タイトルデザイン……安食光弘 ●編集……鶴渕映画 ●作画監督……清水恵蔵／小林ゆかり ●絵コンテ・演出……奥脇雅晴 ●演出助手……森川　滋 ●制作進行……安蒜清一／丸谷尚之 ●制作デスク……山本元文 ●制作事務……赤岩由利子 ●制作プロデューサー……長谷川徹

―― キャスト ――

●ユリ……島津冴子 ●ケイ……頓宮恭子 ●ミスニー……潘　恵子 ●サマラ……藤田淑子 ●コニー……高島雅羅 ●オラン……池田　勝 ●ユルジス……銀河万丈 ●ムギ……巻島直樹 ●WWWA上司……天地麦人 ●岸田博士……キートン・山田 ●稲葉実／梅津秀行／小野健一

DIRTY PAIR

ＴＶシリーズ

データー

放送期間……1985年7月15日～1985年12月26日
放送曜日……毎週月曜日
放送時間……19時00分～19時30分
……※♯24のみ木曜日18時00分～18時30分
放送回数……全24回

メイン・スタッフ

原作……高千穂　遙(早川書房刊「ダーティ・ペアの大冒険」より)
監督……(♯１～13)滝沢敏文
……(♯14～24)鹿島典夫
キャラクターデザイン……土器手司
メカニックデザイン……阿久津潤一(スタジオぬえ)
ユニフォームデザイン……細野不二彦
美術……中村光毅／三浦　智
美術デザイン……岡田有章／佐藤正浩
音響……千葉耕市

DIRTY PAIR

話数	サブタイトル（放映日）	脚本	演出 絵コンテ	ゲストキャラクターデザイン／ゲストメカニックデザイン	作画監督	原画	動画チェック	動画	背景	
1話	コンピューターの殺し方 教えます （7／15）	伊藤和典	加瀬充子 滝沢敏文		土器手司	榎本明広／桜井芳久 広田真由美／高橋久美子 金森賢二／佐藤　元	松野悦子	竹之内節子／小池あゆみ 岩長幸一／高橋良行 吉浜久美子／岩柳恵美子	佐藤正浩／岡田有章 三浦　智／杉山祐子 吉崎正樹／佐藤輝信	メカマン
2話	可愛い天使は 胸毛がお好き？ （7／22）	星山博之	石田昌久 網野哲朗	大貫健一 石津泰志	冨沢雄三	冨沢雄三／広田真由美 増尾昭一／大貫健一 山崎　理／桜井芳久	清島孝一郎	平瀬弘英／坂倉百合子 大谷久美子／石割悦子 上田和子／原田英樹	佐藤正浩／岡田有章 下野貴美子／吉崎正樹 大沼隆一／高屋法子	メカマン
3話	勝手に惚れな！ 恋はロシアンルーレット （7／29）	伊藤和典	鹿島典夫 鹿島典夫		羅山　修	冨沢雄三／坂本三郎 山崎　理／向山祐治 酒井啓史／羅山　修	大市隆司	池原百合子／平田量也 小川悦子／スタジオMAX 春日久美子／動画工房	鷲崎　博／吉田俊一 大山　哲／三ノ輪京子 稲葉靖之／朝日孝枝	スタジオ ロフト
4話	追跡はチーズケーキと 死のにおい （8／5）	井上敏樹	浜津　守 浜津　守		大貫健一	佐野浩敏／金森勝真 増尾昭一／合田浩章 大貫健一／ラストハウス	大市隆司	スタジオ雲雀／冨松由紀夫 佐藤玲子／工藤千恵子 磯野　智／小須田ひろみ	藤井和子／西川増水 石川　満／林　良高 吉村敏幸／三沢千代枝	アート ランド
5話	クリアドスの どっくんどっくん！ （8／12）	島田　満	加瀬充子 加瀬充子		土器手司	榎本明広／桜井芳久 広田真由美／高橋久美子 金森賢二／坂本三郎	大市隆司	松野悦子／福本千津子 宇佐美俊和／作画グループどんぐり スタジオライオンズ／塚田　明	勝井和子／西川増水 石川　満／林　良高 吉村敏幸／三沢千代枝	アート ランド
6話	危険がいっぱい ダミーがいっぱい （8／19）	塚本裕美子	篠　幸裕 網野哲朗	土器手司 石津泰志	佐久間信計	佐久間信計／坂本三郎 三坂　徹／アートランド 森川定美／小沢尚子	松野悦子	池原百合子／平田量也 小川悦子／アドコスモ 春日久美子／桑沢和世	村井弘子／大沼隆一 杉山祐子／村山得江 千葉　薫／高波美好	メカマン
7話	愛こそすべて 命賭けます逃避行!! （8／26）	井上敏樹	浜津　守 浜津　守	大貫健一 石津泰志	大貫健一	山崎　理／増尾昭一 大貫健一／アートランド 二村秀樹／吉村欣二	松野悦子	スタジオ雲雀／冨松由紀夫 佐藤玲子／工藤千恵子 磯野　智／小須野ひろみ	鷲崎　博／吉田俊一 大山　哲／三ノ輪京子 稲葉靖之／朝日孝枝	スタジオ ロフト
8話	やるっきゃあない！ 恋は女の起爆剤 （9／2）	大川俊道	篠　幸裕 網野哲朗	土器手司 石津泰志	土器手司	榎本明広／高橋久美子 スタジオタブ／古泉浩司 西村誠芳	清島孝一郎	小林美加子／桑沢和世 森　悦史／岩柳恵美子 高橋良行／平田量也	橋場喜代美／橘田昌典 荒井宏子／加茂美栄子 東　浩行	スタジオ ＷＨＯ
9話	うちらを買って！ 用心棒には美人がお得 （9／16）	平野靖士	石田昌久 石田昌久	土器手司 石津泰志	羅山　修	小椋真由美／鈴木伸一 前島健一／スタジオタブ 松下佳弘／金森賢二	松野悦子	平瀬弘英／坂倉百合子 大谷久美子／石割悦子 上田和子／原田英樹	勝井和子／西川増水 石川　満／林　良高 吉村敏幸／三沢千代枝	アート ランド
10話	えーつっっ？ うちらが凶悪誘拐犯 （9／23）	金春智子	水谷貴哉 義谷六夫		辻　初樹	佐藤雄三／松原徳弘 市下　聡／志村　泉 小林一三／塚本　篤	片田敬信	長谷川真吾／北野由美子 榎本冨士香／酒井美雪 新屋真智子／スタジオぎゃろっぷ	岡田有章／吉崎正樹 佐藤正浩／杉山祐子 村山得江／木下和宏	メカマン
11話	ホホホ　ドレスと男は おニューに限る （9／30）	島田　満	菊池一仁 菊池一仁	土器手司 石津泰志	羅山　修	神宮　慧／結城信輝 酒井啓史／二村秀樹 小沢尚子／藤高栄光	清野孝一郎	松野悦子／福本千津子 小川悦子／塚田　明 小池あゆみ／磯野　智	千葉　薫／吉崎正樹 橋場喜代美／荒井宏子 加茂美栄子／スタジオWHO	メカマン
12話	小さな独裁者！ 触らぬ機密にたたりなし （10／7）	平野靖士	浜津　守 浜津　守	土器手司 石津泰志	土器手司	榎本明広／高橋義則 金森賢二／遠藤麻未 高橋久美子／神宮　慧	山崎　茂	松野悦子／福本千津子 小川悦子／塚田　明 小池あゆみ／磯野　智	橘田昌典／中塚博久 橋場喜代美／加茂美栄子 荒井宏子／東　浩行	Ｓ　Ｆ
13話	何よこれ！ 玉のお肌がドロンドロン （10／14）	伊藤和典	篠　幸裕 菊池一仁	土器手司 石津泰志	冨沢雄三	冨沢雄三／神宮　慧 坂本三郎／中島美子 山本佐和子／黄瀬和哉	大市隆司	池原百合子／小川悦子 春日久美子／平田量也 スタジオMAX／動画工房	村山得江／杉山祐子 千葉　薫／高波美好 高屋法子／村井弘子	メカマン
14話	金庫か選挙か？ 演説会は殺人びより （10／21）	平野靖士	棚沢　隆 棚沢　隆	土器手司 石津泰志	冨沢雄三	広田麻由美／和泉絹子 池上裕之／藤岡正宜 酒井啓史／小山善考	清島孝一郎	平瀬弘英／大谷久美子 上田和子／坂倉百合子 石割悦子／原田英樹	勝井和子／西川増水 石川　満／林　良高 吉村敏樹／三沢千代枝	アート ランド

DIRTY PAIR

アニメイト・コレクション②

ダーティペア♥ムック

スーパー・パーフェクト・ムック

1986年1月15日発行
発行所／株式会社ムービック©1986
〒171 東京都豊島区池袋 2—953
小林興産ビル1階Tel03(982)1222
発行者／高橋 豊

Editorial Staff■松下一美(chief editor)■スタジオファイナル／寺田洋一(editor)■渡部孝雄(art director)■さにい・パンセ(layouter)
協力■㈱日本サンライズ（真野昇／飯塚正夫／富田民幸）■日本テレビ音楽㈱(川越弘之)■バンダイグループ㈱ネットワーク・フロンティア事業部(鵜之沢伸)■敬称略■
Special Thanks to DIRTY PAIR'S STAFF

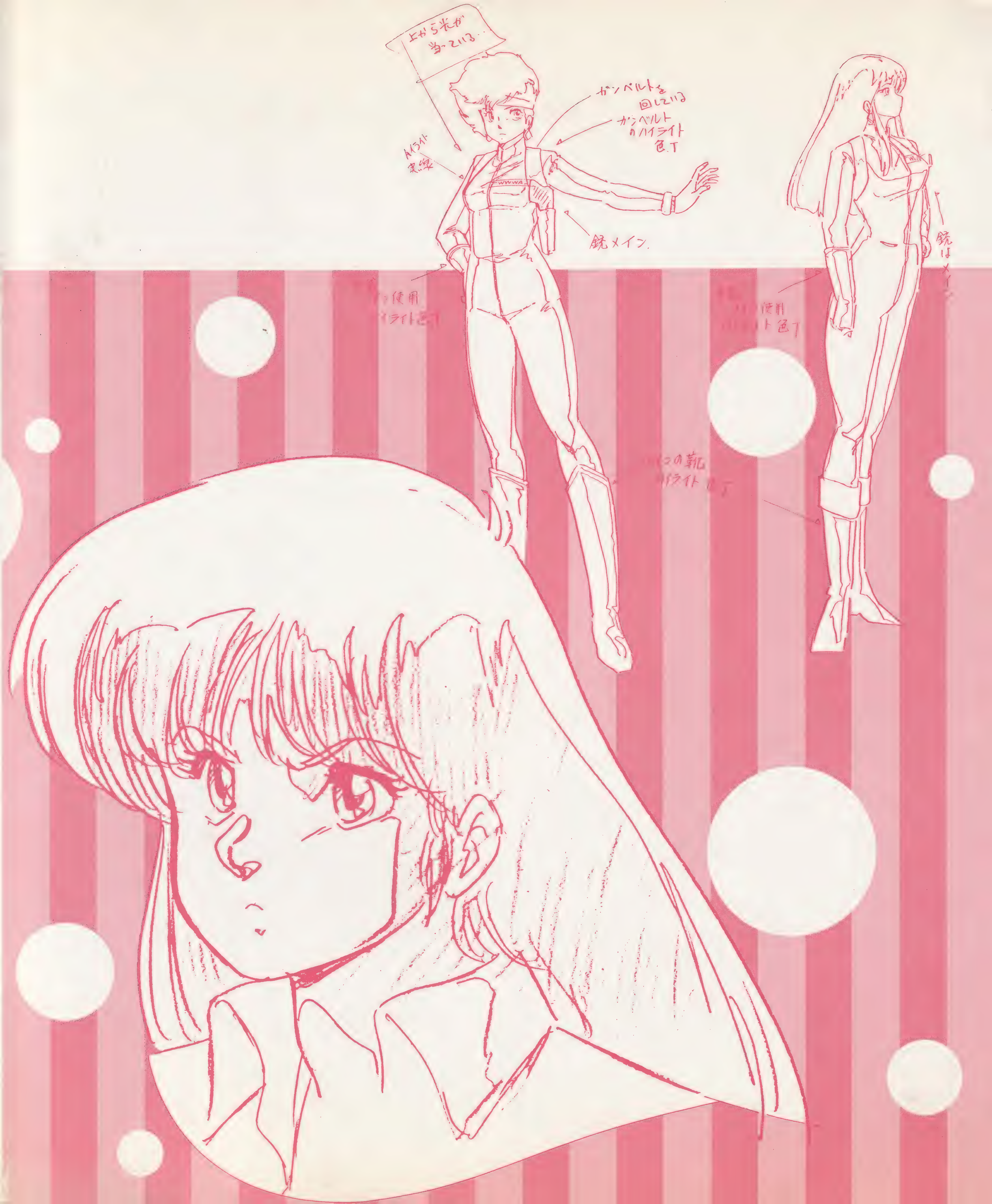
CONTENTS

ISBN4-943966-01-2 C0274 ¥1000E



DIRTY PAIR MOOK




上から光が当っている
ガンベルトを回している
ガンベルトのハイライト色T
ハイライト実線
銃メイン.
WWWA
銃はメイン

アニメイト・コレクション②

ダーティペア♥ムック

スーパー・パーフェクト・ムック

ILLUSTRATION● 影次（えいじ） ケイ

YURIの着せかえしおり





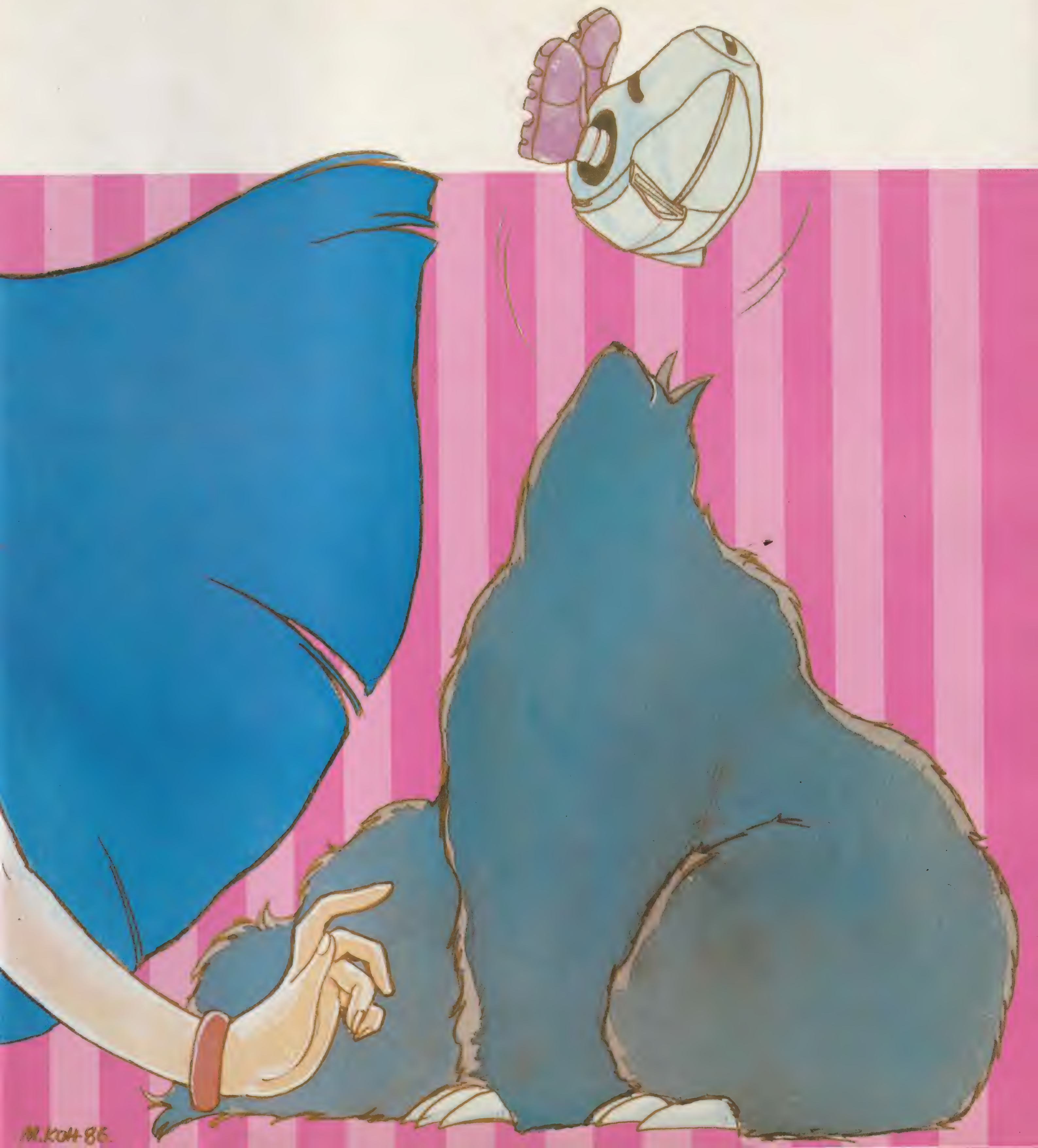


ユリ data

2122年３月18日、惑星ヨーチャ生。19歳。魚座。血液型Ａ型。身長168cm・体重55kg。B84・W56・H90cm。

●発行／株式会社ムービック●定価／1,000円

ISBN4-943966-01-2 C0274 ¥1000E



アニメイト・コレクション②

ダーティペア♥ムック

スーパー・パーフェクト・ムック

郵便はがき

恐縮ですが40
円の切手をお
はりください

171-□□

東京都豊島区池袋二―九五三
小林興産ビル一階

㈱ムービック 行

ダーティペア♥ムック

住所　郵便番号(　　　　　)			
電話番号　(　　　　)			
氏名			
性別　男・女　職業	(学年　　　　)	年齢	歳

『ダーティペア♥ムック』をお買い上げ頂きまして有り難うございました。貴方様のご意見をこれからの出版企画の参考にさせて頂きたいと思いますので、お手数ながら下記のアンケートにご協力をお願い致します。アンケートにご協力を頂いた方の中から、抽選で100名の方に記念品をお贈り致します。(発表は発送にて換えさせて頂きます。)

1本誌を何で知りましたか。 A雑誌広告を見て(雑誌名　　　　　　　　)
B書店で見て　C友人から聞いて　Dその他(　　　　　　　　　　　　　　)

2本誌でおもしろかった記事三つに「○」、つまらなかった記事三つに「×」を付けてくださ
A表紙　B着せかえしおり　Cオリジナルイラストポスター／オリジナルイラスト　Dテレビシリーズ・第1～24話フィルム＆ストーリィ　Eテレビシリーズ・第23話名場面原画集　Fテレビシリーズ・第25～26話ストーリィダイジェスト　Gテレビスポットフィルム　H　オリジナルビデオ・ノーランディアの謎フィルム＆ストーリィ　Iオリジナルノベル・スクランブル・パッション　Jオリジナルコミック・世界MEISAKU昔ばなし　Kスタッフリレーインタビュー　Lケイとユリのサブキャラクターリスト　Mスタッフ＆キャストリスト

3「フィルム＆ストーリィ」のレイアウトはいかがでしたか。
A見やすかった　B見にくかった　C普通

A読みやすかった　B読みにくかった　C普通

5本誌の感想、意見を書いてください。
(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

6「アニメイト・コレクション」で出版企画して欲しい作品名を書いてください。
(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

7これから発売されるオリジナルビデオアニメで出版企画して欲しい作品に「○」を付けてください。
Aアモン・サーガ　B機甲界ガリアン　Cバリバリ伝説PortI＆II　Dバビ・ストックII　Eガルフォース／エターナルストーリー　F装甲騎兵ボトムズ　Gエブリシング　Hアイシティ　I戦え!!イクサー1 PortII　J装鬼兵M.D.GEISTビリオン・バスター　K県立地球防衛軍　Lウィンドリア

8定期購読している雑誌名を書いてください。
Aアニメ雑誌(　　　　　　　　　　　　　　　　　　)
Bマンガ雑誌(　　　　　　　　　　　　　　　　　　)
C他分野の雑誌(　　　　　　　　　　　　　　　　　)

売上カード

売上日　年　月　日

発行所名	誌名	著者名
株式会社ムービック 〒171 東京都豊島区池袋2―953 小林興産ビル1F Tel 03(982)1222	アニメイト・コレクション② ダーティペア♥ムック	
	定価 1,000円	

注文カード

取次店・書店名

注文冊数　冊

注文日

年　月　日

誌名	発行所名
アニメイト・コレクション② ダーティペア♥ムック	株式会社ムービック
	著者名
定価 1,000円	

ISBN4-943966-01-2 C0274 ¥1000E